



Cisco UCS S3260 CLI を使用して、サーバと Cisco UCS Manager リリース 4.0 との統合

初版：2018 年 8 月 14 日

最終更新：2019 年 1 月 2 日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>



目次

はじめに :

はじめに ix

対象読者 ix

表記法 ix

関連 Cisco UCS 資料 xi

マニュアルに関するフィードバック xi

第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報 1

新機能および変更された機能に関する情報 1

第 2 章

Cisco UCS S3260 システムについて 3

このマニュアルの使用方法 5

Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要 8

接続マトリックス 10

展開オプション 11

管理スルー Cisco UCS Manager 13

Server SIOC Connectivity 機能 14

PCIe スロットを持つ新規 SIOC 16

第 3 章

UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260 23

UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260 23

スタンドアロン Cisco UCS C3160 サーバから Cisco UCS S3260 サーバへの移行 24

スタンドアロン 3260 から UCSM 管理型 3260 への移行 24

スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ移行に関する前提条件 24

シャーシ HDD からのブート	25
スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 への移行	26
スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 [2.0(13) 以降のバージョン] への移行	28
システム IP アドレス	29
Cisco UCS Manager を使用したサーバポートの設定	30
管理対象の UCSM から移行Cisco UCS S3260管理 UCSM を M4 Cisco UCS S3260 M5	31
UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 からスタンドアロン Cisco UCS S3260 への移行	32

第 4 章

機器関連ポリシー 35

シャーシ ディスカバリ ポリシー	35
シャーシ/FEX ディスカバリ ポリシーの設定	36
シャーシ接続ポリシー	38
シャーシ接続ポリシーの設定	40

第 5 章

シャーシ プロファイル 43

シャーシ プロファイル Cisco UCS Manager	43
シャーシ プロファイルに関するガイドラインおよび推奨事項	44
シャーシ プロファイルの作成	44
シャーシ プロファイルの名前の変更	46
シャーシ プロファイルの削除	48
シャーシ プロファイルの関連付け	48
シャーシ プロファイルとシャーシの関連付け	48
シャーシ プロファイルとシャーシの関連付け解除	49
シャーシ プロファイル テンプレート	50
シャーシ プロファイル テンプレートの作成	50
シャーシ プロファイル テンプレートからのシャーシ プロファイル インスタンスの作成	52
シャーシ プロファイル テンプレートへのシャーシ プロファイルのバインディング	54
シャーシ プロファイル テンプレートからのシャーシ プロファイルのバインド解除	55
メンテナンス ポリシー	56

シャーシプロファイルメンテナンスポリシーの作成	56
シャーシプロファイル/シャーシプロファイルテンプレートのメンテナンスポリシーの設定	57
コンピューティング接続ポリシー	58
コンピューティング接続ポリシーの作成	58
コンピューティング接続ポリシーとシャーシプロファイルの関連付け	59

第 6 章

Cisco UCS S3260 システムストレージ管理	61
ストレージサーバ機能およびコンポーネントの概要	61
Cisco UCS S3260 ストレージ管理操作	71
高可用性のためのディスクの共有	72
ディスクゾーン分割ポリシー	72
ディスクゾーン分割ポリシーの作成	73
ディスクスロットの作成と所有権の割り当て	74
シャーシプロファイルへのディスクゾーン分割ポリシーの関連付け	76
ディスクの移行	76
ストレージエンクロージャ操作	78
シャーシレベルのストレージエンクロージャの削除	78
SAS エクспанダ設定ポリシー	79
SAS エクспанダ設定ポリシーの作成	79
SAS エクспанダ設定ポリシーの削除	80

第 7 章

ファームウェア管理	81
Cisco UCS S3260 システムのファームウェア管理	81
シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージによるファームウェアのアップグレード	83
シャーシファームウェアパッケージ	83
シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージを使用したファームウェアのアップグレードのステージ	85
シャーシプロファイルのファームウェアパッケージに対するアップデートの影響	85
シャーシファームウェアパッケージの作成または更新	86
Cisco UCS S3260 サーバを使用した UCS ドメインのアップグレード	88

S3260 シャーシ およびサーバエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード	89
シャーシエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード	91
シャーシ上の CMC ファームウェアのアップデートとアクティブ化	91
シャーシ上の シャーシアダプタ ファームウェアのアップデートおよびアクティブ化	94
シャーシの SAS エクспанダのファームウェアのアップデートおよびアクティブ化	97
シャーシのボード コントローラ ファームウェアのアクティブ化	99
サーバエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード	101
CIMC ファームウェアのアップデートおよびアクティブ化 Cisco UCS S3260 ストレージサーバ	101
BIOS ファームウェアのアップデートおよびアクティブ化 Cisco UCS S3260 ストレージサーバ	104
ボード コントローラ ファームウェアのアクティブ化 Cisco UCS S3260 ストレージサーバ	107

第 8 章

シャーシ管理 111

Cisco UCS S3260 シャーシ	111
シャーシの認識	112
シャーシの稼働中止	112
シャーシの削除	113
シャーシのロケータ LED の電源投入	114
シャーシのロケータ LED の電源切断	115

第 9 章

サーバ管理 117

Cisco UCS S3260 サーバ ノードの管理	117
サービス プロファイルからのサーバのブート	118
サーバの認識	119
サーバの電源再投入	119
サーバのシャットダウン	120
サーバのハード リセットの実行	121

Cisco UCS S3260 サーバ ノードの出荷時のデフォルト設定へのリセット	122
シャーシからのサーバの削除	124
サーバの稼働停止	125
サーバのロケータ LED の点灯	126
サーバのロケータ LED の消灯	127
すべてのメモリ エラーのリセット	128
IPMI の出荷時のデフォルト設定へのリセット	128
サーバの CIMC のリセット	129
サーバの CMOS のリセット	130
KVM のリセット	131
サーバからの NMI の発行	132
破損した BIOS のリカバリ	132
ヘルス LED アラーム	133
ヘルス LED ステータスの表示	134

第 10 章**SIOC 管理 135**

SIOC 管理 Cisco UCS Manager	135
SIOC の削除または交換	135
SIOC の認識	136
PCIe サポートがある SIOC に移行する	137
CMC のリセット	138
CMC セキュア ブート	139
CMC セキュア ブートの注意事項と制約事項	139
CMC セキュア ブートの有効化	139



はじめに

- [対象読者](#) (ix ページ)
- [表記法](#) (ix ページ)
- [関連 Cisco UCS 資料](#) (xi ページ)
- [マニュアルに関するフィードバック](#) (xi ページ)

対象読者

このガイドは、次の1つ以上に責任を持つ、専門知識を備えたデータセンター管理者を主な対象にしています。

- サーバ管理
- ストレージ管理
- ネットワーク管理
- ネットワーク セキュリティ

表記法

テキストのタイプ	説明
GUI 要素	タブの見出し、領域名、フィールドラベルなどの GUI 要素は、イタリック体 (italic) で示しています。 ウィンドウ、ダイアログボックス、ウィザードのタイトルなどのメインタイトルは、ボールド体 (bold) で示しています。
マニュアルのタイトル	マニュアルのタイトルは、イタリック体 (<i>italic</i>) で示しています。
TUI 要素	テキストベースのユーザインターフェイスでは、システムによって表示されるテキストは、courier フォントで示しています。

テキストのタイプ	説明
システム出力	システムが表示するターミナルセッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
CLI コマンド	CLI コマンドのキーワードは、 this font で示しています。 CLI コマンド内の変数は、イタリック体 (<i>this font</i>) で示しています。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{x y z}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!、#	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。ヒントには、トラブルシューティングや操作方法ではなく、ワンポイントアドバイスと同様に知っておくと役立つ情報が記述される場合もあります。



ワンポイントアドバイス

「時間の節約に役立つ操作」です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



警告 IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

This warning symbol means danger. You are in a situation that could cause bodily injury. Before you work on any equipment, be aware of the hazards involved with electrical circuitry and be familiar with standard practices for preventing accidents. Use the statement number provided at the end of each warning to locate its translation in the translated safety warnings that accompanied this device.

SAVE THESE INSTRUCTIONS

関連 Cisco UCS 資料

ドキュメント ロードマップ

すべての B シリーズ マニュアルの完全なリストについては、以下の URL で入手可能な『*Cisco UCS B-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。 https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/overview/guide/UCS_roadmap.html

すべての C-Series マニュアルの完全なリストについては、次の URL で入手可能な『*Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap*』を参照してください。 https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/overview/guide/ucs_rack_roadmap.html

管理用の UCS Manager と統合されたラック サーバでサポートされるファームウェアバージョンとサポートされる UCS Manager バージョンについては、『[Release Bundle Contents for Cisco UCS Software](#)』を参照してください。

その他のマニュアル リソース

ドキュメントの更新通知を受け取るには、[Cisco UCS Docs on Twitter](#) をフォローしてください。

マニュアルに関するフィードバック

このマニュアルに関する技術的なフィードバック、または誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、ucs-docfeedback@external.cisco.com までコメントをお送りください。ご協力をよろしくお願いいたします。



第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報

- [新機能および変更された機能に関する情報 \(1 ページ\)](#)

新機能および変更された機能に関する情報

Cisco UCS Manager のリリース 4.0(2a) の新規情報および変更情報

ここでは、Cisco UCS Manager、リリース 4.0(2a) の新機能および変更された動作について説明します。

表 1: Cisco UCS Manager、リリース 4.0(2a) の新機能と変更された動作

機能	説明	参照先
PCIe スロットのある新しい SIOC に対する NVMe OOB サポート	Cisco UCS S3260 システムは、S3260 M5 サーバを持つ新規サーバ SIOC、UCS-S3260-PCISIOC の NVMe OOB をサポートしています。	PCIe スロットを持つ新規 SIOC (16 ページ)
Cisco UCS VIC 1495	Cisco UCS Manager リリース 4.0(2a) では、Cisco UCS VIC 1495 は新世代の SIOC を持つ Cisco UCS 6300 シリーズ Fabric Interconnect をサポートしています。	接続マトリックス (10 ページ)

Cisco UCS Manager のリリース 4.0(1a) の新規情報および変更情報

ここでは、Cisco UCS Manager、リリース 4.0(1a) の新機能および変更された動作について説明します。

表 2: Cisco UCS Manager、リリース 4.0(1a)の新機能と変更された動作

機能	説明	参照先
PCIe スロットを持つ新規 SIOC	Cisco UCS S3260 システムは、S3260 M5 サーバを持つ新規サーバ SIOC、UCS-S3260-PCISIOC をサポートしています。	PCIe スロットを持つ新規 SIOC (16 ページ)
Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect	このリリースでは、40/100ギガビットアップリンクポートを使用してファブリック内の 10/25ギガビットポートをサポートするCisco UCS 6454 Fabric Interconnectが導入されました。	Cisco UCS S3260 システムアーキテクチャ概要 (8 ページ)
Cisco UCS VIC 1455	Cisco UCS Manager リリース 4.0(1a) では、Cisco UCS VIC 1455 は新世代の SIOC を持つ Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect をサポートしています。	接続マトリックス (10 ページ)



第 2 章

Cisco UCS S3260 システムについて

Cisco UCS S3260 は、サーバノードを 2 台搭載した高密度のストレージラックサーバで、ビッグデータ、クラウド、オブジェクトストレージ、コンテンツ配信などの環境で使用される大容量なデータセットに最適化されています。これは、Cisco UCS S シリーズラックマウントサーバ製品ファミリーに属しています。

Cisco UCS Manager リリース 3.1(3) から、Cisco UCS C3260/C3X60 は Cisco UCS S3260 に名称変更されました。システムの一部のコンポーネントが引き続き C3260/C3X60 として表示されることがあります。このリリースでは、用語 S3260 および C3260/C3X60 は同義で使用されます。S3260 と C3260/C3X60 のいずれも同じハードウェア コンポーネントを指します。

Cisco UCS Manager リリース 3.2(3) には、Cisco UCS S3260 M5 サーバが導入されています。Cisco UCS S3260 M5 サーバは、Cisco UCS S3260 と同じ方法で Cisco UCS Manager と統合します。このドキュメントの情報および手順は、Cisco UCS S3260 M4 と Cisco UCS S3260 M5 の両方のサーバに対して使用できます。

Cisco UCS S3260 システムは、スタンドアロン環境でも、Cisco UCS Manager 統合での Cisco Unified Computing System の一部としても動作するように設計されています。従来の製品の Cisco UCS C3160 とほぼ同じ特性を引き継いでいますが、次の機能が追加されています。

- デュアルポート 40Gbps をサポートする Cisco VIC 1300 シリーズの組み込みチップを含むシステム I/O コントローラ (SIOC)
- 最大 2 つのサーバモジュールのサポート
- スタンドアロンモードでも、Cisco UCS Manager と共にでも動作する機能
- 個々のハードディスクドライブ (HDD) は専用モードまたは共有モードのサーバに割り当てることができます

さらに、Cisco UCS S3260 システムのサーバスロットの 1 つは、3.5 インチドライブを 4 台追加するためのストレージ拡張モジュールで使用できます。また、サーバモジュールには、そのモジュール専用の内部ストレージとしてソリッドステートドライブ (SSD) を 2 台格納できます。シャーシは、個々のサーバモジュールに 3.5 インチドライブを割り当てるように設定できるシリアル接続 SCSI (SAS) エクспанダをサポートしています。

リリース 3.1(3) から、Cisco UCS S3260 システムでは次の機能がサポートされています。

- Server SIOC Connectivity 機能
- オプションの I/O エクспанダ モジュール内の 2 番目の RAID コントローラ
- デュアル HBA コントローラ



(注) Cisco UCS S3260 システムにデュアル HBA コントローラが搭載されている場合、Cisco UCS Manager を 3.1(3) より前のリリースにダウングレードすることはできません。

Cisco UCS S3260 システムで、両方のサーバにデュアル RAID コントローラまたはデュアル HBA コントローラが組み込まれてはなりません。コントローラ タイプの併用はサポートされていません。

Cisco UCS S3260 システムでは Server SIOC Connectivity 機能がサポートされています。シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されている場合、この機能を使用して、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を經由するデータパスを設定できます。詳細については、[Server SIOC Connectivity 機能 \(14 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco UCS S3260 システムでは、サーバ ノードの上部に接続するオプションの I/O エクспанダ モジュールの 2 番目の RAID コントローラがサポートされています。コントローラにゾーン分割されているディスクの数によっては、Cisco UCS Manager、BMC、CMC、および BIOS を 3.1(3) より前のリリースにダウングレードすることはできません。

コントローラの設定	ダウングレードが可能かどうか
サーバの 2 台のコントローラ（そのうちの 1 つはオプション I/O エクспанダ内のコントローラ）またはサーバの 1 台のコントローラ（オプション I/O エクспанダ内のコントローラ）と、1 台以上のディスクが、オプション I/O エクспанダ内のコントローラにゾーン分割されています。	いいえ
サーバの 2 台のコントローラ（そのうちの 1 つはオプション I/O エクспанダ内のコントローラ）またはサーバの 1 台のコントローラ（オプション I/O エクспанダ内のコントローラ）および 1 台以上のディスクが、オプション I/O エクспанダ内のコントローラに事前プロビジョニングされています。	いいえ

コントローラの設定	ダウングレードが可能かどうか
サーバの 2 台のコントローラ（そのうち 1 つはオプション I/O エクスパンダ内のコントローラ）またはサーバの 1 台のコントローラ（任意のスロット）およびディスクが、オプション I/O エクスパンダ内のコントローラにゾーン分割も事前プロビジョニングもされていません。	Yes

ライセンス要件

S3260 システム が FI にアプライアンスとして接続されている場合（アプライアンス ポート）または Cisco UCS Manager 管理対象ノード（サーバポート）として接続されている場合は、ライセンス ETH_PORT_ACTIVATION_PKG（6200/6400 FI の場合）、40G_ETH_PORT_ACTIVATION_PKG（6400 および 6300 FI - 6332 の場合）、および 10G_PORT_ACTIVATION_PKG（6300 FI - 6332-16UP の場合）を使用します。

ライセンス要件の詳細については、『Cisco UCS Manager Server Management Guide』の「Server License Management」の章を参照してください。

- [このマニュアルの使用方法（5 ページ）](#)
- [Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要（8 ページ）](#)
- [接続マトリックス（10 ページ）](#)
- [展開オプション（11 ページ）](#)
- [管理スルー Cisco UCS Manager（13 ページ）](#)
- [Server SIOC Connectivity 機能（14 ページ）](#)
- [PCIe スロットを持つ新規 SIOC（16 ページ）](#)

このマニュアルの使用方法

Cisco UCS Manager を使用して管理されている Cisco UCS S3260 システムは、Cisco UCS Manager を使用して管理されている他の S シリーズ ラック サーバによりサポートされている機能のほとんどをサポートしています。Cisco UCS S3260 システムは、Cisco UCS Manager に一部の新機能と管理機能も導入しています。これらの特長と管理機能については、次の章で詳しく説明します。

- **概要：** Cisco UCS Manager を使用して管理されるとき Cisco UCS S3260 システムとその接続のアーキテクチャに関する詳細情報を提供します。
- **Cisco UCS Manager 管理型 Cisco UCS S3260 への移行：** スタンドアロン Cisco UCS C3160 サーバまたはスタンドアロン Cisco UCS S3260 サーバから Cisco UCS Manager 管理型 Cisco UCS S3260 サーバへの移行に必要な手順について説明します。
- **システム関連ポリシー：** Cisco UCS S3260 システムに適用可能なシャーシ ディスカバリ ポリシーとシャーシ接続ポリシーについて説明します。

- シャーシプロファイル：シャーシプロファイルとシャーシプロファイルテンプレートの詳細プロファイル情報情報を提供します。これを使用して Cisco UCS S3260 シャーシのストレージ、ファームウェアとメンテナンスの特性を定義できるようになりました。
- ストレージ管理：Cisco UCS S3260 システムの新しいストレージ コンポーネントと、その管理方法について説明します。
- ファームウェア管理：ファームウェアを手動で更新できる Cisco UCS S3260 のシャーシファームウェア パッケージとエンドポイントについて詳しく説明します。
- シャーシ管理：Cisco UCS S3260 シャーシの管理に関する詳細情報を提供します。
- サーバ管理：Cisco UCS S3260 サーバノードの管理に関する詳細情報を提供します。
- SIOC 管理：Cisco UCS S3260 シャーシの一部であるシステム I/O コントローラ (SIOC) の管理に関する詳細情報を提供します。

Cisco UCS Manager リリース 3.1 以降のリリースでサポートされているすべての機能と設定タスクは、次の表に示す構成ガイドで説明されています。これらのガイドは、Cisco UCS S3260 システム用のこのクイック リファレンス ガイドとともに使用する必要があります。

ガイド	説明
Cisco UCS Manager Getting Started Guide	Cisco UCS アーキテクチャのほか、Cisco UCS Manager の初期設定や構成のベストプラクティスなど、稼働前に必要な操作について説明しています。
Cisco UCS Manager Administration Guide	パスワード管理、ロールベースのアクセスの設定、リモート認証、通信サービス、CIMC セッション管理、組織、バックアップと復元、スケジュールオプション、BIOS トークンおよび遅延展開について説明しています。
Cisco UCS Manager Infrastructure Management Guide	Cisco UCS Manager によって使用および管理される物理インフラストラクチャと仮想インフラストラクチャのコンポーネントについて説明します。
『Cisco UCS Manager Firmware Management Guide』	ファームウェアのダウンロードと管理、自動インストールによるアップグレード、サービスプロファイルによるアップグレード、ファームウェアの自動同期によるエンドポイントでの直接アップグレード、機能カタログの管理、展開シナリオ、およびトラブルシューティングについて説明しています。

ガイド	説明
『Cisco UCS Manager Server Management Guide』	新しいライセンス、Cisco UCS Central への Cisco UCS ドメインの登録、電力制限、サーバのブート、サーバプロファイルおよびサーバ関連ポリシーについて説明しています。
『Cisco UCS Manager Storage Management Guide』	Cisco UCS Manager の SAN や VSAN など、ストレージ管理のあらゆる側面について説明しています。
『Cisco UCS Manager Network Management Guide』	Cisco UCS Manager の LAN や VLAN 接続など、ネットワーク管理のあらゆる側面について説明しています。
『Cisco UCS Manager System Monitoring Guide』	Cisco UCS Manager における、システム統計を含むシステムおよびヘルス モニタリングのあらゆる側面について説明しています。
Cisco UCS S3260 サーバと Cisco UCS Manager との統合	Cisco UCS Manager を使用して管理される UCS S シリーズ サーバの管理のあらゆる側面について説明しています。

『[Release Notes for Cisco UCS Manager, Release 3.2](#)』には、Cisco UCS Manager リリース 3.2 に関する新機能、解決済みの問題、未解決の問題および回避策の詳細情報が記載されています

Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要

アーキテクチャ概要

図 1: Cisco UCS S3260 システム全体のアーキテクチャ図

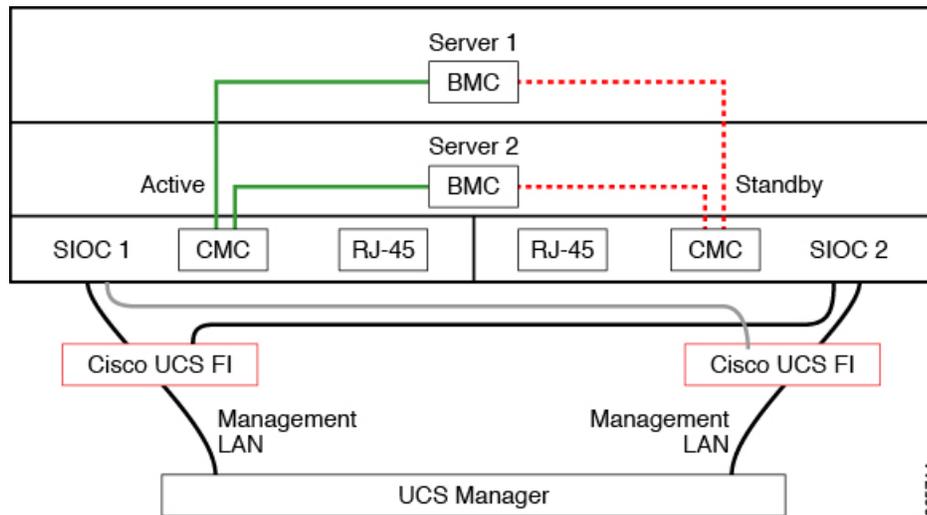
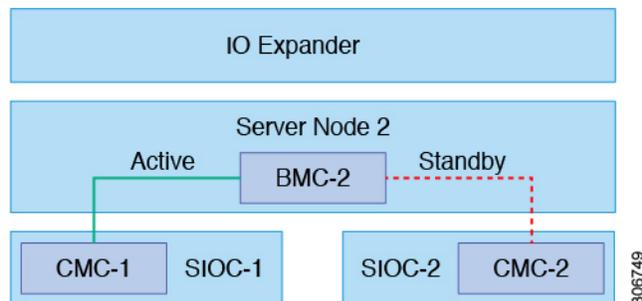


図 2: Cisco UCS S3260 システム (単一ノード デュアル SIOC) 全体のアーキテクチャ図



このシステムは、シャーシ管理コントローラ (CMC) を使用してサーバノードを管理します。各システム I/O コントローラ (SIOC) モジュールには、内蔵型 CMC が組み込まれています。2つの SIOC を使用する場合、2つの CMC がアクティブ/スタンバイ構成で機能します。Cisco IMC インターフェイスでログインしている SIOC 内の CMC がアクティブ CMC になります。アクティブ CMC を使用して、両方のサーバノードの BMC を管理できます。

すべてのユーザインターフェイスは、アクティブ CMC でのみ動作します。構成の変更は、アクティブ CMC とスタンバイ CMC の間で自動的に同期されます。

システムの電源を再投入すると、デフォルトで SIOC 1 内の CMC がアクティブ CMC になります。次のいずれかの条件が発生すると、アクティブ CMC はスタンバイ CMC にフェールオーバーします。

- アクティブ CMC のリブートまたは障害が発生した場合。

- アクティブ CMC を持つ SIOC が取り外された場合。
- アクティブ CMC でネットワーク接続が失われた場合。

ビルディング ブロックと接続

Cisco UCS S3260 シャーシは、次のモジュールで構成されるモジュラ アーキテクチャです。

ベース シャーシ

電源ユニット 4 つ、8 つのファンを搭載し、レールキットが付属しています。

サーバノード

1 台または 2 台のサーバノードごとに、2 つの CPU および、128 GB、256 GB、または 512 GB の DIMM メモリ、およびパススルーモードの RAID カードまたは 1 GB/4 GB のキャッシュを持つ RAID カードを選択、搭載可能です。

システム I/O コントローラ (SIOC) (リリース 4.0(1) 以降)

リリース 4.0(1) 以降、Cisco UCS S3260 システムは、S3260 M5 サーバを持つ新規サーバ SIOC、UCS-S3260-PCISIOC をサポートしています。この SIOC では、ネットワーク アダプタを交換するための PCIe スロットがあります。

システム I/O コントローラ (SIOC) (リリース 3.2(3) 以前)

1 つまたは 2 つのシステム I/O コントローラ (それぞれ 1300 シリーズ VIC を搭載)。Cisco UCS S3260 SIOC には Cisco UCS VIC 1300 シリーズの内蔵型チップが組み込まれているため、リムーバブルアダプタカードはありません。

オプションのドライブ拡張ノード

4 つの 4TB ドライブ (合計容量: 16TB)、4 つの 6TB ドライブ (合計容量: 24TB)、または 4 個の 10TB ドライブ (合計容量: 40TB) の選択。

ソリッドステート ブート ドライブ

1 つのサーバノードあたり最大 2 つの SSD

Cisco UCS ファブリック接続

Cisco UCS S3260 シャーシは、次のいずれかの方法で接続できます。

- ファブリック インターコネクタへの直接接続。
- FEX による接続。

Cisco UCS ファブリック インターコネクタへの直接接続

1. Cisco UCS 6200 Series Fabric Interconnects : SIOC は 6248 FI ポートに直接接続できません。SIOC のアップリンクは、次の 2 つの方法のいずれかで FI ポートに接続できます。
 - QSA ケーブルを使用した、シングル FI ポートへの 10G 接続
 - ブレークアウト ケーブルを使用した、4 つの FI ポートへの 4*10G ポート チャンネル接続

2. Cisco UCS 6300 Series Fabric Interconnects : SIOC のアップリンクは、シングル 40G 接続で 6300 シリーズ FI ポートに直接接続できます。
3. **Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect**: SIOC アップリンクは、単一の 25G 接続を使用して Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect ポートに直接接続できます。

FEX による接続

N2348UPQ and 2232 FEX : SIOC は、QSA コネクタを使用して、シングル 10G 接続で FEX ポートに直接接続できます。

接続マトリックス

新規 Cisco VIC カード

リリース 4.0(2a) から、Cisco UCS S3260 システムでは次の新規 Cisco VIC カードがサポートされています。

- Cisco UCS VIC 1495

リリース 4.0(1a) から、Cisco UCS S3260 システムでは次の新規 Cisco VIC カードがサポートされています。

- Cisco UCS VIC 1455

表 3: 接続マトリックス

	ケーブル	リンク集約	接続速度	FEX サポート	6200 FI サポート	6300 FI サポート	6400 FI サポート
VIC 1495 (新世代 SIOC)	QSFP	非ポートチャンネル	40G	×	×	Yes	×
VIC 1455 (新世代 SIOC)	SPF+	ポートチャンネル	2x10G	Yes	Yes	Yes	Yes
	ブレイクアウトケーブル	ポートチャンネル	2x10G	×	×	Yes	×
	SFP28	ポートチャンネル	2x25G	×	×	×	Yes

	ケーブル	リンク集約	接続速度	FEXサポート	6200 FI サポート	6300 FI サポート	6400 FI サポート
SIOC	QSA (SFP+)	非ポートチャンネル	10G	Yes	Yes	×	Yes
	QSFP	非ポートチャンネル	40G	×	×	Yes	×
	ブレイクアウトケーブル	ポートチャンネル	4x10G	×	Yes	×	Yes

展開オプション

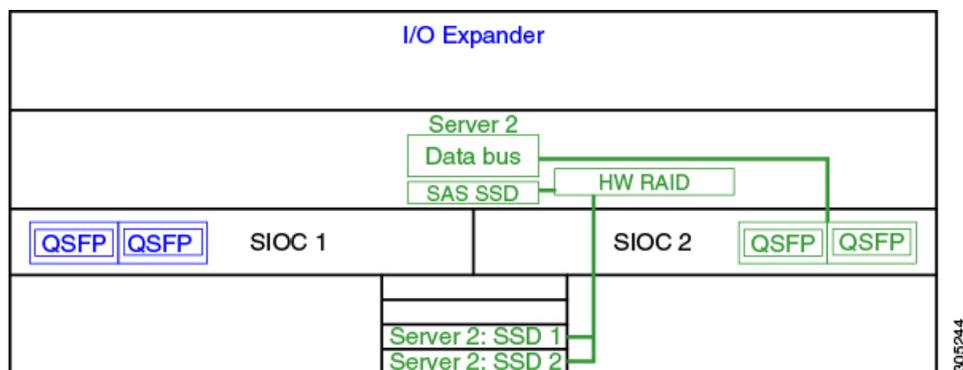
Cisco UCS S3260 システムの 3 つの主要な展開オプション（単一サーバ接続およびデュアルサーバ接続）について説明します。

単一サーバ接続

次の図は、単一サーバシステムの関連付けを示しています。

- サーバノード 2 のデータバスは、SIOC 2 を介して接続します。
- サーバ 2 SSD 1 および 2 は、サーバノード 2 の RAID コントローラカードによって制御できます。

図 3: I/O エクспанダを備えた単一サーバ



単一サーバ接続（Server SIOC Connectivity 機能を使用）

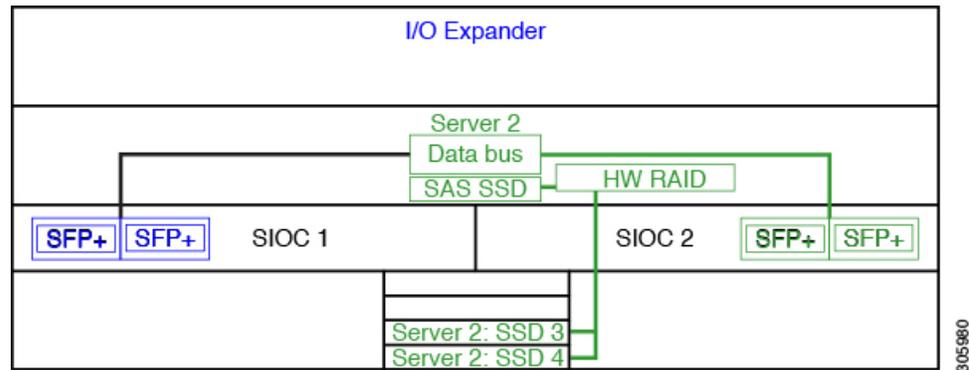
Cisco UCS S3260 システムに単一サーバとデュアル SIOC が含まれている場合、ユーザは Server SIOC Connectivity 機能を有効にできます。Server SIOC Connectivity 機能が有効な単一サーバシステムの関連性を次の図に示します。

- サーバノード2のデータベースは、プライマリ SIOC および補助 SIOC 経由で接続しています。



(注) サーバ1のプライマリ SIOC は SIOC 1、サーバ2のプライマリ SIOC は SIOC 2 です。サーバ1の補助 SIOC は SIOC 2、サーバ2の補助 SIOC は SIOC 1 です。

図 4: Server SIOC Connectivity 機能を使用した単一サーバ単一 SIOC

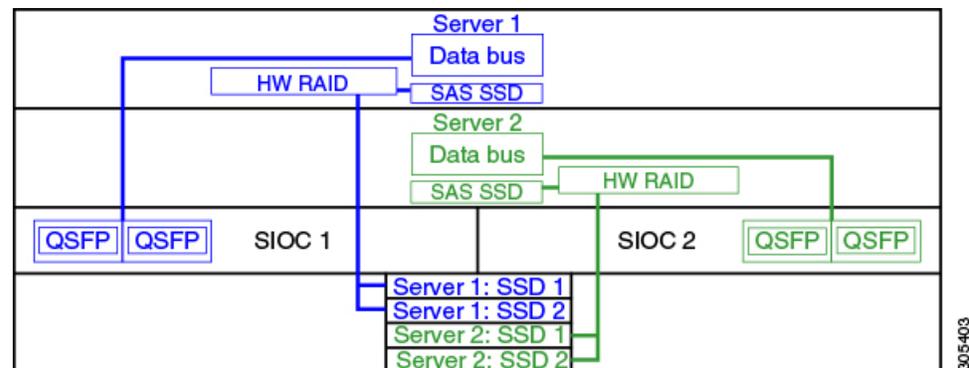


デュアルサーバ接続

このモードの導入では、各サーバスロットに独立したサーバブレードが含まれています。SAS SSD などのさまざまなコンポーネントとともに冗長サーバノードは高可用性を提供します。

次の図は、デュアルサーバシステムを示しています。Cisco UCS C3X60 M3 サーバノードでは、サーバ1のPCHコントローラはSSD1とSSD2を制御し、サーバ2のPCHコントローラはSSD3およびSSD4を制御します。Cisco UCS C3X60 M4 サーバノードでは、サーバ上のRAIDコントローラカードは、それぞれのSSDを制御します。

図 5: デュアルサーバシステム





重要 さまざまなサーバノードおよび関連するサービス ノードでサポートされているストレージコントローラなどの Cisco UCS S3260 システムのストレージコントローラに関する考慮事項の詳細については、『*Cisco UCS S3260 Cisco UCS 3260 Storage Server Installation and Service Guide*』の「Storage Controllers」のセクションを参照してください。

管理スルー Cisco UCS Manager

Cisco UCS S3260 システムはスタンドアロン モードで動作できますが、Cisco UCS Manager により管理することもできます。

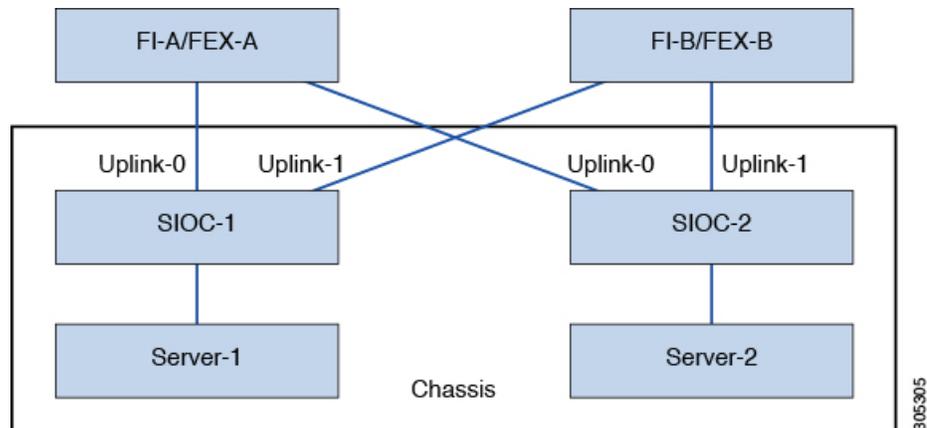


(注) UCS Mini 6324 では Cisco UCS Manager と Cisco UCS S3260 の統合はサポートされていません。

デュアル サーバ接続

次の図は、Cisco UCS Manager が管理するデュアル サーバ ノード搭載の Cisco UCS S3260 システムの接続を示しています。

図 6: Cisco UCS S3260 システムと Cisco UCS Manager との統合

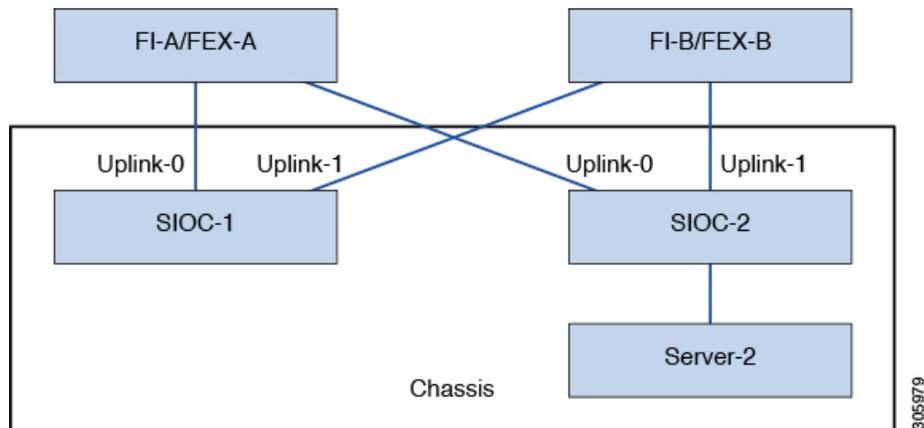


SIOC の 40G ポートは、ファブリック インターコネクタまたは FEX モジュールに接続できます。各 SIOC で、1 つのポートはプライマリ ファブリック インターコネクタおよび FEX に接続でき、もう 1 つのポートは下位のファブリック インターコネクタおよび FEX に接続できます。各 SIOC からのトラフィックは、ファブリック インターコネクタおよび FEX に到達できます。

単一サーバおよび単一 SIOC 接続

次の図は、Server SIOC Connectivity 機能を使用せずに Cisco UCS Manager により単一サーバおよび単一 SIOC が管理されている Cisco UCS S3260 システムの接続を示しています。

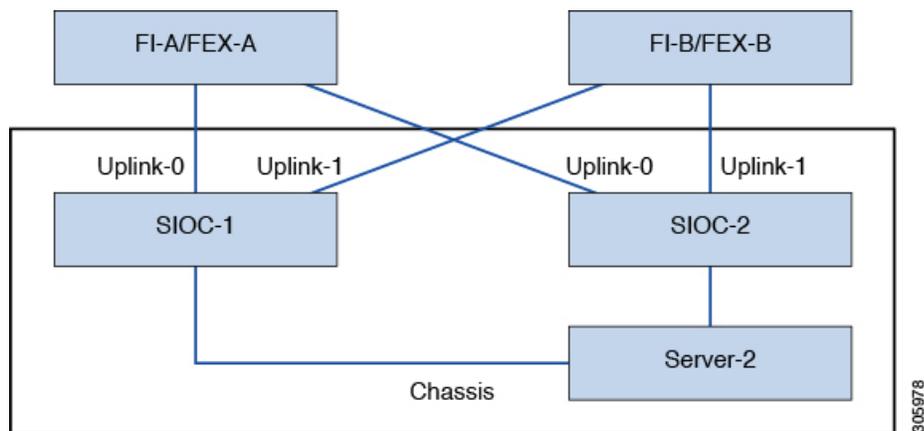
図 7: Cisco UCS S3260 システムと Cisco UCS Manager (Server SIOC Connectivity 機能を使用しない単一サーバおよび単一 SIOC)



単一サーバおよびデュアル SIOC 接続 (Server SIOC Connectivity 機能を使用)

次の図は、Server SIOC Connectivity 機能を使用して Cisco UCS Manager により単一サーバおよびデュアル SIOC が管理されている Cisco UCS S3260 システムの接続を示しています。

図 8: Cisco UCS S3260 システムと Cisco UCS Manager (Server SIOC Connectivity 機能を使用する単一サーバおよび単一 SIOC)



Server SIOC Connectivity 機能

リリース 3.1(3) から、Cisco UCS S3260 システムでは Server SIOC Connectivity 機能がサポートされています。シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されている場合、この機能を使用して、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を經由するデータパスを設定できます。



- (注) サーバ 1 のプライマリ SIOC は SIOC 1、サーバ 2 のプライマリ SIOC は SIOC 2 です。サーバ 1 の補助 SIOC は SIOC 2、サーバ 2 の補助 SIOC は SIOC 1 です。

Server SIOC Connectivity 機能は、シャーシプロファイルで [Compute Conn Policy] を使用して設定できます。このためには [single-server-dual-sioc] オプションを選択します。

Server SIOC Connectivity 機能の前提条件

この機能は次の条件を満たしている場合にのみ動作します。

- Cisco UCS S3260 システムでリリース 3.1(3) 以降が稼働している。
- 関連付けられている BIOS、BMC、および CMC ファームウェアで 3.1(3) 以降が動作している。
- シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されている。

ワークフロー：Cisco UCS Manager アップグレード

Cisco UCS Manager をリリース 3.1(3) 以降のリリースにアップグレードすると、シャーシディスクカバリがトリガーされ、UCSM がサーバ SIOC 接続機能の動作状態を取得します。ユーザはシャーシプロファイルの [Compute Conn Policy] で使用可能な [single-server-dual-sioc] オプションを使用してこの機能を有効にできます。



- (注) コンピューティング接続ポリシーの設定を変更すると、保留イベントが発生します。この保留イベントを確認した後でのみ、シャーシプロファイルの関連付けが自動的に開始します。

GUI で [Compute Conn Policy] プロパティを [single-server-dual-sioc] に設定すると、この操作によってサーバがリブートすることを警告するメッセージが Cisco UCS Manager により表示されます。メッセージの確認後に、シャーシの関連付けがトリガーされます。Server SIOC Connectivity 設定が正常に展開されると、サーバの詳細なディスクカバリが Cisco UCS Manager により自動的にトリガーされます。

CLI で [Compute Conn Policy] プロパティを [single-server-dual-sioc] に設定したら、関連付けを開始するために **apply pending-changes immediate** コマンドを実行します。

[Compute Conn Policy] が [single-server-dual-sioc] に設定された場合は、Cisco UCS Manager を 3.1(3) より前のリリースにダウングレードすることはできません。Cisco UCS Manager では同様に、BMC、CMC、および BIOS を 3.1(3) より前のリリースにダウングレードすることはできません。

single-server-dual-sioc オプションが有効な場合にこの機能に影響する条件

- サーバの交換：サーバが交換されると、ブレードスロットの不一致が検出されます。スロットを確認するとサーバの詳細なディスクカバリがトリガーされ、その後サービスプロ

ファイルの関連付けが行われます。サービス プロファイルの関連付けがトリガーされると、次の 2 つの状況が発生する可能性があります。

1. BIOS/BMC ファームウェアがホストファームウェアで指定されている場合：BIOS/BMC ファームウェアで単一サーバデュアル SIOC 接続がサポートされている場合は、サービス プロファイル関連付けプロセスが実行されます。BIOS/BMC ファームウェアで単一サーバデュアル SIOC 接続がサポートされていない場合は、この関連付けで設定の問題が発生します。
 2. BIOS/BMC ファームウェアがホストファームウェアで指定されていない場合、Cisco UCS Manager は、実行中の BIOS/BMC バージョンで単一サーバデュアル SIOC 接続がサポートされているかどうかを確認します。この機能がサポートされていない場合は、設定の問題は発生しません。
- SIOC の交換：交換した SIOC で 3.1(3) 以降が稼働している場合、1 つの SIOC が装着されるとユーザ確認メッセージが表示されます。SIOC アクションを確認すると、Cisco UCS Manager により FI と SIOC 間の接続が確立されます。さらに、Cisco UCS Manager はこの SIOC を経由するデータパス接続があるサーバを再確認します。サーバに対して設定されている VNIC も再確認されます。詳細については、「[SIOC の削除または交換 \(135 ページ\)](#)」を参照してください。
- 交換した SIOC で古いバージョンのファームウェアが稼働している場合、Cisco UCS Manager では [Server SIOC Connectivity] 動作状態が [single-server-single-sioc] に自動的に変更されます。シャーププロファイルの関連付けを再度トリガーすることで、交換した SIOC のファームウェアを更新できます。
- SIOC の取り外し：SIOC を取り外すと、Cisco UCS Manager ではその SIOC と、サーバで作成された対応するアダプタユニットが欠落しているものとしてマークされます。
 - シャーシへのサーバの追加：この機能が有効な状態で新しいサーバをシャーシに追加すると、サーバ ディスカバリが失敗します。
 - シャーシ/サーバの関連付け解除：サーバまたはシャーシの関連付けが解除される場合、Server SIOC Connectivity 機能は無効になりません。

PCIe スロットを持つ新規 SIOC

Cisco UCS Manager リリース 4.0(1a) 以降、Cisco UCS S3260 システムは、S3260 M5 サーバを持つ新規サーバ SIOC、UCS-S3260-PCISIOC をサポートしています。この SIOC では、ネットワーク アダプタを交換するための PCIe スロットがあります (サポートされているアダプタについては [表 4: サポートされている Cisco VIC とサードパーティ製のアダプタ \(17 ページ\)](#) を参照してください)。これらのスロットでは、Cisco VIC とサードパーティ製のアダプタの両方をサポートしています。さらに、新しい SIOC には 2 つの NVMe スロットがあります。

Cisco UCS Manager リリース 4.0(2a) 以降、NVMe OOB はサポートされています。

図 9:新しい SIOC による FI 接続

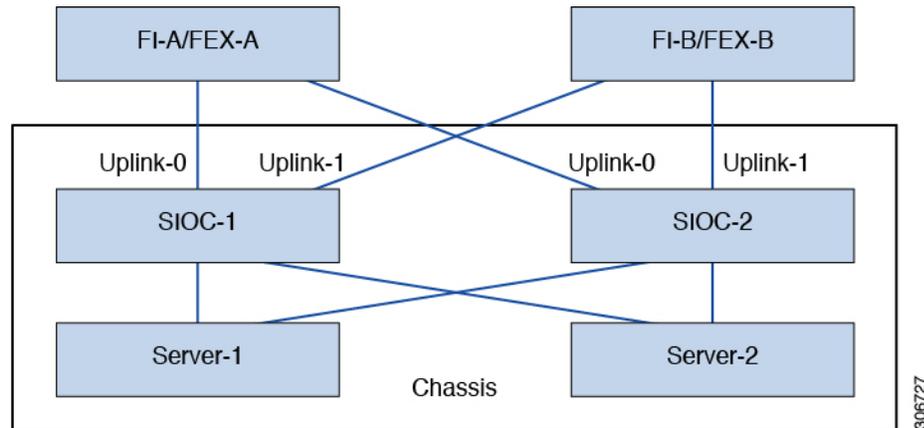


表 4:サポートされている Cisco VIC とサードパーティ製のアダプタ

PID	説明
UCSC-PCIE-C25Q-04	Cisco VIC 1455 クラッドポート : 25 G (注) 直接接続モードで 6300 FI シリーズとともに使用する場合、vHBA はサポートされません。直接接続モードでは、Cisco UCS Manager に設定エラーは表示されませんが、関連付けが継続しています。Cisco UCS Manager では [Info] 障害のみ報告します。
UCSC-PCIE-ID10GC	Intel X550 デュアルポート 10GB Base-T
UCSC-PCIE-ID25GF	Intel XXV710 (デュアルポート 25G SFP28)
UCSC-PCIE-ID40GF	Intel XL710 デュアルポート 40GB QSFP+ NIC
UCSC-PCIE-QD16GF	Qlogic QLE2692 デュアルポート 16G ファイバチャネル HBA

表 5:サポートされる NVMe ディスク

PID	説明
UCS-S3260-NVG25	Intel 4501 をベースにした M5 サーバノード用 UCS S3260 500GB NVM
UCS-S3260-NVG210	UCS S3260 Intel 4501 1TB NVMe ドライブ M5 サーバノード用

PID	説明
UCS-S3260-NVG220	UCS S3260 Intel 4501 2TB NVMe ドライブ M5 サーバ ノード用

新しい SIOC をインストールするための前提条件

- BMC ファームウェアバージョンが 4.0(1a) 以降である必要があります。
- 33 CMC ファームウェアバージョンが 4.0(1a) 以降である必要があります。

Cisco VIC カード、サードパーティ製のアダプタ、NVMe ディスクの制限

- サードパーティ製のアダプタを使用した SIOC は、スタンバイにのみ設定できます。
- アクティブな SIOC をリポートしても、サードパーティ製のアダプタに接続している SIOC はアクティブになりません。
- Cisco UCS Manager 混合 SIOC による設定はサポートしていません。セットアップで新しい gen SIOC と古い SIOC を混在させることはできません。
- Cisco UCS Manager サードパーティ製のアダプタを持つ SIOC は管理されません。
- Cisco UCS Manager サードパーティ製のアダプタを持つ SIOC の CMC イメージを更新またはアクティブにしません。
- NVMe ディスクのホット挿入および取り外しはサポートされていません。
- Cisco とサードパーティ製のアダプタのサポートの詳細については、[Cisco UCS Manager 混合アダプタセットアップの管理 \(18 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco UCS Manager 混合アダプタ セットアップの管理

表 6: Cisco UCS Manager の管理

スロット 1	スロット 2	サーバ SIOC 接続	Cisco UCS Manager の管理
Cisco VIC	Cisco VIC	単一サーバ デュアル VIC	Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供
Cisco VIC	Cisco VIC	デュアル サーバ モード	Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供

スロット 1	スロット 2	サーバ SIOC 接続	Cisco UCS Manager の管理
Cisco VIC	サードパーティ製のアダプタ	単一サーバデュアル VIC	<p>Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> サードパーティ製のアダプタの検出とファームウェア管理 SIOC/VIC の障害発生時に CMC 冗長性はサポートされません
Cisco VIC	SIOC のサードパーティ製のアダプタ	デュアルサーバ	<p>Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> スロット 1 のサーバ検出 SIOC/VIC の障害発生時に CMC 冗長性はサポートされません スロット 2 のサーバ検出は Cisco UCS Manager モードではサポートされていません。スロット 2 にサーバがある場合。Cisco UCS Manager は [No Connected Adapters] のエラーで検出に失敗します。

スロット 1	スロット 2	サーバ SIOC 接続	Cisco UCS Manager の管理
サードパーティ製のアダプタ	Cisco VIC	単一サーバ デュアル VIC	<p>Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> サードパーティ製のアダプタの検出とファームウェア管理 SIOC/VIC の障害発生時に CMC 冗長性はサポートされません
サードパーティ製のアダプタ	Cisco VIC	デュアル サーバ	<p>Cisco UCS Manager 完全なサポートを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> スロット 2 のサーバ検出 SIOC/VIC の障害発生時に CMC 冗長性はサポートされません スロット 1 のサーバ検出は Cisco UCS Manager モードではサポートされていません。スロット 1 にサーバがある場合。Cisco UCS Manager は [No Connected Adapters] のエラーで検出に失敗します。
サードパーティ製のアダプタ	SIOC のサードパーティ製のアダプタ	単一サーバ デュアル VIC	サポート対象外
サードパーティ製のアダプタ	SIOC のサードパーティ製のアダプタ	デュアル サーバ	サポート対象外

SIOC の削除または交換

シャーシから SIOC の取り外しや交換ができます。SIOC の取り外しと交換はサービスに影響する操作であるため、シャーシ全体の電源をオフにする必要があります。詳細については、「[SIOC の削除または交換 \(135 ページ\)](#)」を参照してください。

PCIe サポートによる新しい SIOC への移行

詳細については、「[PCIe サポートがある SIOC に移行する \(137 ページ\)](#)」を参照してください。新しい SIOC に移行すると、次のダウングレード制限が適用されます。

- Cisco UCS Manager を 4.0(1a) 以下のリリースにダウングレードすることはできません
- BMC ファームウェアを以下のリリースにダウングレードすることはできません 4.0(1a)

Server SIOC Connectivity 機能

Cisco UCS Manager 次の例外では、新しい SIOC を持つ単一のサーバデュアル VIC 機能のサポートを継続します。

- 新しい SIOC に接続されているサードパーティ製のアダプタの拡張がサポートされています。
- **[Compute Connection Policy]** プロパティを **[single-server-dual-sioc]** に変更すると、ポリシーが適用される前にサーバの電源がオフになります。
- 単一サーバデュアル SIOC は SIOC アダプタの割り当てのみを決定しており、SIOC で NVMe ディスク スロットを割り当てることはありません。サーバごとに 1 つの NVMe ディスクが割り当てられ、サーバへの SIOC NVMe 接続を固定します。



第 3 章

UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260

この章は、次の項で構成されています。

- [UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260 \(23 ページ\)](#)
- [スタンドアロン Cisco UCS C3160 サーバから Cisco UCS S3260 サーバへの移行 \(24 ページ\)](#)
- [スタンドアロン 3260 から UCSM 管理型 3260 への移行 \(24 ページ\)](#)
- [管理対象の UCSM から移行Cisco UCS S3260管理 UCSM を M4 Cisco UCS S3260 M5 \(31 ページ\)](#)
- [UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 からスタンドアロン Cisco UCS S3260 への移行 \(32 ページ\)](#)

UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260



(注) Cisco UCS C3160 の UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 への直接移行はサポートされていません。まずスタンドアロン Cisco UCS C3160 をスタンドアロン Cisco UCS S3260 に移行してから、UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 に移行します。

スタンドアロン Cisco UCS C3160 の UCSM 管理型への移行 Cisco UCS S3260

スタンドアロン Cisco UCS C3160 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 に移行するには、次を行います。

1. スタンドアロン Cisco UCS C3160 をスタンドアロン Cisco UCS へ Cisco UCS S3260
2. スタンドアロン Cisco UCS Cisco UCS S3260 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ
3. Cisco UCS Manager を使用したサーバポートの設定

スタンドアロン Cisco UCS Cisco UCS S3260 の UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 への移行

スタンドアロン Cisco UCS Cisco UCS S3260 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 に移行するには、次を行います。

1. スタンドアロン Cisco UCS Cisco UCS S3260 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ
2. Cisco UCS Manager を使用したサーバ ポートの設定

スタンドアロン Cisco UCS C3160 サーバから Cisco UCS S3260 サーバへの移行

Cisco UCS C3160 サーバを Cisco UCS S3260 サーバに移行するには、『[Upgrading to Cisco UCS S3260 System With C3X60 M4 Server Nodes](#)』を参照してください。

スタンドアロン 3260 から UCSM 管理型 3260 への移行

スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ移行に関する前提条件

移行手順を開始する前に、次の条件を満足していることを確認します。

- M4サーバについては、システムがそれより前のバージョンを実行している場合は、リリース 2.0(9) 以降の Cisco UCS S3260 Host Upgrade Utility (HUU) をダウンロードして実行してください。M4サーバについては、システム Host Upgrade Utility のダウンロード手順と使用方法については、リリース 2.0(9) 以降の Host Upgrade Utility ユーザ ガイドを使用します。使用しているリリースの [HUU ガイド](#) の手順を参照してください。
- M5サーバについては、リリース 3.2(3) 以降の Cisco UCS S3260 Host Upgrade Utility (HUU) をダウンロードして実行してください。Host Upgrade Utility のダウンロード手順と使用方法については、リリース 3.2(3) 以降の Host Upgrade Utility ユーザ ガイドを使用します。使用しているリリースの [HUU ガイド](#) の手順を参照してください。
- DHCP サーバで設定されたか、スタティック IP アドレスとして手動で入力した、最大 5 個の IP アドレス。詳細については、「[システム IP アドレス \(29 ページ\)](#)」を参照してください。
- UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ移行する前に、既存のシステム設定のメモを作成することを推奨します。これらの設定には、次のようなものがあります。
 - サーバの UUID
 - ストレージ設定
 - ネットワーク コンフィギュレーション

- ブート ポリシー
- No. of vNICs
- vNIC の配置
- MAC アドレス
- MTU

移行後に Cisco UCS Manager を使用してこれらの構成を再度作成できます。

- シャーシ HDD からシステム ブート ボリュームが作成されたら、[シャーシ HDD からのブート \(25 ページ\)](#) を実行します。

シャーシ HDD からのブート

始める前に

UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 へ移行する前に、システム ブート ボリュームをシャーシ HDD から作成する場合にのみ、この手順を実行します。

手順の概要

1. [Disk Zoning Policy] が [Preserve Config] に設定されているシャーシ プロファイルとシャーシを関連付けます。
2. サーバのサービス プロファイル内では、[Prepare Claim Local LUN] オプションを使用して LUN とストレージ プロファイルを作成します。
3. サービス プロファイルを関連付けた後、サービス プロファイルのストレージ プロファイルに移動して、[Reclaim orphaned LUN] を選択し、再要求する LUN (シャーシ HDD 上の LUN) を選択します。
4. ブート ポリシーでは、手順2で書き留めたものと同じ名前のローカル LUN を定義します。

手順の詳細

ステップ 1 [Disk Zoning Policy] が [Preserve Config] に設定されているシャーシ プロファイルとシャーシを関連付けます。

詳細については、「*Creating a Chassis Profile with the Wizard*」 (GUI の手順) または「*Creating a Chassis Profile*」 (CLI の手順) を参照してください。

ステップ 2 サーバのサービス プロファイル内では、[Prepare Claim Local LUN] オプションを使用して LUN とストレージ プロファイルを作成します。

LUN の名前を書き留めます。ストレージ プロファイルの詳細については、http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/ucs-manager/GUI-User-Guides/Storage-Mgmt/3-1/b_UCSM_GUI_Storage_Management_Guide_3_1/b_UCSM_GUI_Storage_Management_Guide_3_1_chapter_010000.html#d1049e1627a1635 を参照してください。

ステップ 3 サービス プロファイルを関連付けた後、サービス プロファイルのストレージ プロファイルに移動して、[Reclaim orphaned LUN] を選択し、再要求する LUN（シャーシ HDD 上の LUN）を選択します。

ステップ 4 ブート ポリシーでは、手順 2 で書き留めたものと同じ名前のローカル LUN を定義します。

次のタスク

[スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 への移行 \(26 ページ\)](#) に進みます。

スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 への移行



重要 システムが 2.0(13) 以前のバージョンで実行している場合、スタンドアロン Cisco UCS S3260 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 に移行するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. 2.0(13)用の Cisco UCS S3260 HUU を使用して、システム全体を Cisco IMC リリース 2.0(13) にアップグレードします。Cisco UCS S3260 システム内のすべてのサーバ ノードに対して HUU を実行します。
2. シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
3. システムにキーボードとモニタを接続します。
4. 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。F8 の押下を求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。
5. プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
6. 目的の IP アドレス、NIC モード、NIC 冗長化に応じてネットワーク プロパティを設定します。
7. Cisco UCS Host Upgrade Utility を使用して、残りのシステム コンポーネントを Cisco IMC リリース 2.0(13) 以降にアップグレードします。
8. F8 を押すことを求めるプロンプトが表示されたら、F8 を押して Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
9. サーバを工場出荷時のデフォルトに設定するか、またはユーティリティを使用する次の手順を実行してサーバコントローラを工場出荷時のデフォルトに設定するには、『[Resetting Cisco IMC to Factory Defaults](#)』を参照してください。
10. SIOC の 40G ポートを、ファブリック インターコネクトまたは FEX モジュールに接続できます。

手順の詳細

- ステップ 1** 2.0(13) 用の Cisco UCS S3260 HUU を使用して、システム全体を Cisco IMC リリース 2.0(13) にアップグレードします。Cisco UCS S3260 システム内のすべてのサーバノードに対して HUU を実行します。
- ステップ 2** シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
- ステップ 3** システムにキーボードとモニタを接続します。
1. システムの背面にあるサーバノードの外部 KVM コネクタに KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) を接続します。
 2. VGA モニタと USB キーボードを KVM ケーブルのコネクタに接続します。
- ステップ 4** 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。F8 の押下を求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。
- ステップ 5** プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
- ステップ 6** 目的の IP アドレス、NIC モード、NIC 冗長化に応じてネットワーク プロパティを設定します。
1. 5 つの IP アドレスを設定するという、Cisco UCS S3260 システムの要件に注意します。詳細については、「[システム IP アドレス \(29 ページ\)](#)」を参照してください。手順のこの時点では、システムは次の 3 つのアドレスを必要とします。
 - 1 つの管理 IP アドレス
 - 各 SIOC 用に 1 つの CMC アドレス
 - 各サーバノード用に 1 つの BMC アドレス

(注) DHCP サーバを使用している場合、アドレスは DHCP サーバによって定義されます。DHCP をディセーブルにした場合は、ユーザ固有のスタティック管理 IP アドレスとネットワーク設定を指定する必要があります。
 2. ネットワーク設定は、ブート時に F8 を押すと開かれる Cisco IMC 設定ユーティリティを使用しています。http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/s/hw/S3260/install/S3260.html の「*Setting Up the System Using the Cisco IMC Configuration Utility*」を参照してください。
 3. CMC および BMC コントローラのスタティック IP アドレスを設定する場合は、Cisco IMC 管理インターフェイスを使用することが求められています。http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/s/hw/S3260/install/S3260.html の「*Setting Static CMC and BMC Internal IP Addresses*」を参照してください。
- ステップ 7** Cisco UCS Host Upgrade Utility を使用して、残りのシステム コンポーネントを Cisco IMC リリース 2.0(13) 以降にアップグレードします。
- ユーティリティのダウンロード手順と使用方法については、リリース 2.0(13) 以降の Host Upgrade Utility ユーザ ガイド (『[HUU Guides](#)』) を使用してください
- アップグレードが完了したら、Cisco UCS S3260 システムの UCSM 統合への準備が完了します。

- ステップ 8** F8 を押すことを求めるプロンプトが表示されたら、F8 を押して Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
- ステップ 9** サーバを工場出荷時のデフォルトに設定するか、またはユーティリティを使用する次の手順を実行してサーバコントローラを工場出荷時のデフォルトに設定するには、『[Resetting Cisco IMC to Factory Defaults](#)』を参照してください。
1. **F1** を押して、ユーティリティの 2 番目の画面に移動します。
 2. [Factory Default] の下の [Chassis Controller Configuration] オプションを選択します。[Server Controller Configuration] は選択しないでください。
 3. **F10** キーを押して変更を保存し、BMC をリブートします。
 4. リブートが完了するまで待ちます (約 5 分)。
- ステップ 10** SIOC の 40G ポートを、ファブリック インターコネクトまたは FEX モジュールに接続できます。
- 各 SIOC で、1 つのポートが FI-A/FEX-A に接続され、他のポートが FI-B/FEX-B に接続されます。各 SIOC からのトラフィックは、どちらの FI/FEX にも到達できます。「[Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要 \(8 ページ\)](#)」を参照してください。

次のタスク

サーバポートを設定します。「[Cisco UCS Manager を使用したサーバポートの設定 \(30 ページ\)](#)」を参照してください。

スタンドアロン Cisco UCS S3260 から UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 [2.0(13) 以降のバージョン] への移行



重要 システムがすでに 2.0(13) 以降のバージョンで実行している場合、スタンドアロン Cisco UCS S3260 を UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 に移行するには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
2. システムにキーボードとモニタを接続します。
3. 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。F8 の押下を求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。
4. プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
5. サーバを工場出荷時のデフォルトに設定するか、またはユーティリティを使用する次の手順を実行してサーバコントローラを工場出荷時のデフォルトに設定するには、『[Resetting Cisco IMC to Factory Defaults](#)』を参照してください。

6. SIOC の 40G ポートを、ファブリック インターコネクトまたは FEX モジュールに接続できます。

手順の詳細

-
- ステップ 1** シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
- ステップ 2** システムにキーボードとモニタを接続します。
1. システムの背面にあるサーバノードの外部 KVM コネクタに KVM ケーブル (Cisco PID N20-BKVM) を接続します。
 2. VGA モニタと USB キーボードを KVM ケーブルのコネクタに接続します。
- ステップ 3** 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。F8 の押下を求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。
- ステップ 4** プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。
- ステップ 5** サーバを工場出荷時のデフォルトに設定するか、またはユーティリティを使用する次の手順を実行してサーバコントローラを工場出荷時のデフォルトに設定するには、『[Resetting Cisco IMC to Factory Defaults](#)』を参照してください。
1. **F1** を押して、ユーティリティの 2 番目の画面に移動します。
 2. [Factory Default] の下の [Chassis Controller Configuration] オプションを選択します。[Server Controller Configuration] は選択しないでください。
 3. **F10** キーを押して変更を保存し、BMC をリブートします。
 4. リブートが完了するまで待ちます (約 5 分)。
- ステップ 6** SIOC の 40G ポートを、ファブリック インターコネクトまたは FEX モジュールに接続できます。
- 各 SIOC で、1 つのポートが FI-A/FEX-A に接続され、他のポートが FI-B/FEX-B に接続されます。各 SIOC からのトラフィックは、どちらの FI/FEX にも到達できます。「[Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要 \(8 ページ\)](#)」を参照してください。

次のタスク

サーバポートを設定します。「[Cisco UCS Manager を使用したサーバポートの設定 \(30 ページ\)](#)」を参照してください。

システム IP アドレス

Cisco UCS S3260 システム システムは、最大 5 つの IP アドレスを設定できます。



(注) システム内に存在するすべてのコントローラは、相互に通信するために、割り当てられた IP アドレスが必要です。すべての IP アドレスは DHCP サーバで割り当てることができます。ユーザが固定 IP アドレスを割り当てることもできます。

- 管理 IP : これは、システム全体の仮想 IP アドレスです。このアドレスには、システムの Cisco IMC インターフェイスに、SIOC 1 または SIOC 2 のアクティブ シャーシ管理コントローラへの LAN 接続経由でアクセスするときにログインします。
- SIOC 1 CMC IP : これは SIOC 1 のシャーシ管理コントローラ (CMC) の内部アドレスです。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。
- SIOC 2 CMC IP : これは SIOC 2 の CMC の内部アドレスです (インストールされている場合)。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。
- サーバ 1 BMC IP : これはサーバ ノード 1 のボード管理コントローラ (BMC) の内部アドレスです。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。
- サーバ 2 BMC IP : これはサーバ ノード 2 の BMC の内部アドレスです (インストールされている場合)。このアドレスは DHCP サーバによって割り当てることができます。または、Cisco IMC インターフェイスを使用してスタティック アドレスを設定することもできます。

Cisco UCS Manager を使用したサーバポートの設定

サーバポートとしてイーサネットポートを設定するには、次の手順を実行します。ポートをサーバポートとして設定すると、移行プロセスは完了です。



(注) スタンドアロン Cisco UCS S3260 に接続されたイーサネットポートがアプライアンスポートとしてすでに設定されていれば、サーバポートとして再設定します。

手順の概要

1. [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
2. [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] > [Fixed Module] > [Ethernet Ports] の順に展開します。
3. [Ethernet Ports] ノードの下のポートをクリックします。
4. [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
5. [Actions] 領域で、[Reconfigure] をクリックします。

- ドロップダウンリストから [Configure as Server Port] を選択します。

手順の詳細

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Fabric Interconnects] > [Fabric_Interconnect_Name] > [Fixed Module] > [Ethernet Ports] の順に展開します。
- ステップ 3 [Ethernet Ports] ノードの下のポートをクリックします。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Reconfigure] をクリックします。
- ステップ 6 ドロップダウンリストから [Configure as Server Port] を選択します。

次のタスク

これで移行プロセスを完了します。Cisco UCS Manager は自動的に S3260 シャーシを検出します。[シャーシディスカバリ ポリシー \(35 ページ\)](#) は、シャーシディスカバリについて詳細を説明します。[サーバ管理 \(117 ページ\)](#) では、Cisco UCS Manager を使用してサーバを管理する方法を説明します。

スタンドアロン Cisco UCS S3260 内に存在する設定を Cisco UCS Manager を使用して再設定できます。[このマニュアルの使用方法 \(5 ページ\)](#) に一覧になっている Cisco UCS Manager 設定ガイドで詳細を説明しています。

管理対象の UCSM から移行 Cisco UCS S3260 管理 UCSM を M4 Cisco UCS S3260 M5

始める前に

移行手順を開始する前に、次の条件を満足していることを確認します。

- システムがそれより前のバージョンを実行している場合は、リリース 3.2(3) 以降の Cisco UCS S3260 Host Upgrade Utility (HUU) をダウンロードして実行してください。Host Upgrade Utility のダウンロード手順と使用方法については、リリース 3.2(3) 以降の Host Upgrade Utility ユーザ ガイドを使用します。使用しているリリースの [HUU ガイド](#) の手順を参照してください。
- PCIe スロットを持つ新しい SIOC を使用する場合は、BMC がバージョン 4.0 以降であることを確認します。

手順の概要

1. シャーシから Cisco UCS S3260 M4 サーバを使用停止にします。

2. シャットダウンして、システム全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
3. 既存の M4 サーバノードを取り外し、いずれかのサーバベイで新しい M5 サーバノードと交換します。
4. 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。

手順の詳細

ステップ 1 シャーシから Cisco UCS S3260 M4 サーバを使用停止にします。

[サーバの稼働停止 \(125 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 2 シャットダウンして、システム全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。

ステップ 3 既存の M4 サーバノードを取り外し、いずれかのサーバベイで新しい M5 サーバノードと交換します。

ステップ 4 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。

次のタスク

スロットを再認識して、Cisco UCS Manager にこのサーバを再検出させる必要があります。

UCSM 管理型 Cisco UCS S3260 からスタンドアロン Cisco UCS S3260 への移行

手順の概要

1. シャーシの稼働を中止します。「シャーシ管理」の章の「シャーシの稼働中止」の手順を参照してください。
2. SIOC ケーブルを取り外します。

手順の詳細

ステップ 1 シャーシの稼働を中止します。「シャーシ管理」の章の「シャーシの稼働中止」の手順を参照してください。

ステップ 2 SIOC ケーブルを取り外します。

次のタスク

これで移行プロセスは完了です。シャーシをスタンドアロンモードで使用できるようになりました。詳しい設定については、Cisco UCS S3260 システムの構成ガイドでサーバの管理について参照してください。Cisco UCS S3260 システムの構成ガイドは <http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-c-series-integrated-management-controller/products-installation-and-configuration-guides-list.html> にあります。



第 4 章

機器関連ポリシー

- [シャーシディスカバリ ポリシー \(35 ページ\)](#)
- [シャーシ接続ポリシー \(38 ページ\)](#)

シャーシ ディスカバリ ポリシー

シャーシディスカバリ ポリシーは、新しい Cisco UCS S3260 シャーシまたは既存のスタンドアロン Cisco UCS S3260 シャーシを Cisco UCS システムに追加する際の、システムの対応を決定します。[Cisco UCS S3260 システム アーキテクチャ概要 \(8 ページ\)](#) では、Cisco UCS S3260 システム (Cisco UCS Manager 管理型) の接続性を説明します。Cisco UCS Manager はシャーシディスカバリ ポリシーの設定を使って、グループをシステム I/O コントローラ (SIOC) からファブリック ポートチャンネルのファブリック インターコネクタにリンクするか決定します。

以前のスタンドアロン Cisco UCS S3260 シャーシを Cisco UCS システムに追加するには、最初に工場出荷時のデフォルトに設定する必要があります。これにより、シャーシの両 SIOC を両方のファブリック インターコネクタに接続できます。シャーシの SIOC をファブリック インターコネクタに接続し、ポートをサーバポートとしてマークすると、シャーシディスカバリが開始されます。

サーバ ディスカバリ

Cisco UCS S3260 シャーシが検出されると、Cisco UCS Manager は Cisco UCS S3260 サーバ ノードを自動的に検出します。



(注) サーバ ディスカバリはサーバに対応する SIOC が存在しない場合、失敗します。

リンクのグループ化

リリースで 4.0(1a)、[リンクのグループの設定](#)は PCIe スロットの新しい SIOC を使用すると、自動的に [ポート チャンネル](#)を設定します。



(注) Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect、リンクのグループの設定は常にポートチャンネルを設定します。

Cisco UCS S3260 シャーシを FEX 経由で Cisco UCS 6200 シリーズ ファブリック インターコネクタに接続、または Cisco UCS 6300 シリーズ ファブリック インターコネクタまたは Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect に直接接続する場合、Cisco UCS Manager は **[Port Channel]** のプリファレンスを無視し、SIOC は、非ポートチャンネルモードで動作します。

Cisco UCS S3260 シャーシを Cisco UCS 6200 シリーズ ファブリック インターコネクタに直接接続すると、リンクのグループ化を使用して、シャーシの検出時に SIOC からファブリック インターコネクタへのすべてのリンクがファブリック ポートチャンネルにグループ化されているかどうかを判断できます。リンクのグループ化を **[Port Channel]** に優先設定している場合、SIOC からファブリック インターコネクタへのリンクがすべてファブリック ポートチャンネルにグループ化されます。**[None]** に設定すると、SIOC からのリンクはファブリック インターコネクタにピン接続されます。

Cisco UCS S3260 シャーシが 4x10G ブレークアウト ケーブルを介して Cisco UCS 6200 シリーズ ファブリック インターコネクタに接続されている場合、リンクのグループ化プリファレンスを **[Port Channel]** に設定します。これを行わないと、シャーシ ディスカバリは完了しません。

Cisco UCS S3260 シャーシ [conrefS3260](#) シャーシがシングル 10G ケーブルを介してファブリック インターコネクタに接続されている場合、リンクのグループ化プリファレンスを **[None]** に設定します。

Cisco UCS Manager GUI の **[Link Group Preference]** 値を変更した後、変更を有効にするには、Cisco UCS S3260 シャーシの稼働を中止してから再稼働させます。

Cisco UCS ドメインでは、他のシャーシが **[Port Channel]** モードで稼働している場合、次を実行します。

1. **[Link Group Preference]** が **[Port Channel]** に設定された Cisco UCS システムのシャーシを検出します
2. Cisco UCS S3260 シャーシのリンク集約のプリファレンスをシャーシ接続ポリシーを通じて変更します
3. シャーシの稼働を中止します
4. シャーシを再稼働します

シャーシ/FEX ディスカバリ ポリシーの設定

手順の概要

1. UCS-A# **scope org /**
2. UCS-A /org # **scope chassis-disc-policy**

3. (任意) UCS-A /org/chassis-disc-policy # **set descr** *description*
4. UCS-A /org/chassis-disc-policy # **set link-aggregation-pref** {**none** | **port-channel**}
5. UCS-A /org/chassis-disc-policy # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org /	ルート組織モードを開始します。 (注) シャーシ/FEX ディスカバリ ポリシーは、ルート組織からのみアクセスできます。
ステップ 2	UCS-A /org # scope chassis-disc-policy	組織シャーシ/FEX ディスカバリ ポリシー モードを開始します。
ステップ 3	(任意) UCS-A /org/chassis-disc-policy # set descr <i>description</i>	シャーシ/FEX ディスカバリ ポリシーの説明が提供されます。 (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明を引用符で括る必要があります。引用符は、 show コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-disc-policy # set link-aggregation-pref { none port-channel }	ISIOC または FEX からファブリック インターコネクタへのリンクをポートチャネルにグループ化するかを指定します。リンク集約には、次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • none—SIOC からのリンクはファブリック インターコネクタにピン接続されます。 • port-channel、SIOCs から、ファブリック インターコネクタへのリンクはポートチャネルにまとめられます
ステップ 5	UCS-A /org/chassis-disc-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、デフォルトシャーシディスカバリ ポリシーにスコープ設定し、ポリシーに説明を加え、ポートチャネルにリンク グルーピングプリファレンスを設定し、シャーシの資格認定に使用するサーバプールポリシー資格情報を指定し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope chassis-disc-policy
UCS-A /org/chassis-disc-policy* # set descr "This is an example chassis discovery policy."
UCS-A /org/chassis-disc-policy* # set link-aggregation-pref port-channel
UCS-A /org/chassis-disc-policy* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-disc-policy #
```

次のタスク

特性のシャーシのファブリック ポート チャンネルの接続をカスタマイズするには、シャーシ接続ポリシーを設定します。

シャーシ接続ポリシー

シャーシ接続ポリシーは、特定のシャーシがシャーシ ディスカバリ後にファブリック ポート チャンネルに含まれるかどうかを決定します。このポリシーは、グローバル シャーシ ディスカバリ ポリシーで指定したのとは異なる方法で1つ以上のシャーシを設定する場合に役立ちます。

デフォルトでは、シャーシ接続ポリシーはグローバルに設定されます。これはつまり、接続制御はシャーシが新しく検出されたときに、シャーシ ディスカバリ ポリシーに設定された内容を使用して設定されることを意味しています。シャーシが検出されると、接続制御が「なし」と「ポート チャンネル」のどちらに設定されるかを、シャーシ接続ポリシーが制御します。



(注) シャーシ接続ポリシーは、Cisco UCS Manager によって、ハードウェア設定がファブリック ポート チャンネルをサポートする場合にだけ作成されます。

次の表に、FC/FCoE のさまざまな接続とメディア タイプのサポートを示します。

表 7: FC/FCoE の接続とメディア タイプのサポート

FI	接続	サポート	ポート チャンネル	FC/FCoE
Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect	直接接続 10 GB-QSA	対応 ブレイクアウトを使用しない	¹ SIOC (非ポートチャンネル) ² 新しい gen SIOC - なし	Yes
Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect	直接接続: 25 G SFP 28	対応 ブレイクアウトを使用しない	SIOC - なし 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	対応

FI	接続	サポート	ポート チャンネル	FC/FCoE
Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect	2232 FEX - 10 GB - QSA	対応	SIOC (非ポートチャンネル) 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	対応
Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect	2232xx - 4x10 GB - ブレークアウトケーブル	対応	SIOC (ポートチャンネル) 新しい gen SIOC-なし	該当なし
63xx	直接接続 40 GB	対応	SIOC (非ポートチャンネル) 新しい gen SIOC-なし	対応
63xx	直接接続 10 GB - QSA	対応 ブレークアウトを使用しない	SIOC - なし 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	×
63xx	直接接続 4x10 GB - ブレイクアウト	非対応	該当なし	該当なし
63xx	直接接続 2x10 GB - ブレイクアウト	Yes	SIOC - なし 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	×
63xx	2348UPQ FEX - 10 GB - QSA	対応	SIOC (非ポートチャンネル) 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	対応
63xx	2348UPQ FEX - 4x10 GB - ブレークアウト	非対応	該当なし	該当なし
62xx	直接接続 - 4x10 GB - ブレークアウトケーブル	対応	SIOC (ポートチャンネル) 新しい gen SIOC-なし	対応

FI	接続	サポート	ポート チャンネル	FC/FCoE
62xx	直接接続 - 10 GB - QSA	対応	SIOC (非ポート チャンネル) 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	対応
62xx	2232 FEX - 10 GB - QSA	対応	SIOC (非ポート チャンネル) 新しい gen SIOC (ポートチャンネル)	対応
62xx	2232xx - 4x10 GB - ブレークアウト ケーブル	非対応	該当なし	該当なし
6324	直接接続 - 40 GB	非対応	該当なし	該当なし
6324	直接接続 - 10 GB - QSA	非対応	該当なし	該当なし

¹ リリース 3.2 以前で使用されている PCIe を持たない SIOC

² リリース 4.0 以降で使用されている PCIe スロットを持つ新しい SIOC

シャーシ接続ポリシーの設定



注意 シャーシの接続モードを変更すると、シャーシの稼働が停止し、再稼働することが必要になります。

手順の概要

1. UCS-A# **scope org org-name**
2. UCS-A /org # **scope chassis-conn-policy chassis-num [a | b]**
3. UCS-A /org/chassis-conn-policy # **set link-aggregation-pref {global | none | port-channel}**
4. UCS-A /org/chassis-conn-policy # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の設定モードに入ります。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope chassis-conn-policy chassis-num [a b]	指定されたシャーシとファブリックのシャーシ接続ポリシー組織モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /org/chassis-conn-policy # set link-aggregation-pref {global none port-channel}	<p>SIOC からファブリック インターコネクタへのリンクをグループ化する方法を指定します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • none—ポートチャンネルにグループ化されるリンクがありません。 • port-channel—SIOC からファブリック インターコネクタへのすべてのリンクがポートチャンネルにグループ化されます。 • global—シャーシは、シャーシディスパッチャーからの設定を継承します。これはデフォルト値です。
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-conn-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例に、2つのシャーシのファブリック ポートチャンネル接続を変更する方法を示します。シャーシ 6 ファブリック A はポートチャンネルに変更され、シャーシ 12 ファブリック B は個別リンクに変更されます。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope chassis-conn-policy 6 a
UCS-A /org/chassis-conn-policy # set link-aggregation-pref port-channel
UCS-A /org/chassis-conn-policy* # up
UCS-A /org* # scope chassis-conn-policy 12 b
UCS-A /org/chassis-conn-policy* # set link-aggregation-pref none
UCS-A /org/chassis-conn-policy* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-conn-policy #
```




第 5 章

シャーシ プロファイル

- シャーシ プロファイル Cisco UCS Manager (43 ページ)
- シャーシ プロファイルに関するガイドラインおよび推奨事項 (44 ページ)
- シャーシ プロファイルの作成 (44 ページ)
- シャーシ プロファイルの名前の変更 (46 ページ)
- シャーシ プロファイルの削除 (48 ページ)
- シャーシ プロファイルの関連付け (48 ページ)
- シャーシ プロファイル テンプレート (50 ページ)
- メンテナンス ポリシー (56 ページ)
- コンピューティング接続ポリシー (58 ページ)

シャーシ プロファイル Cisco UCS Manager

シャーシ プロファイルはシャーシのストレージ、ファームウェアとメンテナンスの特性を定義します。Cisco UCS S3260 シャーシのシャーシ プロファイルを作成できます。シャーシ プロファイルがシャーシに関連付けられると、Cisco UCS Manager は自動的にシャーシ プロファイルで指定された設定に一致するようにシャーシを設定します。



重要 各 S3260 シャーシは、いつの時点においても 1 つのシャーシ プロファイルだけに関連付けることができます。同様に、各シャーシ プロファイルは 1 度に 1 つの S3260 シャーシだけに関連付けることができます。

シャーシ プロファイルには、次の情報が含まれます。

- **Chassis definition** : プロファイルを割り当てる特定のシャーシを定義します。
- **Maintenance policy** : プロファイルに適用されるメンテナンス ポリシーが含まれます。
- **[Firmware specifications]** : このプロファイルによるシャーシに適用できるシャーシファームウェア パッケージを定義します。
- **[Disk zoning policy]** : ストレージディスクに適用されるゾーン分割ポリシーが含まれます。

- Compute Connection policy : プライマリ SIOC、補助 SIOC、およびサーバ間のデータパスを定義します。

シャーシ プロファイルに関するガイドラインおよび推奨事項

シャーシ プロファイルまたはシャーシ プロファイル テンプレートに含まれるポリシー（ディスク ゾーン分割ポリシーなど）に固有のガイドラインと推奨事項に加え、シャーシ プロファイルとシャーシを関連付ける機能に影響する以下のガイドラインと推奨事項も順守してください。

- 各 S3260 シャーシは、1 個のみシャーシ プロファイルに関連付けることが可能です。同様に、各シャーシ プロファイルは 1 度に 1 つの S3260 シャーシ だけに関連付けることができます。
- シャーシ プロファイルは、Cisco UCS S3260 シャーシ 上でのみサポートされます。Cisco UCS 5108 ブレード サーバ シャーシは、シャーシ プロファイルをサポートしておらず、シャーシ プロファイルに関連付けることはできません。
- Cisco UCS S3260 シャーシ では、S シリーズ サーバ ソフトウェアの Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) より前のバンドルはサポートされません。

シャーシ プロファイルの作成

手順の概要

1. UCS-A# **scope org org-name**
2. UCS-A /org # **create chassis-profile profile-name instance**
3. (任意) UCS-A /org/chassis-profile* # **set descr description**
4. (任意) UCS-A /org/chassis-profile* # **set chassisfwpolicyname chassis-firmware-policy-name**
5. (任意) UCS-A /org/chassis-profile* # **set chassis-profile-maint-policy policy-name**
6. (任意) UCS-A /org/chassis-profile* # **set user-label label-name**
7. (任意) UCS-A /org/chassis-profile* # **set src-templ-name source-chassis-profile-template-name**
8. (任意) UCS-A /org/chassis-profile* # **set disk-zoning-policy disk-zoning-policy-name**
9. (任意) UCS-A /org/chassis-profile* # **set compute-conn-policy compute-conn-policy-name**
10. (任意) UCS-A /org/chassis-profile* # **set sas-expander-configuration-policy sas-expander-configuration-policy-name**
11. UCS-A /org/chassis-profile* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # create chassis-profile profile-name instance	指定したシャーシプロファイルインスタンスを作成し、組織サービスプロファイルモードを開始します。 このシャーシプロファイルを特定する一意の <i>profile-name</i> を入力します。 この名前には、1 ~ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。
ステップ 3	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # set descr description	シャーシプロファイルの説明を提供します。 (注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明を引用符で括弧する必要があります。引用符は、 show コマンド出力の説明フィールドには表示されません。
ステップ 4	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # set chassis-fw-policy-name chassis-firmware-policy-name	シャーシプロファイルに指定されたシャーシファームウェアポリシーを関連付けます。
ステップ 5	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # set chassis-profile-maint-policy policy-name	シャーシプロファイルに指定されたシャーシメンテナンスポリシーを関連付けます。
ステップ 6	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # set user-label label-name	シャーシプロファイルに関連付けられたユーザーラベルを指定します。
ステップ 7	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # set src-templ-name source-chassis-profile-template-name	シャーシプロファイルに指定されたシャーシプロファイルテンプレートをバインドします。
ステップ 8	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # set disk-zoning-policy disk-zoning-policy-name	シャーシプロファイルに指定されたディスクゾニングポリシーを関連付けます。
ステップ 9	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # set compute-conn-policy compute-conn-policy-name	

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # set sas-expander-configuration-policy <i>sas-expander-configuration-policy-name</i>	シャーシプロファイルに指定された SAS エクスパンダ設定ポリシーを関連付けます。
ステップ 11	UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は、シャーシプロファイルインスタンスを作成してトランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # create chassis-profile ChassisProfile1 instance
UCS-A /org/chassis-profile* # set descr "This is a chassis profile example."
UCS-A /org/chassis-profile* # set chassis-profile-maint-policy chassismaintpol4
UCS-A /org/chassis-profile* # set user-label mycplabel
UCS-A /org/chassis-profile* # set chassisfwpolicyname cfpl
UCS-A /org/chassis-profile* # set src-templ-name chassispt1
UCS-A /org/chassis-profile* # set disk-zoning-policy dzpl
UCS-A /org/chassis-profile* # set compute-conn-policy ccpl
UCS-A /org/chassis-profile* # set sas-expander-configuration-policy secpl
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

次のタスク

シャーシプロファイルを S3260 シャーシに関連付けます。

シャーシ プロファイルの名前の変更

シャーシプロファイルの名前を変更すると、次のことが起こります。

- シャーシプロファイルの以前の名前を参照するイベント ログと監査ログは、その名前のまま保持されます。
- 名前変更の操作を記録する、新しい監査データが作成されます。
- シャーシプロファイルの以前の名前で生じたすべての障害データは、新しいシャーシプロファイル名に転送されます。



(注) 保留中の変更があるシャーシプロファイルの名前は変更できません。

手順の概要

1. UCS-A# **scope org org-name**
2. UCS-A /org # **scope chassis-profile profile-name**
3. UCS-A /org/chassis-profile # **rename-to new-profile-name**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope chassis-profile profile-name	指定されたシャーシプロファイルの組織シャーシプロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/chassis-profile # rename-to new-profile-name	指定されたシャーシプロファイルの名前を変更します。 この名前には、1～16文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および. (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。 このコマンドを入力すると、これはスタンドアロン操作であり、CLIセッションのコミットされていないすべての変更が失われることがあるという警告がされます。続行するには確認のため yes を入力します。

例

この例では、シャーシプロファイルの名前を CP5 から CP10 に変更し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope chassis-profile CP5
UCS-A /org/chassis-profile # rename-to CP10
Rename is a standalone operation. You may lose any uncommitted changes in this CLI session.
Do you want to continue? (yes/no): yes
The managed object in the current mode no longer exists. Changing to mode: /org
UCS-A /org #
```

シャーシ プロファイルの削除

この手順では、シャーシ プロファイルを削除する方法について説明します。

手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **delete chassis-profile** *profile-name*
3. UCS-A /org* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # delete chassis-profile <i>profile-name</i>	指定されたシャーシ プロファイルを削除します。
ステップ 3	UCS-A /org* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

この例では、シャーシ プロファイル ChasInst90 を削除し、トランザクションをコミットする方法を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org delete chassis-profile ChasInst90
UCS-A /org* # commit-buffer
UCS-A /org #
```

シャーシ プロファイルの関連付け

シャーシ プロファイルとシャーシの関連付け

作成時にシャーシ プロファイルをシャーシに関連付けなかった場合、またはシャーシ プロファイルに関連付けるシャーシを変更する場合には、次の手順を実行します。

手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **scope chassis-profile** *profile-name*

3. UCS-A /org/chassis-profile # **associate chassis chassis-id [restrict-migration]**
4. UCS-A /org/chassis-profile* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope chassis-profile profile-name	指定されたシャーシプロファイルの組織シャーシプロファイルモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/chassis-profile # associate chassis chassis-id [restrict-migration]	シャーシプロファイルを単一のシャーシに関連付けます。 オプションの restrict-migration キーワードを追加すると、シャーシプロファイルは別のシャーシに移行されません。
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は ChassisProf1 という名前のシャーシプロファイルとシャーシ 1 を関連付け、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope chassis-profile ChassisProf1
UCS-A /org/chassis-profile # associate chassis 1
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

シャーシ プロファイルとシャーシの関連付け解除

この手順は、シャーシからシャーシプロファイルの関連付けを解除する方法を説明します。



- (注) シャーシのシャーシプロファイルからの関連付けを解除するとき、ディスクゾーニングポリシーの効果は引き続きシャーシに残ります。

手順の概要

1. UCS-A# **scope org org-name**
2. UCS-A /org # **scope chassis-profile profile-name**

3. UCS-/org/chassis-profile # **disassociate**
4. UCS-A /org/chassis-profile* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope chassis-profile <i>profile-name</i>	指定されたシャーシ プロファイルの組織シャーシ プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-/org/chassis-profile # disassociate	シャーシからシャーシプロファイルの関連付けを解除します。
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は ChassisProf1 という名前のシャーシプロファイルとシャーシの関連付けを解除し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # scope chassis-profile ChassisProf1
UCS-A /org/chassis-profile # disassociate
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

シャーシ プロファイル テンプレート

シャーシ プロファイル テンプレートの作成

手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **create chassis-profile** *profile-name* {**initial-template** | **updating-template**}
3. (任意) UCS-A /org/chassis-profile* # **set descr** *description*
4. UCS-A /org/chassis-profile* # **set chassisfwpolycname** *chassis-firmware-policy-name*
5. UCS-A /org/chassis-profile* # **set chassis-profile-maint-policy** *policy-name*
6. UCS-A /org/chassis-profile* # **set user-label** *label-name*
7. UCS-A /org/chassis-profile* # **set src-templ-name** *source-chassis-profile-template-name*
8. UCS-A /org/chassis-profile* # **set disk-zoning-policy** *disk-zoning-policy-name*

- 9. UCS-A /org/chassis-profile* # **set compute-conn-policy** *compute-conn-policy-name*
- 10. UCS-A /org/chassis-profile* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の設定モードに入ります。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # create chassis-profile <i>profile-name</i> { initial-template updating-template }	<p>指定したシャーシプロファイル テンプレートを作成し、組織サービス プロファイル モードを開始します。</p> <p>このシャーシプロファイルを特定する一意の <i>profile-name</i> を入力します。</p> <p>この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。</p> <p>シャーシプロファイル テンプレート タイプ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • initial-template—このテンプレートが更新される場合、インスタントは自動的に更新されません。 • updating-template—テンプレートが更新される場合、インスタンスは自動的に更新されます。
ステップ 3	(任意) UCS-A /org/chassis-profile* # set descr <i>description</i>	<p>シャーシプロファイル テンプレートの説明を示します。</p> <p>(注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明を引用符で括る必要があります。引用符は、show コマンド出力の説明フィールドには表示されません。</p>
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-profile* # set chassisfwpolycname <i>chassis-firmware-policy-name</i>	シャーシプロファイル テンプレートと指定されたシャーシファームウェアポリシーを関連付けます。
ステップ 5	UCS-A /org/chassis-profile* # set chassis-profile-maint-policy <i>policy-name</i>	シャーシプロファイル テンプレートと指定されたシャーシ メンテナンス ポリシーを関連付けます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	UCS-A /org/chassis-profile* # set user-label <i>label-name</i>	シャーシ プロファイルに関連付けられるユーザ ラベルを指定します。
ステップ 7	UCS-A /org/chassis-profile* # set src-templ-name <i>source-chassis-profile-template-name</i>	シャーシ プロファイルに指定されたシャーシ プロファイル テンプレートをバインドします。
ステップ 8	UCS-A /org/chassis-profile* # set disk-zoning-policy <i>disk-zoning-policy-name</i>	シャーシ プロファイル テンプレートに指定されたディスク ゾーン分割ポリシーを関連付けます。
ステップ 9	UCS-A /org/chassis-profile* # set compute-conn-policy <i>compute-conn-policy-name</i>	シャーシ プロファイル テンプレートに指定されたコンピューティング接続ポリシーを関連付けます。
ステップ 10	UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は、シャーシ プロファイル テンプレートを作成してトランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org* # create chassis-profile ChassisProTempl updating-template
UCS-A /org/chassis-profile* # set descr "This is a chassis profile template example."
UCS-A /org/chassis-profile* # set chassis-profile-maint-policy chassismaintpol2
UCS-A /org/chassis-profile* # set user-label mycptlabel
UCS-A /org/chassis-profile* # set chassisfwpolicyname cptf1
UCS-A /org/chassis-profile* # set src-templ-name chassispt1
UCS-A /org/chassis-profile* # set disk-zoning-policy dzpl
UCS-A /org/chassis-profile* # set compute-conn-policy ccpl
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

次のタスク

シャーシ プロファイル テンプレートからシャーシ プロファイル インスタンスを作成します。

シャーシ プロファイル テンプレートからのシャーシ プロファイル インスタンスの作成

始める前に

シャーシ プロファイル インスタンスを作成するためのシャーシ プロファイル テンプレートがあることを確認します。

手順の概要

1. UCSC(resource-mgr)# **scope org** *org-name*

2. UCSC(resource-mgr) /org # **create chassis-profile** *profile-name* **instance**
3. UCSC(resource-mgr) /org/chassis-profile* # **set src-templ-name** *profile-name*
4. Ucs (resource-mgr)/組織/シャーシ-プロファイル * # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCSC(resource-mgr)# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCSC(resource-mgr) /org # create chassis-profile <i>profile-name</i> instance	指定したシャーシ プロファイル インスタンスを作成し、組織サービス プロファイル モードを開始します。 このシャーシ プロファイル を特定する一意の <i>profile-name</i> を入力します。 この名前には、1 ～ 16 文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後にこの名前を変更することはできません。
ステップ 3	UCSC(resource-mgr) /org/chassis-profile* # set src-templ-name <i>profile-name</i>	元になるシャーシ プロファイル テンプレートを指定してシャーシ プロファイル インスタンスに適用します。シャーシ プロファイル テンプレートからのすべての設定が、シャーシ プロファイル インスタンスに適用されます。
ステップ 4	Ucs (resource-mgr)/組織/シャーシ-プロファイル * # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は、ChassisProf02 という名前のシャーシ プロファイル インスタンスを作成し、ChassisProfTemp2 という名前の sh が一し プロファイル テンプレートを適用し、トランザクションをコミットします。

```
UCSC (resource-mgr) # scope org /
UCSC (resource-mgr) /org* # create chassis-profile ChassisProf02 instance
UCSC (resource-mgr) /org/chassis-profile* # set src-templ-name ChassisProfTemp2
UCSC (resource-mgr) /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCSC (resource-mgr) /org/chassis-profile #
```

次のタスク

シャーシ プロファイルをシャーシに関連付けます。

シャーシ プロファイル テンプレートへのシャーシ プロファイルのバインディング

シャーシ プロファイルをシャーシ プロファイル テンプレートにバインドすることができます。シャーシ プロファイルをテンプレートにバインドした場合、Cisco UCS Manager により、シャーシ プロファイル テンプレートに定義された値を使って、シャーシ プロファイルが設定されます。既存のシャーシ プロファイル設定がテンプレートに一致しない場合、Cisco UCS Manager により、シャーシ プロファイルが再設定されます。バインドされたシャーシ プロファイルの設定は、関連付けられたテンプレートを使用してのみ変更できます。

手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **scope chassis-profile** *profile-name*
3. UCS A/org/chassis-profile # **set src-templ-name***chassis-profile-template-name*
4. UCS-A /org/chassis-profile* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope chassis-profile <i>profile-name</i>	指定されたシャーシ プロファイルの組織シャーシ プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS A/org/chassis-profile # set src-templ-name <i>chassis-profile-template-name</i>	シャーシ プロファイルに指定されたシャーシ プロファイル テンプレートをバインドします。
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ChassisProfileTemplate1 に ChassisProf1 という名前のシャーシ プロファイルをバインドし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # scope chassis-profile ChassisProf1
UCS-A /org/chassis-profile # set src-templ-name ChassisProfileTemplate1
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

シャーシ プロファイル テンプレートからのシャーシ プロファイルのバインド解除

シャーシ プロファイル テンプレートからシャーシ プロファイルをアンバインドするには、空の値（スペースなしの引用符）にシャーシ プロファイルをバインドします。

手順の概要

1. UCSC # **scope org** *org-name*
2. UCSC /org # **scope chassis-profile** *profile-name*
3. UCSC/org/chassis-profile # **set src-templ-name** ""
4. UCSC /org/chassis-profile* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCSC # scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCSC /org # scope chassis-profile <i>profile-name</i>	指定されたシャーシ プロファイルの組織シャーシ プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCSC/org/chassis-profile # set src-templ-name ""	シャーシ プロファイル テンプレートからのシャーシ プロファイルのバインド解除
ステップ 4	UCSC /org/chassis-profile* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ChassisProf1 という名前のシャーシ プロファイルをバインド解除し、トランザクションをコミットします。

```
UCSC# scope org
UCSC /org # scope chassis-profile ChassisProf1
UCSC /org/chassis-profile # set src-templ-name ""
UCSC /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCSC /org/chassis-profile #
```

メンテナンス ポリシー

シャーシ プロファイル メンテナンス ポリシーの作成

手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **create chassis-profile-maint-policy** *policy-name*
3. UCS A/org/chassis-profile-maint-ポリシー * # **set reboot-policy user-ack**
4. (任意) UCS-/org/chassis-profile-maint-policy * # **set descr** *description*
5. (任意) UCS A/org/chassis-profile-maint-ポリシー * # **set policy-owner global | local**
6. UCS-A /org/maint-policy #* **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # create chassis-profile-maint-policy <i>policy-name</i>	指定されたメンテナンスポリシーを作成し、メンテナンス ポリシー モードを開始します。
ステップ 3	UCS A/org/chassis-profile-maint-ポリシー * # set reboot-policy user-ack	ポリシーがシャーシに関連付けられると、シャーシは関連付けを完了するために再確認する必要があります。ユーザは、変更が適用される前に apply pending-changes コマンドを使用して変更を明示的に確認する必要があります。
ステップ 4	(任意) UCS-/org/chassis-profile-maint-policy * # set descr <i>description</i>	ポリシーの説明。ポリシーを使用する場所とタイミングについての情報を含めることを推奨します。
ステップ 5	(任意) UCS A/org/chassis-profile-maint-ポリシー * # set policy-owner global local	メンテナンス ポリシーの所有者を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • global - グローバル ポリシーの所有権は Cisco UCS Central にあるため、Cisco UCS Manager を使用してこのポリシー所有権を変更することはできません。1 つ以上の登録済み Cisco UCS ドメイン内のシャーシにグローバル ポリシーを関連付けることができます。 • local - 同じドメインのローカル ポリシーでのみシャーシを関連付けることができます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	UCS-A /org/maint-policy #* commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例は、「maintenance」という名前のメンテナンスポリシーを作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # create chassis-profile-maint-policy maintenance
UCS-A /org/chassis-profile-maint-policy* # set reboot-policy user-ack
UCS-A /org/chassis-profile-maint-policy* # commit-buffer
UCS-A /org/maint-policy #
```

シャーシ プロファイル/シャーシ プロファイル テンプレートのメンテナンス ポリシーの設定

手順の概要

1. UCS-A# **scope org org-name**
2. UCS-A /org # **scope chassis-profile profile-name|template-name**
3. UCS A/org/chassis-profile # **set chassis-profile-maint-policy maintenance-policy-name**
4. UCS-A /org/chassis-profile* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org org-name	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope chassis-profile profile-name template-name	指定されたシャーシ プロファイルの組織シャーシ プロファイルまたはシャーシ プロファイル テンプレート モードを開始/シャーシ プロファイル テンプレート/。
ステップ 3	UCS A/org/chassis-profile # set chassis-profile-maint-policy maintenance-policy-name	指定されたメンテナンス ポリシーを chassis profile//chassis profile template に関連付けます。 既存のメンテナンス ポリシー名を使用するか、新しいポリシーを入力します。
ステップ 4	UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、シャーシプロファイルにメンテナンスポリシーを関連付け、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # scope chassis-profile ChassisProfile1
UCS-A /org/chassis-profile # set chassis-profile-maint-policy default
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile #
```

コンピューティング接続ポリシー

コンピューティング接続ポリシーは、サーバ SIOC 接続のユーザ設定を保存するために使用されます。これらの設定は、[Server SIOC Connectivity] プロパティを使用して行われます。このプロパティは次のいずれかに設定できます。

- [single-server-single-sioc] (デフォルト) : シャーシに単一サーバと単一 SIOC またはデュアルサーバとデュアル SIOC が装着されている場合に、1 つの SIOC を経由するデータパスを設定します。
- [single-server-dual-sioc] : 有効な場合は、シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されていると、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を経由するデータパスを設定できます。詳細については、[Server SIOC Connectivity 機能 \(14 ページ\)](#) を参照してください。

コンピューティング接続ポリシーの作成

手順の概要

1. UCS-A# **scope org**
2. UCS-/org # **create compute-conn-policy** *compute-conn-policy-name*
3. (任意) UCS-A /org/compute-conn-policy* # **set descr** *description*
4. UCS-A /org/compute-conn-policy* # **set server-sioc-connectivity** {single-server-dual-sioc | single-server-single-sioc}
5. UCS A/org/compute-conn-policy # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org	ルート組織モードを開始します。
ステップ 2	UCS-/org # create compute-conn-policy <i>compute-conn-policy-name</i>	指定されたコンピューティング接続ポリシーを作成します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	(任意) UCS-A /org/compute-conn-policy* # set descr description	<p>ポリシーの説明を記します。</p> <p>(注) 説明にスペース、特殊文字、または句読点が含まれている場合、説明の前後に引用符を付ける必要があります。引用符は、show コマンド出力の説明フィールドには表示されません。</p>
ステップ 4	UCS-A /org/compute-conn-policy* # set server-sioc-connectivity {single-server-dual-sioc single-server-single-sioc}	<ul style="list-style-type: none"> • [single-server-single-sioc (デフォルト)] : シャーシに単一サーバと単一 SIOC またはデュアルサーバとデュアル SIOC が装着されている場合に、1 つの SIOC を経由するデータパスを設定します。 • [single-server-dual-sioc] : 有効な場合は、シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されていると、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を経由するデータパスを設定できます。詳細については、Server SIOC Connectivity 機能 (14 ページ) を参照してください。
ステップ 5	UCS A/org/compute-conn-policy # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # create compute-conn-policy ccptest
UCS-A /org/compute-conn-policy* # set descr "This is an example policy."
UCS-A /org/compute-conn-policy* # set server-sioc-connectivity single-server-dual-sioc
UCS-A /org/compute-conn-policy* # commit-buffer
UCS-A /org/compute-conn-policy #
```

コンピューティング接続ポリシーとシャーシプロファイルの関連付け

手順の概要

1. UCS-A# **scope org**
2. UCS-/org # **scope chassis_profile chassis-profile-name**
3. UCS-A /org/chassis-profile# **set compute-conn-policy compute-conn-policy-name**
4. UCS-/org/chassis-profile # **commit-buffer**
5. UCS-/org/chassis-profile # **apply pending-changes immediate**
6. UCS-/org/chassis-profile # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org	ルート組織モードを開始します。
ステップ 2	UCS-/org # scope chassis_profile chassis-profile-name	シャーシ プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/chassis-profile# set compute-conn-policy compute-conn-policy-name	シャーシプロファイルに指定されたコンピューティング接続ポリシーに関連付けます。
ステップ 4	UCS-/org/chassis-profile # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 5	UCS-/org/chassis-profile # apply pending-changes immediate	保留中の変更を確認し、プロファイルの関連付けをトリガーします。 (注) コンピューティング接続ポリシーの設定を変更すると、保留イベントが発生します。この保留イベントを確認した後でのみ、シャーシプロファイルの関連付けが自動的に開始します。
ステップ 6	UCS-/org/chassis-profile # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # scope chassis-profile chassisprofile1
UCS-A /org/chassis-profile # set compute-conn-policy compconpolicy1
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile # apply pending-changes immediate
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
```



第 6 章

Cisco UCS S3260 システムストレージ管理

- [ストレージサーバ機能およびコンポーネントの概要 \(61 ページ\)](#)
- [Cisco UCS S3260 ストレージ管理操作 \(71 ページ\)](#)
- [高可用性のためのディスクの共有 \(72 ページ\)](#)
- [ストレージエンクロージャ操作 \(78 ページ\)](#)
- [SAS エクスパンダ設定ポリシー \(79 ページ\)](#)

ストレージサーバ機能およびコンポーネントの概要

ストレージサーバ機能

次の表に、Cisco UCS S3260 システムの機能の概要を示します。

表 8 : Cisco UCS S3260 システムの機能

機能	説明
シャーシ	4 ラック ユニット (4RU) シャーシ
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none">• Cisco UCS S3260 M3 サーバ ノード : 各サーバ ノード内の 2 つの Intel Xeon E5-2600 v2 シリーズ プロセッサ。• Cisco UCS S3260 M4 サーバ ノード : 各サーバ ノード内の 2 つの Intel Xeon E5-2600 v4 シリーズ プロセッサ。• Cisco UCS S3260 M3 サーバ ノード : 各サーバ ノード内の 2 つの Skylake 2S-EP プロセッサ。
メモリ	各サーバ ノード内で最大 16 個の DIMM。

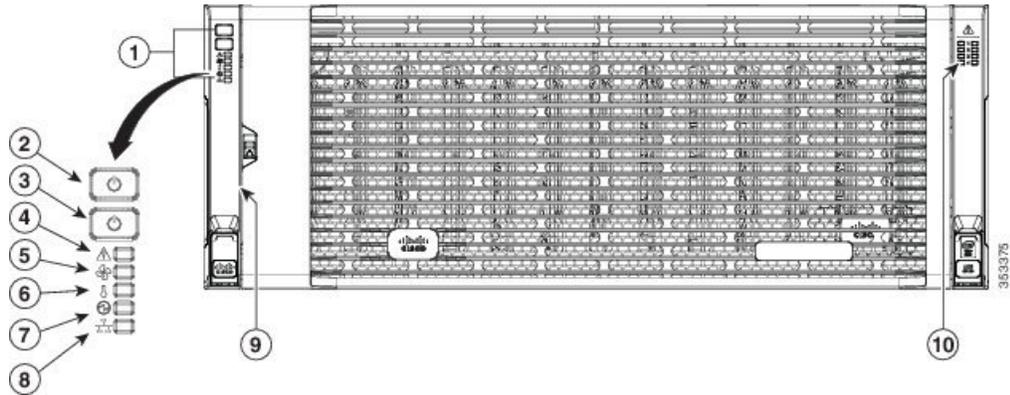
機能	説明
マルチビット エラー保護	このシステムは、マルチビット エラー保護をサポートします。
ストレージ	<p>システムには次のストレージ オプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最大 56 台のトップ ローディング 3.5 インチ ドライブ • オプションのドライブ エクспанダ モジュール内に最大 4 台の 3.5 インチ、リア ローディング ドライブ • 最大 4 台の 2.5 インチ、リア ローディング SAS ソリッドステート ドライブ (SSD) • サーバ ノード内部の 1 台の 2.5 インチ NVMe ドライブ (注) これは S3260 M4 サーバにのみ適用されます。 • サーバ ノード内に 2 台の 7 mm NVMe ドライブ (注) これは、S3260 M5 サーバのみに適用されます。 • IO エクспанダのサポートされている 2 つの 15 mm NVMe ドライブ
ディスク管理	<p>このシステムは、最大 2 台のストレージ コントローラをサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各サーバ ノード内に Cisco ストレージ コントローラ カード用の専用メザニン形式 ソケット 1 基
RAID バックアップ	supercap 電源モジュール (SCPM) は、RAID コントローラ カードにマウントされます。

機能	説明
PCIe I/O	<p>オプションの I/O エクスパンダは、8x Gen 3 PCIe 拡張スロットを 2 つ提供します。</p> <p>リリース 3.2(3) 以降では、S3260 M5 サーバで次をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Intel X550 デュアルポート 10GBase-T • Qlogic QLE2692 デュアルポート 16G ファイバチャネル HBA • N2XX-AIPCI01 Intel X520 デュアルポート 10 Gb SFP+ アダプタ
ネットワークおよび管理 I/O	<p>システムには、システム I/O コントローラ (SIOC) を 1 つまたは 2 つ搭載できます。それにより、背面パネル管理とデータ接続が可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIOC ごとに 2 つの SFP+ 40 Gb ポート • SIOC ごとに 1 つの 10/100/1000 イーサネット専用管理ポート <p>サーバノードごとに、KVM ケーブルで 2 つの USB を接続できる 1 つの背面パネル KVM コネクタ、1 つの VGA DB-15 コネクタ、1 つのシリアル DB-9 コネクタがあります。</p>
電源	2 台または 4 台の電源装置、各 1050 W (ホットスワップ可能で 2+2 冗長)。
冷却	<p>前面から背面に冷却を引き出す 4 つの内蔵ファンモジュール、ホットスワップ可能。各ファンモジュールには 2 つのファンが内蔵されています。</p> <p>さらに、各電源にはファンが 1 個あります。</p>

前面パネルの機能

次の図に、Cisco UCS S3260 システムの前面パネルの機能を示します。

図 10: 前面パネルの機能

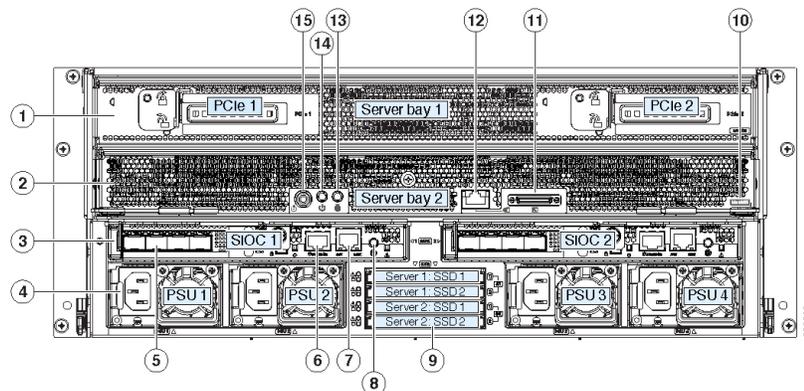


1	操作パネル	6	温度ステータス LED
2	システム電源ボタン/LED	7	電源装置ステータス LED
3	システムユニット識別ボタン/LED	8	ネットワークリンクアクティビティ LED
4	システムステータス LED	9	引き出し型の資産タグ (前面ベゼルの下に表示されない)
5	ファンステータス LED	10	内蔵ドライブのステータス LED

背面パネルの機能

次の図に、Cisco UCS S3260 システムの背面パネルの機能を示します。

図 11: 前面パネルの機能



ディスク スロット

1	サーバ ベイ 1 <ul style="list-style-type: none">• (オプション) I/O エクスパンダ (図を参照) (Cisco UCS S3260 M4および M5サーバノードのみに搭載)• (オプション) サーバノード• (オプション) ドライブ拡張モジュール	8	現時点ではサポートされていません。
2	サーバ ベイ 2 <ul style="list-style-type: none">• (オプション) サーバノード (Cisco UCS S3260 M4および M5に表示)• (オプション) ドライブ拡張モジュール	9	現時点ではサポートされていません。

3	<p>システム I/O コントローラ (SIOC)</p> <ul style="list-style-type: none"> サーバベイ 1 にサーバノードがある場合は SIOC 1 が必要 サーバベイ 2 にサーバノードがある場合は SIOC 2 が必要です 	10	<p>ソリッドステートドライブ ベイ (最大で 4 つの 2.5 インチ SAS SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ベイ 1 および 2 の SSD には、サーバベイ 1 のサーバノードが必要です ベイ 3 および 4 の SSD には、サーバベイ 2 のサーバノードが必要です
4	電源装置 (4、2+2 として冗長)	11	<p>Cisco UCS S3260 M4 サーバノードのラベル (M4 SVRN)</p> <p>(注) このラベルは、Cisco UCS S3260 M4 および M5 サーバノードを識別します。Cisco UCS S3260 M3 サーバノードにはラベルがありません。</p>
5	40 Gb SFP+ ポート (SIOC ごとに 2 つ)	12	<p>KVM コンソール コネクタ (サーバノードごとに 1 つ)</p> <p>USB 2 個、VGA 1 個、シリアルコネクタ 1 個を装備した KVM ケーブルで使用</p>
6	<p>Chassis Management Controller (CMS) のデバッグファームウェアユーティリティポート (SIOC ごとに 1 つ)</p>	13	サーバノードのユニット識別ボタン/LED

7	10/100/1000 専用管理ポート、RJ-45 コネクタ (SIOC ごとに 1 つ)	14	サーバノードの電源ボタン
		15	サーバノードのリセットボタン (サーバノードのチップセットをリセット)

ストレージサーバコンポーネント

サーバノード

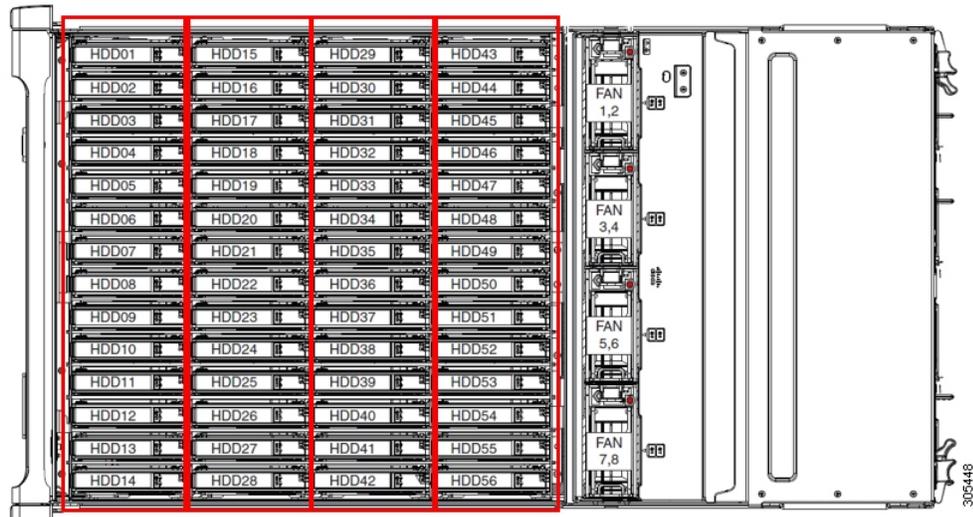
Cisco UCS S3260 システムは、1 つまたは 2 つのノードから構成されています。各ノードには 2 つの CPU、128 GB、256 GB、または 512 GB の DIMM メモリ、最大 4 GB のキャッシュの RAID カードまたはパススルーコントローラが備わっています。サーバノードは次のいずれかです。

- Cisco UCS S3260 M3 サーバノード
- Cisco UCS S3260 M4 サーバノード：このノードに、サーバノードの上部に接続するオプションの I/O エクспанダが含まれる場合があります。
- Cisco UCS S3260 M5 サーバノード：このノードに、サーバノードの上部に接続するオプションの I/O エクспанダが含まれる場合があります。

ディスクスロット

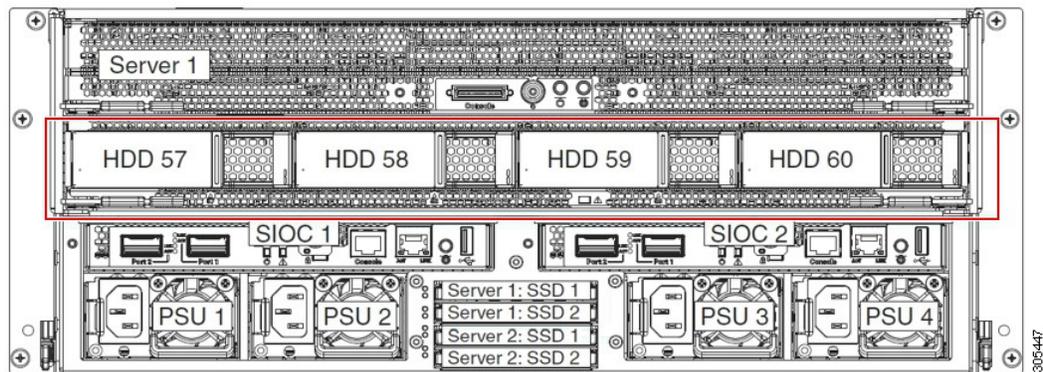
Cisco UCS S3260 シャーシの HDD マザーボードに 14 ディスクスロットが 4 行と、HDD 拡張トレイに追加の 4 ディスクスロットがあります。次の図は、上面からアクセス可能でホットスワップ可能な 56 台の 3.5 インチの 6 TB または 4 TB 7200 rpm NL-SAS HDD ドライブのディスクの配置を示しています。ディスクスロットに 2 つの SAS ポートがあり、それぞれがシャーシの SAS エクспанダに接続されます。

図 12: Cisco UCS S3260 上面図



次の図は、HDD 拡張トレイに 4 つの追加ディスク スロットを備えた Cisco UCS S3260 シャーシを示しています。

図 13: HDD 拡張トレイを搭載した Cisco UCS 3260 (背面図)



2 つのサーバノードと 2 つの SIOC がある場合、次の機能を使用できます。

1. 上のサーバノードは左の SIOC (サーバスロット 1、SIOC1) を使用します。
2. 下のサーバは右の SIOC (サーバスロット 2、SIOC2) を使用します。

2 つの SIOC を搭載した 1 つのサーバノードがある場合、Server SIOC Connectivity 機能を有効にできます。リリース 3.1(3) から、Cisco UCS S3260 システムでは Server SIOC Connectivity 機能がサポートされています。シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されている場合、この機能を使用して、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を經由するデータパスを設定できます。

SAS エクスパンダ

Cisco UCS S3260 システムには、冗長モードで実行し、シャーシレベルのディスクをサーバのストレージコントローラに接続する2つのSASエクспанダがあります。SASエクспанダは、ストレージコントローラのために2つのパスを提供するため、可用性が向上します。それらには、次の利点があります。

- ハードドライブのプールを管理します。
- サーバのストレージコントローラへのハードドライブのディスクのゾーン設定。

リリース 3.2(3a)以降、Cisco UCS Managerは、ディスクスロットごとに単一のDiskPortを設定することによって、ディスクへの単一パスアクセスを有効にすることができます。これにより、サーバは単一のデバイスのみを検出し、マルチパス設定を避けることができます。

次の表に、各SASエクспанダのポートの、導入の種類に基づくディスクへの接続方法について示します。

Port range	Connectivity
1 ~ 56	上面からアクセス可能なディスク
57 ~ 60	HDD 拡張トレイのディスク。



- (注) ストレージコントローラとSASエクспанダ間のSASのアップリンクの数は、サーバに搭載されているコントローラのタイプによって異なることがあります。

ストレージエンクロージャ

Cisco UCS S3260には、次のタイプのストレージエンクロージャが備わっています。

シャーシレベルのストレージエンクロージャ

- **HDD motherboard enclosure** : シャーシの56のデュアルポートディスクスロットは、HDDマザーボードエンクロージャで構成されています。
- **HDD 拡張トレイ** : Cisco UCS S3260 システムに追加された4つのデュアルディスクスロットでHDD拡張トレイを構成しています。



- (注) HDD拡張トレイは現場交換可能ユニット (FRU) です。ディスクは挿入時は未割り当てのままであり、ストレージコントローラに割り当てることができます。ディスクゾーン分割の実行方法の詳細については、次を参照してください。 [ディスクゾーン分割ポリシー \(72 ページ\)](#)

サーバレベルのストレージエンクロージャ

サーバレベルのストレージエンクロージャは、サーバに事前に割り当てられた専用のエンクロージャです。次のいずれかになります。

- **背面ブート SSD エンクロージャ**：このエンクロージャには、Cisco UCS S3260 システムの背面パネル上の2つの2.5インチディスクスロットが含まれています。各サーバは2つの専用ディスクスロットを備えています。これらのディスクスロットはSATA SSDをサポートします。
- **Server board NVMe enclosure**：このエンクロージャには1つのPCIe NVMe コントローラが搭載されています。



(注) Cisco UCS S3260 システムでは、上記2種類のエンクロージャに物理的にディスクが存在することも、ホスト OS からは、すべてのディスクが SCSI エンクロージャの一部として見なされます。これらは単一SESエンクロージャとして動作するように設定された SAS エクспанダに接続されます。

ストレージコントローラ

メザニンストレージコントローラ

次の表に、さまざまなストレージコントローラのタイプ、ファームウェアのタイプ、モード、共有およびOOBサポートを示します。

表 9:

ストレージコントローラのタイプ	ファームウェアのタイプ	モード	共有	OOB サポート
UCSC-S3X60-R1GB	メガ RAID	HW RAID、JBOD	×	Yes
UCS-C3K-M4RAID	メガ RAID	HW RAID、JBOD	×	Yes
UCSC-S3X60-HBA	イニシエータターゲット	パススルー	Yes	Yes
UCS-S3260-DHBA	イニシエータターゲット	パススルー	Yes	Yes
UCS-S3260-DRAID	メガ RAID	HW RAID、JBOD	×	Yes

その他のストレージコントローラ

SW RAID コントローラ：Cisco UCS S3260 システム内のサーバは、SW RAID コントローラに接続しているPCIeライザーに組み込まれた、2つの専用内部SSDをサポートします。このコントローラは、Cisco C3000 M3 サーバでサポートされます。

NVMe コントローラ：Cisco UCS S3260 システム内のサーバによって、NVMe ディスクのインベントリとファームウェアアップデートにこのコントローラが使用されます。

さまざまなサーバノードでサポートされているストレージコントローラに関する詳細は、関連するサービス ノートを参照してください。

- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ サービス ノート用 Cisco UCS C3X60 M3 サーバ ノード](#)
- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ サービス ノート用 Cisco UCS C3X60 M4 サーバ ノード](#)
- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ用 Cisco UCS S3260 M5 サーバ ノードのサービス ノート](#)

Cisco UCS S3260 ストレージ管理操作

次の表に、Cisco UCS Manager 統合 Cisco UCS S3260 システムで、実行できるさまざまなストレージ管理操作を示します。

動作	説明	次を参照してください。
高可用性のためのディスクの共有	<p>Cisco UCS S3260 システムの SAS エクспанダは、ドライブのプールをシャールレベルで管理できます。高可用性のためにディスクを共有するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ディスク ゾーン分割ポリシーを作成します。 2. ディスクのスロットを作成し、所有権を割り当てます。 3. シャールプロファイルにディスクを関連付けます。 	このガイドの「ディスク ゾーン分割ポリシー」セクション。

動作	説明	次を参照してください。
ストレージプロファイル、ディスクグループおよびディスクグループ設定ポリシー	Cisco UCS S3260 システムでストレージディスクの定義、ディスクの割り当て、および管理を行うには、Cisco UCS Manager のストレージプロファイルとディスクグループポリシーを利用できます。	『』の「Storage Profiles」セクション。 <i>Cisco UCS Manager</i> リリース 3.2 ストレージ管理ガイド
ストレージエンクロージャ操作	サーバで、HDD 拡張トレイを交換するか、以前に挿入したトレイを取り外します。	このガイドの「シャードレベルのストレージエンクロージャの削除」セクション。

高可用性のためのディスクの共有

ディスク ゾーン分割ポリシー

ディスク ゾーン分割を使用してサーバノードにドライブを割り当てることができます。ディスクゾーン分割は、同一サーバのコントローラまたは異なるサーバのコントローラで実行することができます。ディスクの所有権は次のいずれかになります。

未割り当て

未割り当てのディスクとは、サーバノードに表示されていないものを指します。

専用

このオプションを選択すると、[Server]、[Controller]、[Drive Path]、およびディスクスロットの [Slot Range] の値を設定する必要があります。



(注) ディスクは割り当てられたコントローラにのみ表示されます。

リリース 3.2(3a)以降、Cisco UCS S 3260 M 5 以降のサーバでは、Cisco UCS Manager は、ディスクスロットごとに単一の DiskPort を設定することによって、ディスクへの単一パスアクセスを有効にすることができます。1つのパスの設定により、サーバが設定で選択されたドライブが1つパスでのみディスクドライブを検出します。シングルパスアクセスは、Cisco UCS S3260 デュアルパススルーコントローラ (UCS-S3260-DHBA) でのみサポートされています。

シングルパスアクセスが有効になると、3.2(3a)より前のリリースにダウングレードすることはできません。ダウングレードするには、ディスクゾーニングポリシーでディスク

スロットのディスク パスを **Path Both** に設定して、この機能を無効にし、すべてのディスク スロットを両方のディスク ポートに割り当てます。

共有

共有ディスクとは、複数のコントローラに割り当てられるものを指します。これらは、サーバがクラスタ構成で動作し、各サーバに HBA モードのストレージコントローラがある場合に絞って使用されます。



(注) デュアル HBA コントローラを使用する場合は、特定の条件下では共有モードを使用できません。

シャーシのグローバル ホット スペア

このオプションを選択すると、ディスクの **[Slot Range]** の値を設定する必要があります。



重要 ディスクの移行と孤立した LUN の要求：サーバ（サーバ 1）へゾーン分割されたディスクを別のサーバ（サーバ 2）に移行するには、仮想ドライブ（LUN）を転送準備完了としてマークするか、仮想ドライブを非表示にする処理を実行します。次に、そのディスクに割り当てるディスク ゾーン分割ポリシーを変更できます。仮想ドライブ管理の詳細については、『[Cisco UCS Manager Storage Management Guide](#)』の「*Disk Groups and Disk Configuration Policies*」のセクションを参照してください。

ディスク ゾーン分割ポリシーの作成

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 [org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A org/ # create disk-zoning-policy <i>diskzoning policy-name</i>	指定した名前のディスク ゾーン分割ポリシーを作成します。
ステップ 3	UCS-A /org/disk-zoning-policy* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、**dzp1** ディスク ゾーン分割ポリシーを作成します。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # create disk-zoning-policy dzpl
UCS-A /org/disk-zoning-policy*# commit-buffer
UCS-A /org/disk-zoning-policy#
```

ディスク スロットの作成と所有権の割り当て

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A org/ # disk-zoning-policy <i>disk-zoning-policy-name</i>	ディスク ゾーン分割ポリシーに移動します。
ステップ 3	UCS-A org/disk-zoning-policy # create disk-slot <i>slot-id</i>	指定したスロット番号のディスク スロットを作成します。
ステップ 4	UCS-A org/disk-zoning-policy/disk-slot* # set ownership <i>ownership-type</i> { <i>chassis-global-host-spare</i> \dedicated\shared\unassigned}	<p>ディスクの所有権を次のいずれかに指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • chassis-global-hot-spare : シヤージ グローバル ホット スペア • dedicated : 専用 <p>リリース 3.2(3a) 以降、Cisco UCS Manager は、ディスク スロットごとに単一の DiskPort を設定することによって、ディスクへの単一パスアクセスを有効にすることができます。これにより、サーバは単一のデバイスのみを検出し、マルチパス設定を避けることができます。</p> <p>ドライブのパスのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • path-both (デフォルト) - ドライブ パスは両方の SAS エクспанダにゾーニングされます。 • path-0 - ドライブ パスは、SAS エクспанダ 1 にゾーニングされます。 • path-1 - ドライブ パスは、SAS エクспанダ 2 にゾーニングされます。 <p>drivepath を設定するには、次のコマンドを使用します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		set drivepath drivepath{path-0/path-1/path-both} <ul style="list-style-type: none"> • shared : 共有 (注) デュアル HBA コントローラを使用する場合は、特定の条件下では共有モードを使用できません。デュアル HBA コントローラの共有モードの条件を確認するには、 表 10: デュアル HBA コントローラの共有モードの制約事項 (75 ページ) を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • unassigned : 未割り当て
ステップ 5	UCS-A org/disk-zoning-policy/disk-slot* # create controller-ref server-id sas controller-id	指定したサーバスロットのコントローラ参照を作成します。
ステップ 6	UCS-A org/disk-zoning-policy/disk-slot# commit-buffer	トランザクションをコミットします。

表 10: デュアル HBA コントローラの共有モードの制約事項

サーバ	HDD トレイ	コントローラ	共有モードのサポート
Cisco UCS S3260	非対応	デュアル HBA	未サポート
Cisco UCS S3260	HDD トレイ	デュアル HBA	未サポート
事前プロビジョニング	HDD トレイ	デュアル HBA	未サポート

例

次の例では、ディスク スロット 1 を作成して所有権を共有に設定し、サーバスロット 1 のコントローラ参照を作成してトランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # scope disk-zoning-policy test
UCS-A /org/disk-zoning-policy* # create disk-slot 1
UCS-A /org/disk-zoning-policy/disk-slot* # set ownership shared
UCS-A /org/disk-zoning-policy/disk-slot* # create controller-ref 1 sas 1
UCS-A /org/disk-zoning-policy/disk-slot* # create controller-ref 2 sas 1
UCS-A /org/disk-zoning-policy/disk-slot* #commit-buffer
UCS-A /org/disk-zoning-policy/disk-slot #
```

シャーシプロファイルへのディスクゾーン分割ポリシーの関連付け

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A org/ # create chassis-profile <i>chassis-profile-name</i>	指定した名前で作成したシャーシプロファイルを作成します。
ステップ 3	UCS-A org/chassis-profile* # set disk-zoning-policy <i>disk-zoning-policy</i>	指定したディスクゾーン分割ポリシーを設定します。
ステップ 4	UCS-A org/chassis-profile* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。
ステップ 5	UCS-A org/chassis-profile # associate chassis <i>chassis-id</i>	ディスクゾーン分割ポリシーに含まれるディスクを、指定したシャーシ番号のシャーシに関連付けます。

例

次の例では、ch1 シャーシプロファイルを作成してディスクゾーン分割ポリシー all56shared を設定し、トランザクションをコミットして all56shared ポリシーに含まれるディスクをシャーシ 3 に関連付けます。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # create chassis-profile ch1
UCS-A /org/chassis-profile* # set disk-zoning-policy all56shared
UCS-A /org/chassis-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/chassis-profile # associate chassis 3
UCS-A /org/fw-chassis-pack/pack-image #
```

ディスクの移行

1 つのサーバから別のサーバへゾーン分割されているディスクを移行する前に、転送準備完了として仮想ドライブ (LUN) をマークするか、または仮想ドライブの非表示操作を実行する必要があります。これにより、サービスプロファイルからのすべての参照がディスクの移行前に削除されたことを確認します。仮想ドライブの詳細については、『』の「virtual drives」セクションを参照してください [Cisco UCS Manager リリース 3.2 ストレージ管理ガイド](#)

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis シャーシ番号	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis# scope virtual-drive-container <i>virtual-drive-container-num</i>	指定した番号の仮想ドライブ コンテナに移動します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/virtual-drive-container# scope virtual-drive <i>virtual-drive--num</i>	指定した仮想ドライブ コンテナの仮想ドライブに移動します。
ステップ 4	UCS-A /chassis/virtual-drive-container/virtual-drive# scope virtual-drive <i>virtual-drive--num</i> set admin-state <i>admin-state</i>	<p>仮想ドライブの管理状態として、次のいずれかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • clear-transport-ready : 仮想ドライブをトランスポート可能でなくなった状態として設定します。 • delete : 仮想ドライブを削除します。 • hide : 1つのサーバから別のサーバへ仮想ドライブを安全に移行するには、このオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> (注) ディスク グループのすべての仮想ドライブは、移行またはサーバ ノードから割り当て解除される前に、非表示としてマークされている必要があります。 • transport-ready : 1つのサーバから別のサーバへ仮想ドライブを安全に移行するには、このオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> (注) 仮想ドライブはトランスポート可能としてマークされると、ストレージコントローラによって、そのドライブ上でのすべての IO 操作がディセーブルになります。さらに、仮想ドライブのゾーン分割と外部構成のインポートが完了した後、仮想ドライブが動作可能になります。
ステップ 5	UCS-A /chassis/virtual-drive-container/virtual-drive# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、仮想ドライブ コンテナ 1 の仮想ドライブ 1001 の状態をトランスポート可能として設定します。

```
UCS-A# scope chassis
UCS-A /chassis# scope virtual-drive-container 1
UCS-A /chassis/virtual-drive-container# scope virtual-drive 1001
UCS-A /chassis/virtual-drive-container/virtual-drive# set admin-state transport-ready
UCS-A /chassis/virtual-drive-container/virtual-drive# commit-buffer
```

ストレージエンクロージャ操作

シャーシレベルのストレージエンクロージャの削除

物理的に取り外した後で、Cisco UCS Managerの HDD 拡張トレイに対応するストレージエンクロージャを削除できます。サーバレベルまたは他のシャーシレベルのストレージエンクロージャは削除できません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A # scope chassis <i>chassis-id</i>	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # remove storage-enclosure <i>storage-enclosure-name</i>	指定した名前のシャーシレベルのストレージエンクロージャを削除します。

例

次に、シャーシ 2 からストレージエンクロージャ 25 を削除する例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 2
UCS-A /chassis# remove storage-enclosure 25
UCS-A /chassis#
```

SAS エクスパンダ設定ポリシー

SAS エクスパンダ設定ポリシーの作成

手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A org/ # **create sas-expander-configuration-policy** *sas-expander-configuration-policy-name*
3. (任意) UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy* # **set descr** *description*
4. (任意) UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy* # **set 6g-12g-mixed-mode** *disabled|enabled|no-change*
5. UCS A/org/sas-expander-configuration-ポリシー * # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A org/ # create sas-expander-configuration-policy <i>sas-expander-configuration-policy-name</i>	指定されたポリシー名で SAS エクスパンダ configuration policy(設定ポリシー、構成ポリシー、コンフィギュレーション ポリシー) を作成します。
ステップ 3	(任意) UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy* # set descr <i>description</i>	ポリシーの説明を記します。
ステップ 4	(任意) UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy* # set 6g-12g-mixed-mode <i>disabled enabled no-change</i>	<p>(注) [6G-12G Mixed Mode]モードを有効または無効にするには、システムが再起動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : このポリシーでは接続管理が無効になっているため、12G が使用可能でも SAS エクスパンダは 6G の速度のみを使用します。 • [Enabled] : このポリシーでは接続管理が有効になっており、可用性に基づいて 6G と 12G 間で速度をインテリジェントに切り替えます。 • [No Change] (デフォルト) : 事前の設定が保持されます。
ステップ 5	UCS A/org/sas-expander-configuration-ポリシー * # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例には、secp1 SAS エクスパンダ設定ポリシーを作成します。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # create sas-expander-configuration-policy secp1
UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy*# set 6g-12g-mixed-mode enabled
UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy*# commit-buffer
UCS-A /org/sas-expander-configuration-policy#
```

SAS エクスパンダ設定ポリシーの削除

手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A org/ # **delete sas-expander-configuration-policy** *sas-expander-configuration-policy-name*
3. UCS-A /org* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A org/ # delete sas-expander-configuration-policy <i>sas-expander-configuration-policy-name</i>	指定されたポリシー名と SAS エクスパンダ設定ポリシーを削除します。
ステップ 3	UCS-A /org* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、secp1 SAS エクスパンダ設定ポリシーを削除します。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # delete create sas-expander-configuration-policy secp1
UCS-A /org*# commit-buffer
UCS-A /org/#
```



第 7 章

ファームウェア管理

- [Cisco UCS S3260 システムのファームウェア管理 \(81 ページ\)](#)
- [シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージによるファームウェアのアップグレード \(83 ページ\)](#)
- [S3260 シャーシ およびサーバエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード \(89 ページ\)](#)

Cisco UCS S3260 システムのファームウェア管理

Cisco UCS シスコから取得し、シスコによって認定されたファームウェアを使用して、Cisco UCS domain のエンドポイントをサポートします。各エンドポイントは、機能するためにファームウェアが必要な Cisco UCS ドメインのコンポーネントです。

『』『*Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2*』には、完全なファームウェア管理プロセスの詳細情報が記載されています。さらに、Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) 以降では、シャーシのファームウェア ポリシーを定義し、Cisco UCS S3260 シャーシに関連付けられたシャーシプロファイルに格納することで、Cisco UCS S3260 シャーシコンポーネントのファームウェアをアップグレードできます。

Cisco UCS Manager を通じて S3260 シャーシ とサーバを含む Cisco UCS ドメインを次のようにアップグレードできます。

- 自動インストールによるインフラストラクチャ コンポーネントのアップグレード：自動インストールを使用することで1つの手順で、Cisco UCS Manager ソフトウェアおよびファブリック インターコネクトなどのインフラストラクチャ コンポーネントをアップグレードできます。『』『*Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2*』には、自動インストール プロセスの詳細情報が記載されています。
- 次のいずれかを使用してシャーシをアップグレードします。
 - を介してシャーシコンポーネントをアップグレード自動インストール: で始まるCisco UCS Manager リリース 3.2(3)、Cisco UCS のファームウェアをアップグレードするS3260 シャーシコンポーネントを使用して1つのステップで自動インストール。
 - シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージを介したシャーシのアップグレード：このオプションにより、1つの手順ですべてのシャーシエンドポイント

をアップグレードできます。シャーシファームウェアパッケージを介してアップグレード可能なシャーシエンドポイントは次のとおりです。

- シャーシアダプタ
- シャーシ管理コントローラ
- シャーシボードコントローラ
- ローカルディスク



(注) シャーシファームウェアパッケージを介してシャーシのローカルディスクをアップグレードできます。ホストファームウェアパッケージを介してサーバのローカルディスクをアップグレードします。

- SAS エクスパンダ
- サービスプロファイルのファームウェアパッケージを使用してサーバをアップグレード：このオプションを使用すると1回のステップですべてのサーバのエンドポイントをアップグレードできるため、サーバのリブートによる中断時間を短くすることができます。サービスプロファイルの更新の延期導入とこのオプションを組み合わせ、スケジュールされたメンテナンス時間中にサーバのリブートが行われるようにすることができます。ホストファームウェアパッケージを介してアップグレード可能なサーバエンドポイントは次のとおりです。
 - CIMC
 - BIOS
 - ボードコントローラ
 - ストレージコントローラ
 - ローカルディスク
 - SIOC の NVMe
 - SIOC のサードパーティ製のアダプタ

『』『*Cisco UCS Manager Firmware Management Guide, Release 3.2*』には、ホストのファームウェアパッケージを使用したサーバエンドポイントのアップグレードに関する詳細情報が記載されています。

また、各インフラストラクチャ、シャーシとサーバエンドポイントでファームウェアを直接アップグレードすることもできます。このオプションにより、ファブリックインターコネクタ、SAS エクスパンダ、CMC、シャーシアダプタ、ストレージコントローラ、ボードコントローラを含む、多くのインフラストラクチャ、シャーシ、サーバエンドポイントを直接アップグレードできます。ただし、直接アップグレードは、ストレージコントローラ、HBA ファー

ムウェア、HBA オプション ROM、ローカルディスクなど、すべてのエンドポイントで利用できるわけではありません。

この章では、Cisco UCS S3260 システム向けに新しく導入された次のファームウェア管理機能について説明します。

- シャーシ プロファイルのシャーシ ファームウェア パッケージを介したファームウェアのアップグレード
- Cisco UCS S3260 シャーシ とサーバエンドポイントでのファームウェアの直接のアップグレード

シャーシ プロファイルのシャーシ ファームウェア パッケージによるファームウェアのアップグレード

Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) では Cisco UCS S3260 シャーシ のシャーシ プロファイルとシャーシ ファームウェア パッケージのサポートが追加されています。シャーシ ファームウェア パッケージを定義し、シャーシに関連付けられたシャーシ プロファイルに格納することで、Cisco UCS S3260 シャーシ エンドポイントのファームウェアをアップグレードできます。シャーシ プロファイルに関連付けられたシャーシのファームウェアを手動でアップグレードすることはできません。



- (注) いずれかのシャーシ コンポーネントが障害状態になると、シャーシ プロファイルの関連付けは失敗します。シャーシ プロファイルの関連付けを進める前に、シャーシ コンポーネントをバックアップすることをお勧めします。シャーシ コンポーネントをバックアップせずに関連付けを続行するには、関連付けの前にコンポーネントを除外します。

シャーシ プロファイルでサーバのファームウェアをアップグレードすることはできません。サービス プロファイルでサーバのファームウェアをアップグレードします。

シャーシのサーバは、シャーシのアップグレードプロセスが開始する前に、自動的に電源が切断されます。

シャーシ ファームウェア パッケージ

このポリシーでは、シャーシ ファームウェア パッケージ (シャーシ ファームウェア パック) を構成するファームウェア バージョンのセットを指定することができます。シャーシ ファームウェア パッケージには、次のサシャーシ エンドポイントのファームウェアが含まれています。

- シャーシ アダプタ
- シャーシ 管理コントローラ

- シャーシ ボード コントローラ
- ローカル ディスク



(注) [Local Disk] は、デフォルトでシャーシ ファームウェア パッケージから除外されます。

- SAS エクスパンダ



ヒント 同じシャーシ ファームウェア パッケージに複数のタイプのファームウェアを含めることができます。たとえば、1つのシャーシファームウェアパッケージに、異なる2つのアダプタのモデル用のボードコントローラファームウェアとシャーシアダプタファームウェアの両方を含めることができます。ただし、同じ種類、ベンダー、モデル番号に対しては1つのファームウェアバージョンしか使用できません。システムはエンドポイントに必要なファームウェアバージョンを認識し、それ以外のファームウェアバージョンは無視します。

また、新しいシャーシファームウェアパッケージを作成するとき、または既存のシャーシファームウェアパッケージを変更するとき、シャーシファームウェアパッケージから特定のコンポーネントのファームウェアを除外できます。たとえば、シャーシファームウェアパッケージによってボードコントローラファームウェアをアップグレードしない場合は、ファームウェアパッケージコンポーネントのリストからボードコントローラファームウェアを除外できます。



重要 各シャーシファームウェアパッケージは除外コンポーネントの1つのリストと関連付けられます。

シャーシファームウェアパッケージは、このポリシーが含まれるシャーシプロファイルに関連付けられたすべてのシャーシにプッシュされます。

このポリシーにより、同じポリシーを使用しているシャーシプロファイルに関連付けられているすべてのシャーシでシャーシファームウェアが同一となります。したがって、シャーシプロファイルのあるシャーシから別のシャーシに移動した場合でも、ファームウェアバージョンはそのまま変わりません。さらに、シャーシファームウェアパッケージのエンドポイントのファームウェアバージョンを変更した場合、その影響を受けるシャーシプロファイルすべてに新しいバージョンが即座に適用されます。

影響を受けるシャーシファームウェアパッケージに対し、このポリシーをシャーシプロファイルに含め、そのシャーシのプロファイルにシャーシを関連付けます。

このポリシーは他のどのポリシーにも依存していません。ファブリックインターコネクタに適切なファームウェアがダウンロードされていることを確認します。Cisco UCS Manager によりシャーシとシャーシプロファイルの関連付けが実行される際にファームウェアイメージが使

用できない場合、Cisco UCS Manager はファームウェアのアップグレードを無視し、関連付けを完了します。

シャーシ プロファイルのシャーシファームウェア パッケージを使用したファームウェアのアップグレードのステージ

シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージポリシーを使用して、シャーシファームウェアをアップグレードすることができます。



注意

エンドポイントを追加するか、既存のエンドポイントのファームウェアバージョンを変更することにより、シャーシファームウェアパッケージを修正すると、Cisco UCS Manager は [Pending Activities] をクリックして変更を確認した後で、エンドポイントをアップグレードします。このプロセスにより、シャーシ間のデータトラフィックが中断されます。

新しいシャーシ プロファイル

新しいシャーシプロファイルの場合、このアップグレードは次のステージで行われます。

シャーシファームウェアパッケージポリシーの作成

このステージでは、シャーシファームウェアパッケージを作成します。

シャーシプロファイルの関連付け

このステージでは、シャーシプロファイルにシャーシファームウェアパッケージを含め、シャーシプロファイルとシャーシとの関連付けを形成します。システムによって、選択したファームウェアバージョンがエンドポイントにプッシュされます。ファームウェアパッケージで指定したバージョンがエンドポイントで確実に実行されるように、シャーシを再認識させる必要があります。

既存のシャーシ プロファイル

シャーシに関連付けられたシャーシプロファイルの場合、[Pending Activities] をクリックして変更を確認した後で、Cisco UCS Manager がファームウェアをアップグレードします。

シャーシプロファイルのファームウェアパッケージに対するアップデートの影響

シャーシプロファイルのシャーシファームウェアパッケージを使用してファームウェアをアップデートするには、パッケージ内のファームウェアをアップデートする必要があります。ファームウェアパッケージへの変更を保存した後の動作は、Cisco UCS ドメインの設定によって異なります。

次の表に、シャーシプロファイルのファームウェアパッケージを使用するシャーシのアップグレードに対する最も一般的なオプションを示します。

シャーシ プロファイル	メンテナンス ポリシー	アップグレード処理
<p>シャーシのファームウェアパッケージが1つ以上のシャーシプロファイルに含まれており、各シャーシプロファイルが、1つのシャーシに関連付けられています。</p> <p>または</p> <p>シャーシ ファームウェアパッケージがアップデート中のシャーシプロファイルテンプレートに含まれており、このテンプレートから作成されたシャーシプロファイルが1つのサーバに関連付けられています。</p>	<p>ユーザ確認応答に関して設定済み</p>	<p>シャーシファームウェアパッケージをアップデートすると、次のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Cisco UCS 変更を確認するように要求され、シャーシのユーザー確認が必要であることが通知されます。 2. 点滅している [Pending Activities] ボタンをクリックし、再認識するシャーシを選択し、新しいファームウェアを適用します。 3. Cisco UCS このポリシーを含むシャーシプロファイルに関連付けられているすべてのシャーシが照合され、モデル番号とベンダーが検証されます。モデル番号とベンダーがポリシーのファームウェアバージョンと一致する場合は、Cisco UCS によりシャーシが再認識され、ファームウェアがアップデートされます。 <p>シャーシを手動で再認識しても、Cisco UCS によってシャーシファームウェアパッケージが適用されたり、保留中のアクティビティがキャンセルされることはありません。</p> <p>[Pending Activities] ボタンを使用して、保留中のアクティビティを確認応答するか、またはキャンセルする必要があります。</p>

シャーシ ファームウェア パッケージの作成または更新



ヒント 同じシャーシファームウェアパッケージに複数のタイプのファームウェアを含めることができます。たとえば、1つのシャーシファームウェアパッケージに、異なる2つのアダプタのモデル用のボードコントローラファームウェアとシャーシアダプタファームウェアの両方を含めることができます。ただし、同じ種類、ベンダー、モデル番号に対しては1つのファームウェアバージョンしか使用できません。システムはエンドポイントに必要なファームウェアバージョンを認識し、それ以外のファームウェアバージョンは無視します。

また、新しいシャーシファームウェアパッケージを作成するとき、または既存のシャーシファームウェアパッケージを変更するときに、シャーシファームウェアパッケージから特定のコンポーネントのファームウェアを除外できます。



重要 各シャーシファームウェアパッケージは、すべてのファームウェアパッケージに共通の除外されたコンポーネントの1つのリストに関連付けられます。

始める前に

ファブリックインターコネクに適切なファームウェアがダウンロードされていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS A org/# create fw-chassis-pack パック名	シャーシファームウェアパッケージを選択したパッケージ名で作成し、組織ファームウェアシャーシパッケージモードを開始します。
ステップ 3	(任意) UCS-A org/fw-chassis-pack* # set chassispack-vers バージョン番号	パッケージイメージのバージョン番号を指定します。この番号を変更すると、シャーシプロファイル経由でファームウェアを使用して、すべてのコンポーネントのファームウェア更新が実行されます。このステップは、シャーシファームウェアパッケージ更新時にもみ使用し、作成時には使用しません。
ステップ 4	(任意) UCS-A org/fw-chassis-pack* # set servicepack-vers <i>servicepack-version-num</i>	サービスパックバージョン番号を指定します。基本のシャーシパックを選択せずに直接サービスパックにアップグレードすることはできません。 サービスパックのイメージは、シャーシパッケージのイメージよりも優先されます。
ステップ 5	UCS-A org/fw-chassis-pack* # create exclude-chassis-component { chassis-adaptor chassis-board-controller chassis-management-controller local-disk sas-expander }	シャーシファームウェアパッケージから指定されたコンポーネントを除外します。 (注) ローカルディスクは、デフォルトでシャーシファームウェアパッケージから除外されます。
ステップ 6	必須: UCS-A org/fw-chassis-pack* # delete exclude-chassis-component { chassis-adapter chassis-board-controller chassis-management-controller local-disk sas-expander }	シャーシファームウェアパッケージから指定されたコンポーネントを含めます

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	UCS-A org/fw-chassis-pack* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

次の例では、ローカル ディスク コンポーネントを含む cp1 シャーシ ファームウェア パッケージを作成し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # create fw-chassis-pack cp1
UCS-A /org/fw-chassis-pack* # delete exclude-chassis-component local-disk
UCS-A /org/fw-chassis-pack/exclude-chassis-component* # commit-buffer
UCS-A /org/fw-chassis-pack/exclude-chassis-component #
```

次の例は、cp1 シャーシ ファームウェア パッケージからシャーシ ボード コントローラ コンポーネントを除外し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # enter fw-chassis-pack cp1
UCS-A /org/fw-chassis-pack* # create exclude-chassis-component chassis-board
-controller
UCS-A /org/fw-chassis-pack/exclude-chassis-component* # commit-buffer
UCS-A /org/fw-chassis-pack/exclude-chassis-component #
```

次の例では、cp1 シャーシ ファームウェア パッケージにサービスパックを追加し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope org
UCS-A /org # scope fw-chassis-pack cp1
UCS-A /org/fw-chassis-pack # set servicepack-vers 3.1(3)SP1
UCS-A /org/fw-chassis-pack* # commit-buffer
UCS-A /org/fw-chassis-pack #
```

Cisco UCS S3260 サーバを使用した UCS ドメインのアップグレード

始める前に

- すべてのサーバ ノードがシャットダウンされていることを確認します。
- シャーシ ファームウェア パッケージ ポリシーとシャーシ メンテナンス ポリシーを参照するシャーシ ポリシーが UCS ドメインに割り当てられていることを確認します。

手順の概要

1. 自動インストールによってインフラストラクチャ ファームウェアをアップグレードします。「[自動インストールを使用したインフラストラクチャ ファームウェアのアップグレード](#)」を参照してください。
2. シャーシ ファームウェア パッケージ ポリシーを更新します。
3. ホストのファームウェアを更新します。「[自動インストールによるサーバファームウェアのアップグレード](#)」を参照してください。

手順の詳細

ステップ 1 自動インストールによってインフラストラクチャ ファームウェアをアップグレードします。「[自動インストールを使用したインフラストラクチャ ファームウェアのアップグレード](#)」を参照してください。

ステップ 2 シャーシ ファームウェア パッケージ ポリシーを更新します。

- デフォルトのシャーシ ファームウェア パッケージ ポリシーを使用している場合は、新しいパッケージバージョンで[デフォルト シャーシ ファームウェア パッケージ ポリシー](#)を更新します。[シャーシ ファームウェア パッケージの作成または更新 \(86 ページ\)](#)を参照してください。
- 新しいシャーシパッケージバージョンを使用して新しいシャーシ ファームウェア パッケージ ポリシーを作成し、既存または割り当て済みのシャーシプロファイル (すべての UserAck を許可) を設定します。新しいシャーシ ファームウェア パッケージポリシーの作成については、[シャーシ ファームウェア パッケージの作成または更新 \(86 ページ\)](#)を参照してください。

このプロセスには 1～2 時間かかることがあります。シャーシの [FSM] タブでステータスをモニタできません。

ステップ 3 ホストのファームウェアを更新します。「[自動インストールによるサーバファームウェアのアップグレード](#)」を参照してください。

(注) ホスト ファームウェアの更新は、Cisco UCS Manager GUI を通してのみ可能です。

S3260 シャーシ およびサーバエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード

ここでは、S3260 シャーシ とサーバエンドポイントのアップグレードについて詳しく説明します。

S3260 シャーシ エンドポイント

S3260 シャーシ のファームウェアのアップグレードをトリガーするには、次の順に実行します。

1. CMC 1 ファームウェアの更新
2. CMC 2 ファームウェアの更新
3. シャーシアダプタ 1 ファームウェアの更新
4. シャーシアダプタ 2 ファームウェアの更新
5. SAS エクスパンダ 1 ファームウェアの更新
6. SAS エクスパンダ 2 ファームウェアの更新
7. SAS エクスパンダ 1 ファームウェアのアクティブ化
8. SAS エクスパンダ 2 ファームウェアのアクティブ化
9. CMC 1 ファームウェアのアクティブ化
10. CMC 2 ファームウェアのアクティブ化
11. シャーシアダプタ 1 ファームウェアのアクティブ化
12. シャーシアダプタ 2 ファームウェアのアクティブ化
13. シャーシ ボード コントローラのアクティブ化



- (注) シャーシのローカルディスクのファームウェアを手動で更新することはできません。ローカルディスクのファームウェアは、シャーシのファームウェアパッケージに明示的に含めた場合は更新されます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのエンドポイント

サーバエンドポイントのファームウェアのアップグレードをトリガーするには、次の順に実行します。

1. CIMC の更新
2. CIMC のアクティブ化
3. Update BIOS
4. BIOS のアクティブ化
5. ボード コントローラのアクティブ化
6. ストレージ コントローラのアクティブ化

ファームウェアのアップグレード中は、次の順に実行することを推奨します。

1. インフラストラクチャのアップグレード : Cisco UCS Manager ソフトウェアおよびファブリック インターコネクト
2. シャーシとサーバエンドポイントのアップグレード

ファームウェアのダウングレード中は、次の順に実行することを推奨します。

1. シャーシとサーバエンドポイントのダウングレード
2. インフラストラクチャのダウングレード：Cisco UCS Manager ソフトウェアおよびファブリック インターコネクト

シャーシエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード

シャーシ上の CMC ファームウェアのアップデートとアクティブ化



注意 更新プロセスが完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、そこでメンテナンス作業を実行したりしないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

手順の概要

1. UCS-A # **scope chassis chassis-id**
2. UCS-A /chassis # **scope sioc {1 | 2}**
3. UCS-A /chassis/sioc # **scope cmc**
4. UCS-A /chassis/sioc/cmc # **update firmware** バージョン番号
5. (任意) UCS-A /chassis/sioc/cmc* # **commit-buffer**
6. (任意) UCS-A /chassis/sioc/cmc # **show update status**
7. UCS-A /chassis/sioc/cmc # **activate firmware** バージョン番号
8. UCS-A /chassis/sioc/cmc* # **commit-buffer**
9. (任意) UCS-A /chassis/sioc/cmc # **show activate status**
10. (任意) CS-A /chassis/sioc/cmc # **show firmware**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A # scope chassis chassis-id	シャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # scope sioc {1 2}	指定した SIOC を入力します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/sioc # scope cmc	シャーシ CMC モードに入ります。
ステップ 4	UCS-A /chassis/sioc/cmc # update firmware バージョン番号	シャーシの CMC で、選択されたファームウェアバージョンを更新します。
ステップ 5	(任意) UCS-A /chassis/sioc/cmc* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>ステップ 6 でファームウェアをアクティブにする前に、ステップ 5 で show update status コマンドを使用してファームウェアのアップデートが正常に完了したことを確認する場合のみ、このステップを使用します。このステップをスキップして、同じトランザクションで update firmware および activate firmware コマンドをコミットできます。ただし、ファームウェアのアップデートが正常に完了していない場合は、ファームウェアのアクティブ化が開始されません。</p> <p>Cisco UCS Manager によって、選択したファームウェアイメージがバックアップメモリパーティションにコピーされ、そのイメージが破損していないことが確認されます。イメージは、明示的にアクティブにするまで、バックアップバージョンとして残されます。</p>
<p>ステップ 6</p>	<p>(任意) UCS-A /chassis/sioc/cmc # show update status</p>	<p>ファームウェアのアップデートのステータスを表示します。</p> <p>ファームウェアのアップデートが正常に完了したことを確認する場合にのみ、このステップを使用します。アップデートステータスが Ready になったら、ファームウェアのアップデートは完了です。CLI の表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスが Updating から Ready に変更されるまで何度も show update status コマンドを入力する必要があります。アップデートステータスが Ready になったらステップ 6 に進みます。</p>
<p>ステップ 7</p>	<p>UCS-A /chassis/sioc/cmc # activate firmware バージョン番号</p>	<p>サーバ内の CMC で、選択されたファームウェアバージョンをアクティブにします。</p>
<p>ステップ 8</p>	<p>UCS-A /chassis/sioc/cmc* # commit-buffer</p>	<p>トランザクションをコミットします。</p>
<p>ステップ 9</p>	<p>(任意) UCS-A /chassis/sioc/cmc # show activate status</p>	<p>ファームウェアのアクティベーションのステータスを表示します。</p> <p>ファームウェアのアクティベーションが正常に完了したことを確認する場合にのみ、このステップを使用します。CLI の表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスが Activating から Ready に変更されるまで何度も show activate status コマンドを入力する必要があります。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	(任意) CS-A /chassis/sioc/cmc # show firmware	実行中のファームウェアのバージョン、更新ステータス、およびアクティブ化ステータスを表示します。

例

次の例では、ファームウェア更新とファームウェアアクティブ化が正常に完了したことを確認せずに、同じトランザクション内でCMCファームウェアをバージョン2.0(8.13)に更新してアクティブにします。

```
UCS-A# scope chassis 2
UCS-A# /chassis # scope sioc 1
UCS-A# /chassis/sioc # scope cmc
UCS-A# /chassis/sioc/cmc # update firmware 2.0(8.13)
UCS-A# /chassis/sioc/cmc* # activate firmware 2.0(8.13)
UCS-A# /chassis/sioc/cmc* # commit-buffer
UCS-A# /chassis/sioc/cmc # show firmware
CMC:
  Running-Vers: 2.0(8.13)
  Package Vers: 3.1(2.222)C
  Update-Status: Ready
  Activate-Status: Ready
```

次の例では、CMCファームウェアをバージョン2.0(8.13)に更新して、ファームウェア更新が正常に完了したことを確認してからファームウェアアクティブ化を開始し、CMCファームウェアをアクティブにして、ファームウェアアクティブ化が正常に完了したことを確認します。

```
UCS-A# scope chassis 2
UCS-A# /chassis # scope sioc 1
UCS-A# /chassis/sioc # scope cmc
UCS-A# /chassis/sioc/cmc # update firmware 2.0(8.13)
UCS-A# /chassis/sioc/cmc* # commit-buffer
UCS-A# /chassis/sioc/cmc # show update status
Status: Ready
UCS-A# /chassis/sioc/cmc # activate firmware 2.0(8.13)
UCS-A# /chassis/sioc/cmc* # commit-buffer
UCS-A# /chassis/sioc/cmc # show activate status
Status: Ready
UCS-A# /chassis/sioc/cmc # show firmware
CMC:
  Running-Vers: 2.0(8.13)
  Package Vers: 3.1(0.344)M
  Update-Status: Ready
  Activate-Status: Ready
```

シャーシ上のシャーシアダプタ ファームウェアのアップデートおよびアクティブ化

シャーシアダプタ ファームウェアのアップデートおよびアクティブ化は、シャーシのすべてのサーバに影響します。

始める前に

正しい手順でサーバの電源をオフにします。

手順の概要

1. UCS-A # **scope chassis** *chassis-id*
2. UCS-A /chassis # **scope sioc** {1 | 2}
3. UCS-A /chassis/sioc # **scope adapter**
4. UCS A/chassis/sioc/adapter # **show image**
5. UCS-A /chassis/sioc/cmc # **update firmware** バージョン番号
6. (任意) UCS A/chassis/sioc/adapter* # **commit-buffer**
7. (任意) UCS A/chassis/sioc/adapter # **show update status**
8. UCS-A /chassis/sioc/adapter # **activate firmware** バージョン番号
9. UCS A/chassis/sioc/adapter* # **commit-buffer**
10. UCS A/chassis/sioc/adapter # **show activate status**
11. (任意) UCS A/chassis/sioc/adapter # **show firmware**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A # scope chassis <i>chassis-id</i>	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # scope sioc {1 2}	指定した SIOC を入力します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/sioc # scope adapter	シャーシアダプタ モードを開始します。
ステップ 4	UCS A/chassis/sioc/adapter # show image	シャーシアダプタ の使用可能なソフトウェア イメージを表示します。
ステップ 5	UCS-A /chassis/sioc/cmc # update firmware バージョン番号	シャーシアダプタの選択したファームウェア バージョンを更新します。
ステップ 6	(任意) UCS A/chassis/sioc/adapter* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。 ステップ7でファームウェアをアクティブにする前に、ステップ6で show update status コマンドを使用してファームウェアのアップデートが正常に完了したことを確認する場合のみ、このステップを使用します。このステップをスキップして、同じトランザクションで update firmware および activate firmware コマンドをコミットできます。ただし、

	コマンドまたはアクション	目的
		ファームウェアのアップデートが正常に完了していない場合は、ファームウェアのアクティブ化が開始されません。
ステップ 7	(任意) UCS A/chassis/sioc/adapter # show update status	ファームウェアのアップデートのステータスを表示します。 ファームウェアのアップデートが正常に完了したことを確認する場合にのみ、このステップを使用します。アップデートステータスが Ready になったら、ファームウェアのアップデートは完了です。CLI の表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスが Updating から Ready に変更されるまで、何度も show update status コマンドを入力する必要があります。アップデートステータスが Ready になったらステップ 7 に進みます。
ステップ 8	UCS-A /chassis/sioc/adapter # activate firmware バージョン番号	シャーシアダプタの選択したファームウェアバージョンをアクティブにします。
ステップ 9	UCS A/chassis/sioc/adapter* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。
ステップ 10	UCS A/chassis/sioc/adapter # show activate status	ファームウェアのアクティベーションのステータスを表示します。 ファームウェアのアクティベーションが正常に完了したことを確認する場合にのみ、このステップを使用します。CLI の表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスが Activating から Ready に変更されるまで、何度も show activate status コマンドを入力する必要があります。
ステップ 11	(任意) UCS A/chassis/sioc/adapter # show firmware	実行中のファームウェアのバージョン、 Update ステータスと Activate ステータスを表示します。

例

次の例では、同じトランザクションでシャーシアダプタのファームウェアをアップデートしてアクティブ化します。ファームウェアのアップデートとアクティベーションが正常に完了したかどうかについて確認は行いません。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A# /chassis # scope sioc 2
UCS-A# /chassis/sioc # scope adapter
UCS-A# /chassis/sioc/adapter # show image
Name                                     Type                                     Version
-----
```

```
ucs-2200.3.1.2.222.gbin          Chassis Adaptor    3.1(2b)
ucs-2200.3.1.300.102.gbin       Chassis Adaptor    3.1(300.102)
ucs-m83-8p40-vic.4.1.1.58.gbin  Chassis Adaptor    4.1(1.58)
ucs-pcie-c40q-03.4.1.1.58.gbin  Chassis Adaptor    4.1(1.58)
```

```
UCS-A# /chassis/sioc/adapter # update firmware 3.1(2b)
UCS-A# /chassis/sioc/adapter* # activate firmware 3.1(2b)
UCS-A# /chassis/sioc/adapter* # commit-buffer
UCS-A# /chassis/sioc/adapter # show firmware
Adapter:
  Running-Vers: 3.1(2b)
  Package-Vers:
  Update-Status: Ready
  Activate-Status: Ready
```

次の例では、シャーシアダプタのファームウェアをアップデートし、アップデートが正常に完了したことを確認してからファームウェアのアクティベーションを開始して、シャーシアダプタのファームウェアをアクティブ化し、アクティベーションが正常に完了したことを確認します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A# /chassis # scope sioc 2
UCS-A# /chassis/sioc # scope adapter
UCS-A# /chassis/sioc/adapter # show image
```

Name	Type	Version
ucs-2200.3.1.2.222.gbin	Chassis Adaptor	3.1(2b)
ucs-2200.3.1.300.102.gbin	Chassis Adaptor	3.1(300.102)
ucs-m83-8p40-vic.4.1.1.58.gbin	Chassis Adaptor	4.1(1.58)
ucs-pcie-c40q-03.4.1.1.58.gbin	Chassis Adaptor	4.1(1.58)

```
UCS-A# /chassis/sioc/adapter # update firmware 3.1(2b)
UCS-A# /chassis/sioc/adapter* # commit-buffer
UCS-A# /chassis/sioc/adapter # show update status
Status: Ready
UCS-A# /chassis/sioc/adapter # activate firmware 3.1(2b)
UCS-A# /chassis/sioc/adapter* # commit-buffer
UCS-A# /chassis/sioc/adapter # show activate status
Status: Ready
UCS-A# /chassis/sioc/adapter # show firmware
Adapter:
  Running-Vers: 3.1(2b)
  Package-Vers:
  Update-Status: Ready
  Activate-Status: Ready
```

シャーシの SAS エクスパンダのファームウェアのアップデートおよびアクティブ化



注意 更新プロセスが完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、そこでメンテナンス作業を実行したりしないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

手順の概要

1. UCS-A # **scope chassis chassis-id**
2. UCS-A /chassis # **scope sas-expander sas-id**
3. UCS-A /chassis/sas-expander # **update firmware** バージョン番号
4. (任意) UCS-A /chassis/sas-expander* # **commit-buffer**
5. (任意) UCS-A /chassis/sas-expander # **show update status**
6. UCS-A /chassis/sas-expander # **activate firmware** バージョン番号
7. UCS-A /chassis/sas-expander* # **commit-buffer**
8. (任意) UCS-A /chassis/sas-expander # **show activate status**
9. (任意) UCS-A /chassis/sas-expander # **show firmware**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A # scope chassis chassis-id	シャーシ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # scope sas-expander sas-id	指定された SAS エクスパンダのシャーシ SAS エクスパンダ モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/sas-expander # update firmware バージョン番号	シャーシ内の指定された SAS エクスパンダで、選択したファームウェアバージョンをアップデートします。
ステップ 4	(任意) UCS-A /chassis/sas-expander* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。 ステップ 6 でファームウェアをアクティブにする前に、ステップ 5 で show update status コマンドを使用してファームウェアのアップデートが正常に完了したことを確認する場合のみ、このステップを使用します。このステップをスキップして、同じトランザクションで update firmware および activate firmware コマンドをコミットできます。ただし、ファームウェアのアップデートが正常に完了していない場合は、ファームウェアのアクティブ化が開始されません。

	コマンドまたはアクション	目的
		Cisco UCS Manager によって、選択したファームウェアイメージがバックアップメモリパーティションにコピーされ、そのイメージが破損していないことが確認されます。イメージは、明示的にアクティブにするまで、バックアップバージョンとして残されます。
ステップ 5	(任意) UCS-A /chassis/sas-expander # show update status	<p>ファームウェアのアップデートのステータスを表示します。</p> <p>ファームウェアのアップデートが正常に完了したことを確認する場合にのみ、このステップを使用します。アップデートステータスが Ready になったら、ファームウェアのアップデートは完了です。CLI の表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスが Updating から Ready に変更されるまで、何度も show update status コマンドを入力する必要があります。アップデートステータスが Ready になったらステップ 6 に進みます。</p>
ステップ 6	UCS-A /chassis/sas-expander # activate firmware バージョン番号	シャーシ内の指定された SAS エクスパンダで、選択したファームウェアバージョンをアクティブ化します。
ステップ 7	UCS-A /chassis/sas-expander* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。
ステップ 8	(任意) UCS-A /chassis/sas-expander # show activate status	<p>ファームウェアのアクティベーションのステータスを表示します。</p> <p>ファームウェアのアクティベーションが正常に完了したことを確認する場合にのみ、このステップを使用します。CLI の表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスが Activating から Ready に変更されるまで何度も show activate status コマンドを入力する必要がある場合があります。</p>
ステップ 9	(任意) UCS-A /chassis/sas-expander # show firmware	実行中のファームウェアのバージョン、更新ステータス、およびアクティブ化ステータスを表示します。

例

次の例では、ファームウェア更新とファームウェアアクティブ化が正常に完了したことを確認せずに、同じトランザクションで SAS ファームウェアをバージョン 3.1(2b) に更新してアクティブにします。

```
UCS-A# scope chassis 2
UCS-A# /chassis # scope sas-expander
UCS-A# /chassis/sas-expander # update firmware 3.1(2b)
UCS-A# /chassis/sas-expander* # activate firmware 3.1(2b)
UCS-A# /chassis/sas-expander* # commit-buffer
UCS-A# /chassis/sas-expander # show firmware
Running-Vers    Package-Vers    Activate-Status
-----
3.1(2b)                Ready
```

次の例では、SAS エクスパンダファームウェアをバージョン3.1(2b)に更新し、ファームウェア更新が正常に完了したことを確認してからファームウェアアクティブ化を開始し、SAS エクスパンダファームウェアをアクティブにして、ファームウェアアクティブ化が正常に完了したことを確認します。

```
UCS-A# scope chassis 2
UCS-A# /chassis # scope sas-expander
UCS-A# /chassis/sas-expander # update firmware 3.1(2b)
UCS-A# /chassis/sas-expander* # commit-buffer
UCS-A# /chassis/sas-expander # show update status
Status: Ready
UCS-A# /chassis/sas-expander # activate firmware 3.1(2b)
UCS-A# /chassis/sas-expander* # commit-buffer
UCS-A# /chassis/sas-expander # show activate status
Status: Ready
UCS-A# /chassis/sas-expander # show firmware
Running-Vers: 3.1(2b)
Package Vers: 3.1(2b)
Update-Status: Ready
Activate-Status: Ready
```

シャーシのボードコントローラ ファームウェアのアクティブ化



(注) Cisco UCS Manager 以前のバージョンへのボードコントローラファームウェアのアクティブ化をサポートしません。

始める前に

正しい手順でサーバの電源をオフにします。

手順の概要

1. UCS-A # **scope chassis chassis-id**
2. UCS-A /chassis # **scope sioc {1 | 2}**
3. UCS-A /chassis/sioc # **scope boardcontroller**
4. UCS-A /chassis/sioc/boardcontroller # **activate firmware** バージョン番号

5. UCS A/chassis/sioc/boardcontroller * # **commit-buffer**
6. UCS A/chassis/sioc/boardcontroller # **show firmware**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A # scope chassis chassis-id	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # scope sioc {1 2}	シャーシで指定した SIOC を入力します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/sioc # scope boardcontroller	シャーシのボードコントローラモードに入ります。
ステップ 4	UCS-A /chassis/sioc/boardcontroller # activate firmware バージョン番号	シャーシのボードコントローラ上で選択されたファームウェアバージョンをアクティブにします。
ステップ 5	UCS A/chassis/sioc/boardcontroller * # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 6	UCS A/chassis/sioc/boardcontroller # show firmware	実行中のファームウェアのバージョンとその activate ステータスを表示します。

例

次に、シャーシ上のボードコントローラファームウェアをアクティブにする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A /chassis # scope sioc 1
UCS-A /chassis/sioc # scope boardcontroller
UCS-A /chassis/sioc/boardcontroller # activate firmware 3.1.211
Warning: When committed, this command will soft shutdown the servers and may power cycle
the chassis while activating the board controller.
Associated servers power state will be restored after chassis power cycle.
UCS-A# /chassis/sioc/boardcontroller* # commit-buffer
UCS-A /chassis/sioc/boardcontroller # show firmware
Board Controller:
  Running-Vers: NA
  Package-Vers: 3.1(2b)C
  Activate-Status: Ready
UCS-A /chassis/boardcontroller* #
```

サーバエンドポイントのファームウェアの直接のアップグレード

CIMCファームウェアのアップデートおよびアクティブ化Cisco UCS S3260ストレージサーバ

CIMC のファームウェアのアクティベーションによって、データ トラフィックは中断しません。ただし、すべての KVM セッションに割り込み、サーバに接続しているすべての vMedia が切断されます。



注意 更新プロセスが完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、そこでメンテナンス作業を実行したりしないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server chassis-id / server-id**
2. UCS-A /chassis/server # **scope cimc**
3. UCS-A /chassis/server/cimc # **show image**
4. UCS-A /chassis/server/cimc # **update firmware** バージョン番号
5. (任意) UCS-A /chassis/server/cimc* # **commit-buffer**
6. (任意) UCS-A /chassis/server/cimc # **show firmware**
7. UCS-A /chassis/server/cimc # **activate firmware** バージョン番号
8. UCS-A /chassis/server/cimc* # **commit-buffer**
9. (任意) UCS-A /chassis/server/cimc # **show firmware**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-id / server-id	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # scope cimc	シャーシサーバ CIMC モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server/cimc # show image	アダプタの使用可能なソフトウェアイメージを表示します。
ステップ 4	UCS-A /chassis/server/cimc # update firmware バージョン番号	サーバの CIMC の選択したファームウェアバージョンをアップデートします。
ステップ 5	(任意) UCS-A /chassis/server/cimc* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。 ステップ 7 でファームウェアをアクティブにする前に、ステップ 6 で show firmware コマンドを使用し

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>てファームウェアのアップデートが正常に完了したことを確認する場合のみ、このステップを使用します。このステップをスキップして、同じトランザクションで update-firmware および activate-firmware コマンドをコミットできます。ただし、ファームウェアのアップデートが正常に完了していない場合は、ファームウェアのアクティブ化が開始されません。</p> <p>Cisco UCS Manager によって、選択したファームウェアイメージがバックアップメモリパーティションにコピーされ、そのイメージが破損していないことが確認されます。イメージは、明示的にアクティブにするまで、バックアップバージョンとして残されます。</p>
ステップ 6	(任意) UCS-A /chassis/server/cimc # show firmware	<p>ファームウェアのアップデートのステータスを表示します。</p> <p>ファームウェアのアップデートが正常に完了したことを確認する場合にのみ、このステップを使用します。アップデートステータスが Ready になったら、ファームウェアのアップデートは完了です。CLI の表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスが Updating から Ready に変更されるまで何度も show firmware コマンドを入力する必要がある場合があります。アップデートステータスが Ready になったらステップ 7 に進みます。</p>
ステップ 7	UCS-A /chassis/server/cimc # activate firmware バージョン番号	<p>サーバの CIMC の選択したファームウェアバージョンをアクティブにします。</p>
ステップ 8	UCS-A /chassis/server/cimc* # commit-buffer	<p>トランザクションをコミットします。</p>
ステップ 9	(任意) UCS-A /chassis/server/cimc # show firmware	<p>ファームウェアのアクティベーションのステータスを表示します。</p> <p>ファームウェアのアクティベーションが正常に完了したことを確認する場合にのみ、このステップを使用します。CLI の表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスが Activating から Ready に変更されるまで何度も show firmware コマンドを入力する必要がある場合があります。</p>

例

次の例では、同じトランザクションで CIMC のファームウェアをアップデートしてアクティブ化します。ファームウェアのアップデートとアクティベーションが正常に完了したかどうかについて確認は行いません。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A# /chassis/server # scope cimc
UCS-A# /chassis/server/cimc # show image
```

Name	Type	Version
ucs-b200-m1-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b200-m3-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b200-m4-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b22-m3-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b230-m2-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b250-m1-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b420-m3-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b420-m4-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b440-m2-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-c22-k9-cimc.2.0.12.73.gbin	CIMC	2.0 (12.73)
ucs-c220-k9-cimc.2.0.12.73.gbin	CIMC	2.0 (12.73)
ucs-c220-m4-k9-cimc.2.0.12.73.gbin	CIMC	2.0 (12.73)
ucs-c240-k9-cimc.2.0.12.73.gbin	CIMC	2.0 (12.73)
ucs-c240-m4-k9-cimc.2.0.12.73.gbin	CIMC	2.0 (12.73)
ucs-c3260-m3-k9-cimc.2.0.12.73.gbin	CIMC	2.0 (12.73)
ucs-c3260-m4-k9-cimc.2.0.12.73.gbin	CIMC	2.0 (12.73)
ucs-c460-m4-k9-cimc.2.0.12.73.gbin	CIMC	2.0 (12.73)
ucs-EXM4-1-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-EXM4-2-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)

```

...

UCS-A# /chassis/server/cimc # update firmware 2.0(12.73)
UCS-A# /chassis/server/cimc* # activate firmware 2.0(12.73)
UCS-A# /chassis/server/cimc* # commit-buffer
UCS-A# /chassis/server/cimc #
```

次の例では、CIMC のファームウェアをアップデートし、アップデートが正常に完了したことを確認してからファームウェアのアクティベーションを開始して、CIMC のファームウェアをアクティブ化し、アクティベーションが正常に完了したことを確認します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A# /chassis/server # scope cimc
UCS-A# /chassis/server/cimc # show image
```

Name	Type	Version
ucs-b200-m1-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b200-m3-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b200-m4-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b22-m3-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b230-m2-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b250-m1-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)
ucs-b420-m3-k9-cimc.3.1.20.26.gbin	CIMC	3.1 (20.26)

```

ucs-b420-m4-k9-cimc.3.1.20.26.gbin          CIMC          3.1 (20.26)
ucs-b440-m2-k9-cimc.3.1.20.26.gbin          CIMC          3.1 (20.26)
ucs-c22-k9-cimc.2.0.12.73.gbin             CIMC          2.0 (12.73)
ucs-c220-k9-cimc.2.0.12.73.gbin            CIMC          2.0 (12.73)
ucs-c220-m4-k9-cimc.2.0.12.73.gbin         CIMC          2.0 (12.73)
ucs-c240-k9-cimc.2.0.12.73.gbin            CIMC          2.0 (12.73)
ucs-c240-m4-k9-cimc.2.0.12.73.gbin         CIMC          2.0 (12.73)
ucs-c3260-m3-k9-cimc.2.0.12.73.gbin        CIMC          2.0 (12.73)
ucs-c3260-m4-k9-cimc.2.0.12.73.gbin        CIMC          2.0 (12.73)
ucs-c460-m4-k9-cimc.2.0.12.73.gbin         CIMC          2.0 (12.73)
ucs-EXM4-1-k9-cimc.3.1.20.26.gbin          CIMC          3.1 (20.26)
ucs-EXM4-2-k9-cimc.3.1.20.26.gbin          CIMC          3.1 (20.26)
...

```

```
UCS-A# /chassis/server/cimc # update firmware 2.0(12.73)
```

```
UCS-A# /chassis/server/cimc* # commit-buffer
```

```
UCS-A# /chassis/server/cimc # show firmware
```

```

Running-Vers   Update-Status   Activate-Status
-----
2.0 (12.73)    Updating        Ready

```

```
UCS-A# /chassis/server/cimc # show firmware
```

```

Running-Vers   Update-Status   Activate-Status
-----
2.0 (12.73)    Ready           Ready

```

```
UCS-A# /chassis/server/cimc # activate firmware 2.0(12.73)
```

```
UCS-A# /chassis/server/cimc* # commit-buffer
```

```
UCS-A# /chassis/server/cimc # show firmware
```

```

Running-Vers   Update-Status   Activate-Status
-----
2.0 (12.73)    Ready           Activating

```

```
UCS-A# /chassis/server/cimc # show firmware
```

```

Running-Vers   Update-Status   Activate-Status
-----
2.0 (12.73)    Ready           Ready

```

BIOS ファームウェアのアップデートおよびアクティブ化 Cisco UCS S3260 ストレージサーバ



重要 Cisco UCS Manager CLI を使用して、サーバ上の BIOS ファームウェアを更新してアクティブにすることができます。



注意 更新プロセスが完了するまで、エンドポイントがあるハードウェアを取り外したり、そこでメンテナンス作業を実行したりしないでください。ハードウェアが取り外されたり、その他のメンテナンス作業により使用できない場合、ファームウェアの更新は失敗します。この失敗により、バックアップパーティションが破損する場合があります。バックアップパーティションが破損しているエンドポイントではファームウェアを更新できません。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server chassis-id / server-id**
2. UCS-A /chassis/server # **scope bios**
3. UCS-A /chassis/server/bios # **show image**
4. UCS-A /chassis/server/bios # **update firmware** バージョン番号
5. (任意) UCS-A /chassis/server/bios* # **commit-buffer**
6. (任意) UCS-A /chassis/server/bios # **show firmware**
7. UCS-A /chassis/server/bios # **activate firmware** バージョン番号
8. UCS-A /chassis/server/bios* # **commit-buffer**
9. (任意) UCS-A /chassis/bios # **show firmware**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-id / server-id	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # scope bios	シャーシサーバ BIOS モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server/bios # show image	使用可能な BIOS ファームウェア イメージを表示します。
ステップ 4	UCS-A /chassis/server/bios # update firmware バージョン番号	サーバの選択した BIOS ファームウェアを更新します。
ステップ 5	(任意) UCS-A /chassis/server/bios* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。 ステップ 7 でファームウェアをアクティブにする前に、ステップ 6 で show firmware コマンドを使用してファームウェアのアップデートが正常に完了したことを確認する場合のみ、このステップを使用します。このステップをスキップして、同じトランザクションで update-firmware および activate-firmware コマンドをコミットできます。ただし、ファームウェアのアップデートが正常に完了していない場合は、ファームウェアのアクティブ化が開始されません。 Cisco UCS Manager によって、選択したファームウェア イメージがバックアップ メモリ パーティションにコピーされ、そのイメージが破損していないことが確認されます。イメージは、明示的にアクティブにするまで、バックアップバージョンとして残されます。
ステップ 6	(任意) UCS-A /chassis/server/bios # show firmware	ファームウェアのアップデートのステータスを表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
		ファームウェアのアップデートが正常に完了したことを確認する場合にのみ、このステップを使用します。アップデートステータスが Ready になったら、ファームウェアのアップデートは完了です。CLI の表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスが Updating から Ready に変更されるまで何度も show firmware コマンドを入力する必要がある場合があります。アップデートステータスが Ready になったらステップ 7 に進みます。
ステップ 7	UCS-A /chassis/server/bios # activate firmware バージョン番号	選択したサーバ BIOS ファームウェア バージョンをアクティブにします。
ステップ 8	UCS-A /chassis/server/bios* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。
ステップ 9	(任意) UCS-A /chassis/bios # show firmware	ファームウェアのアクティブバージョンのステータスを表示します。 ファームウェアのアクティブバージョンが正常に完了したことを確認する場合にのみ、このステップを使用します。CLI の表示は自動的に更新されないため、タスクのステータスが Activating から Ready に変更されるまで何度も show firmware コマンドを入力する必要がある場合があります。

例

次の例では、同じトランザクションで BIOS ファームウェアの更新とアクティブーションを行います。ファームウェアの更新とアクティブーションが正常に完了したことの確認は行いません。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A# /chassis/server # scope bios
UCS-A# /chassis/server/bios # show image
Name                                     Type          Version
-----
ucs-b200-m2-bios.S5500.2.1.3c.0.0151437.bin  Server BIOS   S5500.2.1.3c.
0.081120151437
ucs-b200-m3-bios.B200M3.2.2.6d.0.160055.bin  Server BIOS   B200M3.2.2.6d
.0.062220160055
ucs-b200-m4-bios.B200M4.3.1.3c.0.161459.bin  Server BIOS   B200M4.3.1.3c
.0.080120161459
ucs-b200-m4-bios.B200M4.3.1.3e.0.161737.bin  Server BIOS   B200M4.3.1.3e
.0.081120161737
ucs-b22-m3-bios.B22M3.2.2.6d.0.20160114.bin  Server BIOS   B22M3.2.2.6d.
```

```

0.062220160114
ucs-b230-m2-bios.B230.2.1.3a.0.20151410.bin  Server BIOS  B230.2.1.3a.0

.022420151410
ucs-b250-m2-bios.S5500.2.1.3d.0.0161035.bin  Server BIOS  S5500.2.1.3d.

0.032520161035
ucs-b420-m3-bios.B420M3.2.2.6e.0.160138.bin  Server BIOS  B420M3.2.2.6e.0.062220160138
ucs-b420-m4-bios.B420M4.3.1.2a.0.161234.bin  Server BIOS  B420M4.3.1.2a.0.072520161234
ucs-b420-m4-bios.B420M4.3.1.2d.0.161622.bin  Server BIOS  B420M4.3.1.2d.0.081120161622
ucs-b440-m2-bios.B440.2.1.3a.0.20151142.bin  Server BIOS  B440.2.1.3a.0.022420151142
ucs-c22-bios.C22M3.2.0.13a.0.0713160955.bin  Server BIOS  C22M3.2.0.13a.0.0713160955
ucs-c220-bios.C220M3.2.0.13a.0.0713160937.bin  Server BIOS  C220M3.2.0.13a.0.0713160937
ucs-c220-m4-bios.C220M4.2.0.13a.0.62332.bin  Server BIOS  C220M4.2.0.13a.0.0725162332
ucs-c220-m4-bios.C220M4.2.0.13b.0.61705.bin  Server BIOS  C220M4.2.0.13b.0.0805161705
ucs-c240-bios.C240M3.2.0.13a.0.0713160947.bin  Server BIOS  C240M3.2.0.13a.0.0713160947
ucs-c240-m4-bios.C240M4.2.0.13a.0.62345.bin  Server BIOS  C240M4.2.0.13a.0.0725162345
ucs-c240-m4-bios.C240M4.2.0.13b.0.61722.bin  Server BIOS  C240M4.2.0.13b.0.0805161722
ucs-c3260-m3-bios.C3X60M3.2.0.13a.0.044.bin  Server BIOS  C3X60M3.2.0.13a.0.0722160044
ucs-c3260-m4-bios.C3X60M4.2.0.13a.0.350.bin  Server BIOS  C3X60M4.2.0.13a.0.0801162350
ucs-c460-m4-bios.C460M4.2.0.13a.0.60447.bin  Server BIOS  C460M4.2.0.13a.0.072720160447
ucs-c460-m4-bios.C460M4.2.0.13b.0.62321.bin  Server BIOS  C460M4.2.0.13b.0.080320162321
ucs-EXM4-1-bios.EXM4.2.2.7.0.1520161539.bin  Server BIOS  EXM4.2.2.7.0.021520161539
ucs-EXM4-2-bios.EXM4.2.2.7.0.1520161539.bin  Server BIOS  EXM4.2.2.7.0.021520161539
ucs-EXM4-3-bios.EXM4.3.1.2b.0.020161506.bin  Server BIOS  EXM4.3.1.2b.0.062020161506

UCS-A# /chassis/server/bios # update firmware C3X60M4.2.0.12.11.041320162312
UCS-A# /chassis/server/bios* # activate firmware C3X60M4.2.0.12.11.041320162312
UCS-A# /chassis/server/bios* # commit-buffer
UCS-A# /chassis/server/bios #

```

ボードコントローラ ファームウェアのアクティブ化 Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ

ボードコントローラ ファームウェアは、eUSB、LED、I/O コネクタなど、サーバの多くの機能を制御します。



- (注) このアクティブ化手順を実行すると、サーバはリブートされます。サーバに関連付けられているサービス プロファイルにメンテナンス ポリシーが含まれているかどうかに応じて、リブートはただちに行われることがあります。ボードコントローラファームウェアは、Cisco UCS ドメインのアップグレードの最後の手順として、サーバ BIOS のアップグレードと同時に、サービス プロファイル内のホスト ファームウェア パッケージからアップグレードすることをお勧めします。これによって、アップグレードプロセス中にサーバをリブートする回数を低減できます。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server** *chassis-id / server-id*
2. UCS-A /chassis/server # **scope boardcontroller**
3. (任意) UCS-A /chassis/server/boardcontroller # **show image**
4. (任意) UCS-A /chassis/server/boardcontroller # **show firmware**
5. UCS-A /chassis/server/boardcontroller # **activate firmware** バージョン番号

6. UCS-A /chassis/server/boardcontroller* # commit-buffer

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-id / server-id</i>	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # scope boardcontroller	サーバのボードコントローラモードを開始します。
ステップ 3	(任意) UCS-A /chassis/server/boardcontroller # show image	ボードコントローラの利用可能なソフトウェアイメージを表示します。
ステップ 4	(任意) UCS-A /chassis/server/boardcontroller # show firmware	ボードコントローラの現在実行中のソフトウェアイメージを表示します。
ステップ 5	UCS-A /chassis/server/boardcontroller # activate firmware <i>バージョン番号</i>	サーバのボードコントローラを選択されたファームウェアバージョンをアクティブ化します。
ステップ 6	UCS-A /chassis/server/boardcontroller* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、ボードコントローラのファームウェアをアクティブ化します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A# /chassis/server # scope boardcontroller
UCS-A# /chassis/server/boardcontroller # show image
Name                                     Type                                     Version
-----
ucs-4308-brdprog.1.0.12.gbin             Chassis Board Controller              1.0.12
ucs-b200-m3-brdprog.15.0.gbin            Board Controller                       15.0
ucs-b200-m4-brdprog.12.0.gbin            Board Controller                       12.0
ucs-b22-m3-brdprog.17.0.gbin             Board Controller                       17.0
ucs-b230-m2-pld.B230100D.gbin            Board Controller                       B230100D
ucs-b250-m1-pld.111026-111026.gbin        Board Controller                       111026-111026

      ucs-b420-m3-brdprog.12.0.gbin        Board Controller                       12.0
      ucs-b420-m4-brdprog.6.0.gbin         Board Controller                       6.0
      ucs-b440-m2-pld.B440100C-B4402008.gbin Board Controller                       B440100C-B440
      2008
      ucs-c22-m3-brdprog.5.0.gbin          Board Controller                       5.0
      ucs-c220-m3-brdprog.5.0.gbin         Board Controller                       5.0
      ucs-c220-m4-brdprog.27.0.gbin        Board Controller                       27.0
      ucs-c240-m3-brdprog.5.0.gbin         Board Controller                       5.0
      ucs-c240-m4-brdprog.24.0.gbin        Board Controller                       24.0
      ucs-c3260-brdprog.1.0.11.gbin        Board Controller                       1.0.11
      ucs-c3260-m3-brdprog.2.0.gbin        Board Controller                       2.0
      ucs-c460-m4-brdprog.16.0.gbin        Board Controller                       16.0
      ucs-EXM4-1-brdprog.7.0.gbin          Board Controller                       7.0
      ucs-EXM4-2-brdprog.5.0.gbin          Board Controller                       5.0
```

```
UCS-A# /chassis/server/boardcontroller # show firmware
BoardController:
  Running-Vers: 1.0.11
  Package-Vers: 3.1(2)B
  Activate-Status: Ready

UCS-A# /chassis/server/boardcontroller # activate firmware 1.0.11
UCS-A# /chassis/server/boardcontroller* # commit-buffer
```




第 8 章

シャーシ管理

- Cisco UCS S3260 シャーシ (111 ページ)
- シャーシの認識 (112 ページ)
- シャーシの稼働中止 (112 ページ)
- シャーシの削除 (113 ページ)
- シャーシのロケータ LED の電源投入 (114 ページ)
- シャーシのロケータ LED の電源切断 (115 ページ)

Cisco UCS S3260 シャーシ

Cisco UCS Manager リリース 4.0(1) では、Cisco UCS 6454 Fabric Interconnect で Cisco UCS S3260 シャーシがサポートされています。

Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) では、Cisco UCS 6300 シリーズの Cisco UCS S3260 シャーシのサポート、6200 シリーズ ファブリック インターコネクト設定が導入されました。

Cisco UCS S3260 シャーシは、スタンドアロン環境でも、または Cisco Unified Computing System の一部としてでも動作するように設計された、4U シャーシです。次の主要なコンポーネントがあります。

- 4 つの 1050 W AC 電源モジュール (2+2 共有および動作の冗長モード)
- 2 つのシステム I/O コントローラ (SIOC) スロット
- 2 つのストレージスロット、そのうちの 1 つは拡張ストレージに使用可能



(注) シャーシの 2 番目のサーバスロットは、追加の 4 台の 3.5 インチドライブ用の HDD 拡張トレイ モジュールで利用できます。

- 2 番目のサーバの代わりに、オプションの 4 台の 3.5 インチ HDD 拡張トレイ モジュールを含む 56 個の 3.5 インチドライブベイ
- 6TB HDD を使用した最大 360TB のストレージ容量

- 個々のサーバモジュールに3.5インチドライブを割り当てるように設定できるシリアル接続 SCSI (SAS) エクспанダ
- シャーシの2台のサーバは、IO エクспанダを含む1台のダブルハイトサーバと交換可能です

シャーシの認識

シャーシをファブリックインターコネクタに接続するポートを変更した場合は、次の手順を実行します。Cisco UCS Managerがポートの変更を認識していることをシャーシに確認します。

シャーシをファブリックインターコネクタに接続するポートを変更した後、少なくとも1分間待ってからシャーシを再確認します。

手順の概要

1. UCS-A# **acknowledge chassis** シャーシ番号
2. UCS-A* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# acknowledge chassis シャーシ番号	指定シャーシを認識します。
ステップ 2	UCS-A* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、シャーシ3を認識し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# acknowledge chassis 3
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

シャーシの稼働中止

手順の概要

1. UCS-A# **decommission chassis** シャーシ番号
2. UCS-A* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# decommission chassis シャーシ番号	指定されたシャーシを解放します。
ステップ 2	UCS-A* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

稼働が停止するまでには、数分間かかります。

例

次の例では、シャーシ 2 を解放し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# decommission chassis 2
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A # show chassis
```

```
Chassis:
  Chassis      Overall Status      Admin State
  -----
          1 Operable          Acknowledged
          2 Accessibility Problem  Decommission
UCS-A #
```

シャーシの削除

始める前に

次の手順を実行する前に、シャーシを物理的に取り外します。



(注) 現在、物理的にシステムに存在する場合、シャーシを削除できません。

手順の概要

1. UCS-A# **remove chassis** シャーシ番号
2. UCS-A* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# remove chassis シャーシ番号	指定したシャーシを削除します。
ステップ 2	UCS-A* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

削除が完了するまでに数分かかる場合があります。

例

次に、シャーシ 3 を削除し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# remove chassis 3
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

シャーシのロケータ LED の電源投入

手順の概要

1. UCS-A# **scope chassis** シャーシ番号
2. UCS-A /chassis # **enable locator-led** [multi-master | multi-slave]
3. UCS-A /chassis* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis シャーシ番号	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # enable locator-led [multi-master multi-slave]	シャーシ ロケータ LED の電源を投入します。 <ul style="list-style-type: none"> • multi-master : マスター ノードのみに対して LED を点灯します。 • multi-slave : スレーブ ノードのみに対して LED を点灯します。
ステップ 3	UCS-A /chassis* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、シャーシ 3 のロケータ LED の電源を投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 3
UCS-A /chassis # enable locator-led
UCS-A /chassis* # commit-buffer
UCS-A /chassis #
```

次に、マスタ ノードのロケータ LED のみをオンにし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 3
UCS-A /chassis # enable locator-led multi-master
UCS-A /chassis* # commit-buffer
UCS-A /chassis #
```

シャーシのロケータ LED の電源切断

手順の概要

1. UCS-A# **scope chassis** シャーシ番号
2. UCS-A /chassis # **disable locator-led** [multi-master | multi-slave]
3. UCS-A /chassis* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis シャーシ番号	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # disable locator-led [multi-master multi-slave]	シャーシ ロケータ LED の電源を切断します。 <ul style="list-style-type: none"> • multi-master : マスター ノードのみに対して LED を消灯します。 • multi-slave : スレーブ ノードのみに対して LED を消灯します。
ステップ 3	UCS-A /chassis* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、シャーシ 3 のロケータ LED の電源を切断し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 3
UCS-A /chassis # disable locator-led
UCS-A /chassis* # commit-buffer
UCS-A /chassis #
```

次に、マスター ノードのロケータ LED をオフにし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 3
UCS-A /chassis # disable locator-led multi-master
UCS-A /chassis* # commit-buffer
UCS-A /chassis #
```




第 9 章

サーバ管理

- Cisco UCS S3260 サーバ ノードの管理 (117 ページ)
- サービス プロファイルからのサーバのブート (118 ページ)
- サーバの認識 (119 ページ)
- サーバの電源再投入 (119 ページ)
- サーバのシャットダウン (120 ページ)
- サーバのハード リセットの実行 (121 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバ ノードの出荷時のデフォルト設定へのリセット (122 ページ)
- シャーシからのサーバの削除 (124 ページ)
- サーバの稼働停止 (125 ページ)
- サーバのロケータ LED の点灯 (126 ページ)
- サーバのロケータ LED の消灯 (127 ページ)
- すべてのメモリ エラーのリセット (128 ページ)
- IPMI の出荷時のデフォルト設定へのリセット (128 ページ)
- サーバの CIMC のリセット (129 ページ)
- サーバの CMOS のリセット (130 ページ)
- KVM のリセット (131 ページ)
- サーバからの NMI の発行 (132 ページ)
- 破損した BIOS のリカバリ (132 ページ)
- ヘルス LED アラーム (133 ページ)

Cisco UCS S3260 サーバ ノードの管理

Cisco UCS Managerを使用して、Cisco UCS ドメインのCisco UCS S3260サーバ ノードすべてを管理およびモニタできます。電源状態の変更など一部のサーバ管理タスクは、サーバおよびサービス プロファイルから実行できます。

残りの管理タスクは、サーバ上でだけ実行できます。

シャーシ内のサーバスロットが空の場合、そのスロットに関する情報、エラー、および障害が Cisco UCS Manager から提供されます。サーバ mismatch エラーを解決し、そのスロット内のサーバを再検出するために、スロットを再認識させることもできます。

サービス プロファイルからのサーバのブート

始める前に

サービス プロファイルとサーバまたはサーバ プールを関連付けます。

手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **scope service-profile** *profile-name*
3. UCS-A /org/service-profile # **power up**
4. UCS-A /org/service-profile* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、[org-name] に / を入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイル モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # power up	サービス プロファイルに関連付けられたサーバをブートします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ServProf34 という名前のサービス プロファイルに関連付けられたサーバをブートして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power up
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

サーバの認識

サーバ、およびそのサーバのエンドポイントすべてを再検出する必要がある場合は、次の手順を実行します。たとえば、サーバがディスカバリ状態など、予期していなかった状態から抜け出せなくなっている場合に、この手順を使用します。

手順の概要

1. UCS-A# **acknowledge server** *chassis-num / server-num*
2. UCS-A*# **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# acknowledge server <i>chassis-num / server-num</i>	指定されたサーバを認識します。
ステップ 2	UCS-A*# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、シャーシ 3 のサーバ 1 を認識し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# acknowledge server 3/1
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

サーバの電源再投入

手順の概要

1. UCS-A# **scope server** *chassis-num / server-num*
2. UCS-A /chassis/server # **cycle** {**cycle-immediate** | **cycle-wait**}
3. UCS-A /chassis/server*# **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # cycle { cycle-immediate cycle-wait }	サーバ電源を再投入します。 サーバの電源再投入をただちに開始するには、 cycle-immediate キーワードを使用します。保留中の

	コマンドまたはアクション	目的
		すべての管理操作が完了した後に電源再投入が開始されるようスケジュールするには、 cycle-wait キーワードを使用します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、シャーシ 3 のサーバ 1 の電源をただちに再投入し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # cycle cycle-immediate
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

サーバのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティングシステムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフルシャットダウンシーケンスがトリガーされます。

始める前に

サービス プロファイルとサーバまたはサーバプールを関連付けます。

手順の概要

1. UCS-A# **scope org** *org-name*
2. UCS-A /org # **scope service-profile** *profile-name*
3. UCS-A /org/service-profile # **power down**
4. UCS-A /org/service-profile* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope org <i>org-name</i>	指定した組織の組織モードを開始します。ルート組織モードを開始するには、 <i>org-name</i> に / と入力します。
ステップ 2	UCS-A /org # scope service-profile <i>profile-name</i>	指定したサービス プロファイルで組織サービス プロファイルモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /org/service-profile # power down	サービス プロファイルに関連付けられたサーバをシャットダウンします。
ステップ 4	UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、ServProf34 という名前のサービスプロファイルに関連付けられたサーバをシャットダウンして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope org /
UCS-A /org # scope service-profile ServProf34
UCS-A /org/service-profile # power down
UCS-A /org/service-profile* # commit-buffer
UCS-A /org/service-profile #
```

サーバのハードリセットの実行

サーバをリセットすると、Cisco UCS Manager により、リセットライン上にパルスが送信されます。オペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを選択することができます。オペレーティングシステムがグレースフルシャットダウンをサポートしていない場合は、サーバの電源を切ってから入れ直します。サーバをリセットする前に、Cisco UCS Manager にすべての管理操作を完了させるオプションでは、それらの操作がサーバのリセット前に完了する保証はありません。



(注) 電源切断状態からサーバをブートする場合は、[Reset] を使用しないでください。

この手順を使用して電源投入を続けると、サーバの望ましい電源状態が実際の電源状態と同期しなくなり、サーバが後で予期せずシャットダウンすることがあります。選択したサーバを電源切断状態から安全にリブートするには、[Cancel] をクリックし、[Boot Server] アクションを選択します。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server** *chassis-num / server-num*
2. UCS-A /chassis/server # **reset** {**hard-reset-immediate** | **hard-reset-wait**}
3. UCS-A /server* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset { hard-reset-immediate hard-reset-wait }	サーバのハードリセットを実行します。 以下を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • サーバのハードリセットをすぐに開始するキーワード hard-reset-immediate。 • 保留中のすべての管理操作が完了した後にハードリセットが開始されるようにスケジュールするためのキーワード hard-reset-wait。
ステップ 3	UCS-A /server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、シャーシ 3 のサーバ 1 のハードリセットをただちに実行し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset hard-reset-immediate
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

Cisco UCS S3260 サーバノードの出荷時のデフォルト設定へのリセット

Cisco UCS S3260 サーバノードを出荷時の設定にリセットできるようになりました。デフォルトでは、出荷時へのリセット操作は、ストレージドライブに影響しません。これはデータの損失を防止するためです。ただし、これらのデバイスを既知の状態にリセットすることもできます。

次のガイドラインは、スクラブポリシーを使用する場合に Cisco UCS S3260 サーバノードに適用されます。

- Cisco UCS S3260 サーバノードでは、スクラブポリシーを使用してストレージを削除することはできません。
- Cisco UCS S3260 サーバノードでは、FlexFlash ドライブはサポートされていません。

- Cisco UCS S3260 サーバノードで行える操作は、スクラブ ポリシーを使用した BIOS のリセットのみです。



重要 ストレージデバイスをリセットすると、データが失われる可能性があります。

サーバを出荷時のデフォルト設定にリセットするには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server chassis-num / server-num**
2. UCS-A /chassis/server # **reset factory-default [delete-flexflash-storage | delete-storage [create-initial-storage-volumes]]**
3. UCS-A /chassis/server* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-num / server-num	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset factory-default [delete-flexflash-storage delete-storage [create-initial-storage-volumes]]	<p>サーバ設定の工場出荷時の初期状態へのリセットは、次のコマンドオプションを使用して行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • factory-default : ストレージを削除せずに、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットします (注) この操作は BIOS をリセットします。 • delete-flexflash-storage : サーバを工場出荷時の初期状態にリセットして、FlexFlash ストレージを削除します (注) この操作は、Cisco UCS S3260 サーバノードではサポートされていません。 • delete-storage : サーバを工場出荷時の初期状態にリセットして、すべてのストレージを削除します • create-initial-storage-volumes : サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除し、すべてのディスクを初期状態に設定します
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

例

次に、ストレージを削除せずに、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset factory-default
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、FlexFlash ストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset factory-default delete-flexflash-storage
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset factory-default delete-storage
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

次に、サーバを工場出荷時の初期状態にリセットし、すべてのストレージを削除し、すべてのディスクを初期状態に設定して、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset factory-default delete-storage create-initial-storage-volumes
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
```

シャーシからのサーバの削除

手順の概要

1. UCS-A# **remove server** *chassis-num / server-num*
2. UCS-A*# **commit-buffer**
3. シャーシの物理的な配置場所で、スロットからサーバハードウェアを取り外します。

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# remove server <i>chassis-num / server-num</i>	指定されたサーバを削除します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS-A*# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 3	シャーシの物理的な配置場所で、スロットからサーバハードウェアを取り外します。	サーバハードウェアの取り外し方法については、お使いのシャーシの『Cisco UCS Hardware Installation Guide』を参照してください。

例

次の例では、シャーシ 3 のサーバ 1 を削除し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# remove server 3/1
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

次のタスク

ブレードサーバを物理的に再設置する場合は、Cisco UCS Manager にそのサーバを再検出させるために、スロットの確認応答を再び行う必要があります。

詳細については、[サーバの認識 \(119 ページ\)](#) を参照してください。

サーバの稼働停止

手順の概要

1. UCS-A# **decommission server** *chassis-num / server-num*
2. UCS-A*# **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# decommission server <i>chassis-num / server-num</i>	指定されたサーバを解放します。
ステップ 2	UCS-A*# commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、シャーシ 3 のサーバ 1 を解放し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# decommission server 3/1
UCS-A* # commit-buffer
UCS-A #
```

サーバのロケータ LED の点灯

手順の概要

1. UCS-A# **scope server** *chassis-num / server-num*
2. UCS-A /chassis/server # **enable locator-led** [**multi-master** | **multi-slave**]
3. UCS-A /chassis/server* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したシャーシでシャーシ サーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # enable locator-led [multi-master multi-slave]	サーバのロケータ LED をオンにします。次のコマンドオプションは、Cisco UCS S3260 サーバ ノードには適用されません。 <ul style="list-style-type: none"> • multi-master : マスター ノードのみに対して LED を点灯します。 • multi-slave : スレーブ ノードのみに対して LED を点灯します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、シャーシ 3 のサーバ 1 のロケータ LED を点灯し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # enable locator-led
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

次に、シャーシ 3 のサーバ 1 上でのみマスタ ノードのロケータ LED を点灯し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 3/1
UCS-A /chassis/server # enable locator-led multi-master
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

サーバのロケータ LED の消灯

手順の概要

1. UCS-A# **scope server chassis-num / server-num**
2. UCS-A /chassis/server # **disable locator-led [multi-master | multi-slave]**
3. UCS-A /chassis/server* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-num / server-num	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # disable locator-led [multi-master multi-slave]	サーバのロケータ LED をオフにします。次のコマンドオプションは、Cisco UCS S3260 サーバ ノードには適用されません。 <ul style="list-style-type: none"> • multi-master : マスター ノードのみに対して LED を消灯します。 • multi-slave : スレーブ ノードのみに対して LED を消灯します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、シャーシ 3 のサーバ 1 のロケータ LED を消灯し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 3/1
UCS-A /chassis/server # disable locator-led
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

次に、シャーシ 3 のサーバ 1 上のマスタ ノードのロケータ LED の電源を切断し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 3/1
UCS-A /chassis/server # disable locator-led multi-master
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

すべてのメモリエラーのリセット

発生したすべての訂正可能および訂正不可能なメモリエラーをリセットするには、この手順を使用します。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server** *chassis-num / server-num*
2. UCS-A /chassis/server # **reset-all-memory-errors**
3. UCS-A /chassis/server* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset-all-memory-errors	メモリカードのリセットを実行します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、シャーシ3のサーバ1のハードリセットをただちに実行し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset-all-memory-errors
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

IPMI の出荷時のデフォルト設定へのリセット

出荷時のデフォルト設定に IPMI をリセットする必要がある場合は、次の手順を実行します。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server** *chassis-num / server-num*
2. UCS-A /chassis/server # **reset-ipmi**
3. UCS-A /chassis/server* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-num / server-num	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset-ipmi	IPMI の設定を出荷時のデフォルト設定にリセットします。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

例

次に、IPMI を出荷時のデフォルト設定にリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset-ipmi
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

サーバの CIMC のリセット

ファームウェアの場合、サーバのトラブルシューティング時に、CIMC のリセットが必要になることがあります。CIMC のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC のリセット後、CIMC は、そのサーバで実行中のバージョンのファームウェアを使ってリブートします。

CIMC をリセットすると、CIMC がリポートするまで、Cisco UCS の電力モニタリング機能が短時間使用不能になります。通常は 20 秒しかかかりませんが、その間にピーク電力制限を超える可能性があります。低い電力制限が設定された環境で、設定された電力キャップを超えないようにするには、CIMC のリポートまたはアクティブ化を交互に実施することを検討してください。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server chassis-num / server-num**
2. UCS-A /chassis/server # **scope cimc**
3. UCS-A /chassis/server/cimc # **reset**
4. UCS-A /chassis/server/cimc* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したシャーシでシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # scope cimc	シャーシサーバ CIMC モードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server/cimc # reset	サーバの CIMC をリセットします。
ステップ 4	UCS-A /chassis/server/cimc* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、シャーシ 3 のサーバ 1 の CIMC をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # scope cimc
UCS-A /chassis/server/cimc # reset
UCS-A /chassis/server/cimc* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server/cimc #
```

サーバの CMOS のリセット

場合によっては、サーバのトラブルシューティング時に、CMOSのリセットが必要になることがあります。CMOSのリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server** *chassis-num / server-num*
2. UCS-A /chassis/server # **reset-cmos**
3. UCS-A /chassis/server* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したシャーシでシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # reset-cmos	サーバの CMOS をリセットします。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、シャーシ3のサーバ1のCMOSをリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset-cmos
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

KVMのリセット

すべてのKVMセッションをリセットおよびクリアする必要がある場合は、次の手順を実行します。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server chassis-num / server-num**
2. UCS-A /chassis/server # **reset-kvm**
3. UCS-A /chassis/server* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	UCS-A# scope server chassis-num / server-num	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ2	UCS-A /chassis/server # reset-kvm	すべてのKVMセッションをリセットおよびクリアします。
ステップ3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

例

次に、すべてのKVMセッションをリセットおよびクリアし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # reset-kvm
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

サーバからの NMI の発行

システムが応答しないままになっており、Cisco UCS Manager で、CIMC から BIOS またはオペレーティングシステムに NMI（マスク不能割り込み）を発行する必要がある場合は、次の手順を実行します。このアクションにより、サーバにインストールされているオペレーティングシステムに応じて、コア ダンプまたはスタック トレースが作成されます。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server chassis-num / server-num**
2. UCS-A /chassis/server # **diagnostic-interrupt**
3. UCS-A /chassis/server* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-num / server-num	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # diagnostic-interrupt	
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	保留中のすべてのトランザクションをコミットします。

例

次に、シャーシ 3 のサーバ 1 から NMI を送信し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # diagnostic-interrupt
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

破損した BIOS のリカバリ

非常に珍しいケースですが、サーバの問題により、破損した BIOS の復旧が必要になることがあります。この手順は、通常のサーバ メンテナンスには含まれません。BIOS の復旧後、サーバは、そのサーバで実行されているバージョンのファームウェアを使ってブートされます。

手順の概要

1. UCS-A# **scope server chassis-num / server-num**
2. UCS-A /chassis/server # **recover-bios version**
3. UCS-A /chassis/server* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server <i>chassis-num / server-num</i>	指定したシャーシでシャーシ サーバ モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # recover-bios <i>version</i>	指定した BIOS バージョンをロードし、アクティブにします。
ステップ 3	UCS-A /chassis/server* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、BIOS を復旧する例を示します。

```
UCS-A# scope server 3/1
UCS-A /chassis/server # recover-bios S5500.0044.0.3.1.010620101125
UCS-A /chassis/server* # commit-buffer
UCS-A /chassis/server #
```

ヘルス LED アラーム

サーバのヘルス LED は各サーバの前面にあります。Cisco UCS Manager ではセンサー故障が発生すると、ブレードのヘルス LED の色が緑からオレンジ、またはオレンジの点滅に変わります。

ヘルス LED アラームには次の情報が表示されます。

名前	説明
[Severity] カラム	アラームの重大度。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> 重要：サーバのステータス LED がオレンジ色に点滅します。これは赤色のドットで示されます。 マイナー：サーバのステータス LED がオレンジ色です。これはオレンジ色のドットで示されます。
[Description] カラム	アラームの簡単な説明。
[センサー ID (Sensor ID)] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの ID。
[Sensor Name] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの名前。

ヘルス LED ステータスの表示

手順の概要

1. UCS-A# **scope server chassis-id / server-id**
2. UCS-A /chassis/server # **show health-led expand**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope server chassis-id / server-id	指定サーバのシャーシサーバモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis/server # show health-led expand	選択したサーバのヘルス LED およびセンサー アラームを表示します。

例

次の例では、シャーシ 1 サーバ 3 のヘルス LED ステータスとセンサー アラームを表示する方法を示します。

```
UCS-A# scope server 1/3
UCS-A /chassis/server # show health-led expand
Health LED:
  Severity: Normal
  Reason:
  Color: Green
  Oper State: On

UCS-A /chassis/server #
```



第 10 章

SIOC 管理

- SIOC 管理 Cisco UCS Manager (135 ページ)
- SIOC の認識 (136 ページ)
- PCIe サポートがある SIOC に移行する (137 ページ)
- CMC のリセット (138 ページ)
- CMC セキュア ブート (139 ページ)

SIOC 管理 Cisco UCS Manager

Cisco UCS Manager を使用して Cisco UCS ドメイン 内のすべてのシステム I/O コントローラ (SIOC) を管理およびモニタできます。

SIOC の削除または交換

シャーシから SIOC の取り外しや交換ができます。SIOC の取り外しと交換はサービスに影響する操作であるため、シャーシ全体の電源をオフにする必要があります。

SIOC の取り外しのガイドライン

- アクティブな SIOC または両方の SIOC を取り外すには、シャーシ全体をシャットダウンして電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
- シャーシから SIOC を削除すると、シャーシ全体が Cisco UCS Manager から切断されます。

SIOC の取り外し

SIOC をシステムから取り外すには、次の手順を実行してください。

1. シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
2. SIOC をシステムに接続しているケーブルを取り外します。

3. システムから SIOC を取り外します。

SIOC の交換

SIOC をシステムから取り外し、別の SIOC に置き換えるには、次の手順を実行してください。

1. シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
2. SIOC をシステムに接続しているケーブルを取り外します。
3. システムから SIOC を取り外します。
4. 新しい SIOC をシステムに接続します。
5. ケーブルを SIOC に接続します。
6. 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。
7. 新しい SIOC を認識させます。

置き換えられた SIOC に接続されているサーバを再度検出します。



- (注) 置き換えられた SIOC のファームウェアのバージョンがピア SIOC と異なる場合、シャーシプロファイルの関連付けを再度トリガーして、置き換えられた SIOC のファームウェアを更新することが推奨されます。

SIOC の認識

Cisco UCS Manager にはシャーシの特定の SIOC を認識する機能もあります。シャーシの SIOC を交換したときには、次の手順を実行します。



- 注意** この操作では、SIOC とその接続先ファブリック インターコネクタとの間に、ネットワーク接続が再構築されます。この SIOC に対応するサーバは到達不能になり、トラフィックは中断されます。

手順の概要

1. UCS-A# **scope chassis chassis-num**
2. UCS-A /chassis # **acknowledge sioc {1 | 2}**
3. UCS-A /chassis* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis chassis-num	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # acknowledge sioc {1 2}	シャーシで指定した SIOC を認識します。
ステップ 3	UCS-A /chassis* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次の例では、SIOC 1 を認識し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope chassis 3
UCS-A /chassis # acknowledge sioc 1
UCS-A /chassis* # commit-buffer
UCS-A /chassis #
```

PCIe サポートがある SIOC に移行する

始める前に

Cisco UCS Manager がリリース 4.0(1a) 以上であることを確認してください。

手順の概要

1. シャーシとサーバのファームウェアを 4.0(1) リリースにアップデートします。
2. シャーシの稼働を中止します。
3. シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
4. SIOC をシステムに接続しているケーブルを取り外します。
5. システムから SIOC を取り外します。
6. 新しい SIOC をシステムに接続します。
7. ケーブルを SIOC に接続します。
8. 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。
9. 新しい SIOC を認識させます。

手順の詳細

ステップ 1 シャーシとサーバのファームウェアを 4.0(1) リリースにアップデートします。

ステップ 2 シャーシの稼働を中止します。

- ステップ 3** シャットダウンして、シャーシ全体の電源を切ります。完全に電源を切るためには、すべての電源コードを抜く必要があります。
- ステップ 4** SIOC をシステムに接続しているケーブルを取り外します。
- ステップ 5** システムから SIOC を取り外します。
- ステップ 6** 新しい SIOC をシステムに接続します。
- ステップ 7** ケーブルを SIOC に接続します。
- ステップ 8** 電源コードを接続し、システムの電源をオンにします。
- ステップ 9** 新しい SIOC を認識させます。

CMC のリセット

手順の概要

1. UCS-A# **scope chassis chassis-num**
2. UCS-A /chassis # **scope sioc {1 | 2}**
3. UCS-A /chassis/sioc # **scope cmc**
4. UCS-A /chassis/sioc/cmc # **reset**
5. UCS-A /chassis/sioc/cmc* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis chassis-num	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # scope sioc {1 2}	シャーシで指定した SIOC を入力します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/sioc # scope cmc	選択した SIOC スロットの CMC を入力します。
ステップ 4	UCS-A /chassis/sioc/cmc # reset	CMC をリセットします。
ステップ 5	UCS-A /chassis/sioc/cmc* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、SIOC 1 の CMC をリセットし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A /chassis # scope sioc 1
UCS-A /chassis/sioc # scope cmc
UCS-A /chassis/sioc/cmc # reset
UCS-A /chassis/sioc/cmc* # commit-buffer
```

CMC セキュア ブート

Chassis Management Controller (CMC) のセキュア ブートにより、シスコの署名が付加されたファームウェア イメージのみインストールでき、CMC で実行できます。CMC が更新されると、イメージは、ファームウェアがフラッシュされる前に認証されます。認証に失敗すると、ファームウェアはフラッシュされません。これにより、CMC ファームウェアへの不正アクセスを防止します。

CMC セキュア ブートの注意事項と制約事項

- CMC セキュア ブートは、Cisco UCS S3260 シャーシ上でのみサポートされます。
- シャーシの関連付けの実行中、1 つの SIOC でセキュア ブートを有効にすると、操作は失敗します。
- CMC セキュア ブートを有効にした後で、無効にすることはできません。
- CMC セキュア ブートはそれが有効にされた SIOC に固有です。CMC セキュア ブートが有効になっている SIOC を置き換えると、[Secure boot operational state] フィールドには新しい SIOC のセキュア ブートのステータスが表示されます。
- CMC セキュア ブートがシャーシで有効にされると、そのシャーシをスタンドアロンモードに戻すことはできず、CMC のファームウェア イメージを Cisco IMC リリース 2.0(13) 以前にダウングレードできなくなります。
- [Secure boot operational state] フィールドには、セキュア ブートのステータスが表示されます。次のいずれかになります。
 - Disabled : CMC セキュア ブートが有効ではありません。これは、デフォルトの状態です。
 - Enabling : CMC セキュア ブートが有効化されています。
 - Enabled : CMC セキュア ブートが有効化されました。
- 4.0(1)以降では、**セキュア ブート動作状態**がデフォルトで **[Enabled]** の状態になっており、ユーザーは設定できません。オプションがグレー表示されます。

CMC セキュア ブートの有効化

Cisco UCS Manager リリース 3.1(2) には、Cisco が署名したファームウェア イメージのみをシャーシ管理コントローラ (CMC) にインストールして実行できるように、CMC のセキュア ブートを有効にするための機能が追加されています。

手順の概要

1. UCS-A# **scope chassis chassis-num**

2. UCS-A /chassis # **scope sioc** {1 | 2}
3. UCS-A /chassis/sioc # **scope cmc**
4. UCS-A /chassis/sioc/cmc # **enable secure-boot**
5. UCS-A /chassis/sioc/cmc* # **commit-buffer**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope chassis <i>chassis-num</i>	指定したシャーシでシャーシモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /chassis # scope sioc {1 2}	シャーシで指定した SIOC を入力します。
ステップ 3	UCS-A /chassis/sioc # scope cmc	選択した SIOC スロットの CMC を入力します。
ステップ 4	UCS-A /chassis/sioc/cmc # enable secure-boot	CMC セキュア ブートを有効にします。 セキュア ブートの状態が enabled のときにこのコマンドを実行すると、Cisco UCS Manager はエラーメッセージを表示して、操作は失敗します。 (注) この操作は、元に戻すことができません。 CMC セキュア ブートを無効にすることはできません。
ステップ 5	UCS-A /chassis/sioc/cmc* # commit-buffer	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

例

次に、SIOC 1 上で CMC セキュア ブートを有効にし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope chassis 1
UCS-A /chassis # scope sioc 1
UCS-A /chassis/sioc # scope cmc
UCS-A /chassis/sioc/cmc # enable secure-boot
Warning: This is an irreversible operation.
Do you want to proceed? [Y/N] Y
UCS-A /chassis/sioc/cmc* # commit-buffer
```